

2 包含層遺物

近世該当の包含層から出土した遺物は、磁器 100 点、陶器 682 点、古銭 4 点である。このうち、図化した遺物を以下に掲載する。掲載に際しては、まず各遺物を用途により大別し、その後それらを器種毎に細分する手法をとった。

(1) 食膳具

食膳具として、碗 55 点、皿 19 点、蓋 3 点、土瓶 15 点、徳利 6 点がある。碗・皿は、磁器・陶器別にとりあげる。

ア 磁器碗 (第 147・148 図 1090~1108)

1100・1108 以外は透明釉がかかる。胎土の多くは白色で、1093・1094・1102 は灰白色。1096・1097 は黄白色。1100 は黄灰色。1101・1103 は灰色である。

1090~1093 は、18 世紀中頃の肥前窯器の丸碗である。1090 は口縁部片で、外面に青磁釉がかかる。1092 は、高台が高く、内底面に「長命富貴 金玉滿堂」、外底面に「長命富貴」の文字が描かれる。1093 は口径 9.9cm、波佐見焼の口縁一胴部片である。外面に草花文を描く。

1094~1096 は、18 世紀後半頃の碗の口縁部である。1094・1095 は肥前窯器である。1094 は口径 11.0cm の底部近くまでの破片で、外面に樓閣山水紋が描かれている。1095 は外面に葉草文、内面に團線が描かれる。

1096 は薩摩窯器である。

1097~1102 は 18 世紀後半の筒形碗で、1100 以外は肥前窯器である。1097 は口縁部片で、1098・1099 はともに口径 8.0cm の口縁部から底部近くの破片である。1098 は器高 5.4cm で、外面に山水文、内面に四方襟文と團線を描く。1099 は外面に葉草文が描かれる。1100 は、残存部分の最大径 7.9cm の胴中央部で、内底に 2 条の團線を描き、施釉されて灰白色を呈するが、外底に釉切れが 4 か所ある。1101・1102 は、外面に團線を描く底部である。1101 は底径 5.0cm で、内外面ともに團線が描かれる。1102 は底径 3.9cm、細く高い高台で、外面には團線が描かれる。

1103~1108 は、19 世紀初めから前半の碗で、1103 は肥前、1104~1108 は薩摩の磁器である。

1103~1107 は端反碗である。1103~1106 は安定した高台の付く底部で、見込みに蛇の目釉剥ぎ (1103・1105~1107)、砂目 (1107) がある。1104 は外面に岩波文が描かれる。1107 は口径 10.6cm、器高 5.4cm、底径 3.8cm で、ほぼ完形である。外面には葉草文が描かれる。

1108 は口径 6.9cm、口縁～底部近くの破片である。

イ 陶器碗

肥前陶器 4 点、薩摩焼 26 点、その他 6 点がある。

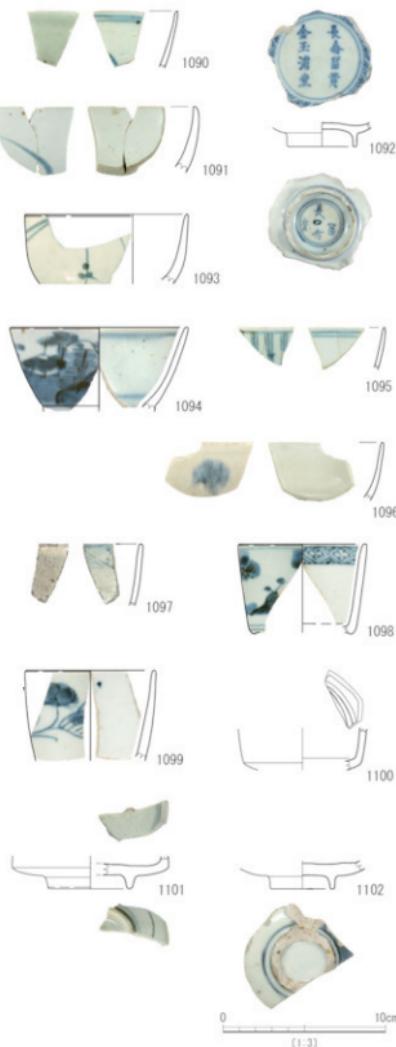
① 肥前陶器 (第 147 図 1109~1112)

1109~1112 は肥前陶器である。

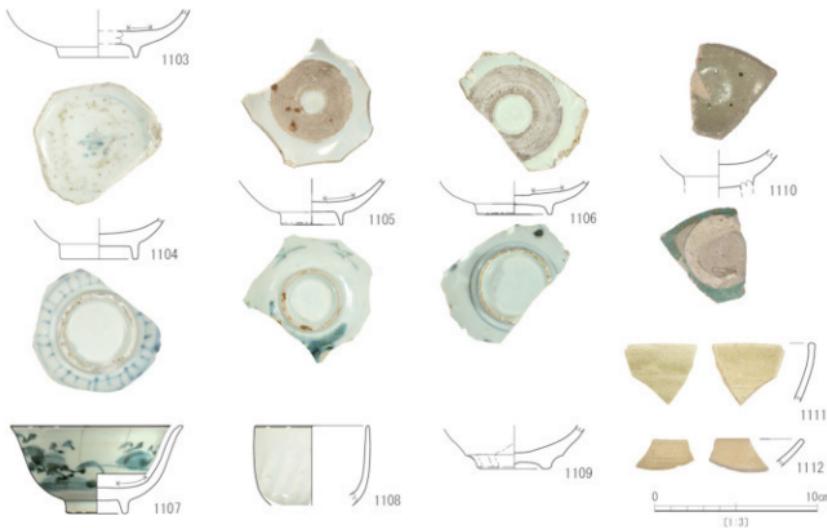
1109 は底径 4.8cm、16 世紀末から 17 世紀初頭の胴下部～高台部分で、外面下部のはほとんどは露胎だが、上部は黄味を含む黒色釉が施され、下部には分厚く釉垂れが

みられる。内面は同じような釉がかかる。

1110 は 17 世紀後半から 18 世紀前半の内野山系碗の底部である。胎土は黄灰色を呈する。外底面は無釉、内



第 147 図 碗 (1)



第148図 碗(2)

面は透明釉、外面は銅緑釉がかかる。

1111・1112は口縁部で、浅黄色の胎土に透明釉がかかる。1112は、皿の口縁部の可能性がある。

(2) 蔽窯焼 (第149図 1113~1138)

1113~1138は、龍門司系の碗で、胎土の粒子は細かい。1114・1115はほぼ完形である。1114は、口径11.5cm、底径4.5cm、器高6.0cmで、分厚い底部から丸みを帯びて立ち上がり、口縁端部はとがり気味となる。豊付以外は鉄釉が施釉される。1115は、口径10.9cm、底径4.4cm、器高5.3cmで、1114と比べやや浅い器形だが、逆台形状の幅広の高台が付き、口縁端部は丸みをもっている。口縁部は内外とも厚く施釉される。1114・1115とともに、内底部分は蛇の目釉剥ぎである。胎土の色調は、1114がにぶい赤褐色で1115が黄灰色である。1114の外底面は露胎である。釉色は、1114は暗赤褐色、1115の口縁部は極暗赤褐色で鉄釉部分は赤黒色を呈する。

1113・1116~1121は胴から高台部分で、底径は、1116が5.4cm、1118が4.6cm、1119・1121が5.0cmである。1113は、底径4.2cmで外底面も施釉された古手である。1116の胎土は白色石を含む。色調は、1113は浅黄色、1116・1119・1120は赤褐色、1117・1121はにぶい褐色、1118は橙色である。1115~1121の高台は無釉で、1115・1124の豊付、1116・1131の高台・豊付、1118の外底面、1119の豊付・外底部、1120・1121の高台内と高台の一部は露胎である。施釉部分は、1113は赤褐色、1117は外面

が黒色、内面中央は極暗赤褐色で鉄釉部分が赤黒色、1118は暗オリーブ灰色、1119は黒褐色、1120はオリーブ褐色、1121は灰赤色を呈する。1116~1121は見込みに蛇の目釉剥ぎがある。1117は、底径4.4cm、高台内の底面下部に切り込みがある。1118の内底は暗赤褐色に施釉される。1120は、底径5.2cmである。

1122~1128は、同じく龍門司系だが白化粧土の製品である。1122は、口径11.6cm、底径5.0cm、器高5.3cmのほぼ完形である。分厚い底部から外へ開きながら直線的に伸びる器形を呈し、口縁端部はとがり気味となる。外へ開く分厚い高台が付く。高台・豊付は露胎で、施釉部分は、内面が灰黄色、外面が一部に釉のムラがあり、下部は緑色が強い灰黄褐色を呈する。1123は口径11.8cmの口縁・脚部片で、やや丸みを帯びた器形を呈し、口縁端部はとがり気味となる。外面下部の釉色はにぶい黄褐色である。

1124・1125・1127は胴・高台部分である。1127の高台は逆台形を呈し高い。1124は底径5.1cm、高台は低いが幅は2.5~6.0mmと広狭が顕著である。豊付から底は露胎、外面下半は透明釉がかかり灰オリーブ色、上半は白色釉がかかり、境付近で釉重れが数か所ある。1125は底径4.2cmで高台が低い。胴下部の一部と高台は露胎、施釉部は外面は灰オリーブ色を呈し、内面は4か所の砂目がある。1126は口径10.0cm、小碗の口縁・脚部である。胴部と口縁部の境には明瞭な屈曲部がある。1127は底径4.7cm、高台・外底部は露胎、内面及び外面上部は灰



第149図 碗(3)



第150図 壊・碗

色、外外面下部は黒褐色に施釉される。1128は底径4.6cm、底部～高台部分で、高台内外は露胎、にぶい黄褐色に施釉される。胎土の色調は、1122・1123は赤褐色、1124は暗灰黄色、1125・1126は灰褐色、1128は浅黄色である。施釉部は、1122・1124の外面上部、1123の外面上部から内面、1125の内面、1126は灰白色を呈する。1122・1123・1127・1128は、見込みに蛇の目釉剥ぎがある。

1129～1132は、底部から高台部分で、見込みに蛇の目釉剥ぎがある。1129～1131は胴部で立ち上がる器形になる。1129は底径5.0cm、胎土は黄灰色、底部から高台部分は露胎で灰色、内外面は灰オリーブ色を呈し、見込みに砂目がある。1130は底径4.4cmで、腰折れがある。白色石を含む胎土は橙色、豊付から高台内面は露胎、化粧土と透明釉がかかり、外面下半はにぶい黄褐色、外面上半から内面は灰白色に施釉され、貫入がある。1131は底径4.7cm、胎土は赤褐色である。高台は露胎、施釉部は褐色を呈する。1132は底径4.8cm、胎土は灰白色である。豊付部分は露胎、施釉部は明オリーブ灰色を呈し、外底端に砂粒が付着する。皿の可能性もある。

1133～1138は、鉄釉が施されて黒褐色を呈する口縁部片である。丸みのある器形を呈し、口縁端部も細く丸みを帯びる。口径は12.0～13.1cmである。胎土の色調は、1133・1134は赤褐色、1135が明黄褐色、1136・1137が橙色、1138が白石を含み褐灰色である。

ウ 壊・碗 (第150図 1139～1144)

1139～1141は、産地不明の壊である。1139は底径3.4cm、胴～高台部分である。底部と高台は段となり、高台端部は三角形状である。灰白色的細かい胎土で、胴下半～高台は露胎、浅黄色釉がかかり貫入がある。1140は底径5.0cmの底部片で、分厚い底部に逆台形の低い高台が付く。胎土は黄白色、外底部は白濁した釉が部分的にかかる。1141は底径3.8cmの底部片で、胎土は灰色、底部は露胎、青磁釉がかかり、内面2か所にトチン痕がある。

1142・1143は底径3.0cmの小壊の底部である。絵唐津の1142は淡赤色の胎土である。産地不明の1143の胎土は黄白色で、透明釉がかかり、見込みに目痕が1か所ある。

1144は口径8.6cm、底径4.6cm、器高6.2cmのはば完形で、龍門司焼系薩摩焼の鉢状を呈する碗である。外面に楕文が描かれる。胎土はにぶい黄褐色で、高台内は無釉、内外面に化粧土を施し、外面に透明釉がかかり、灰白色またはにぶい黄褐色、鉄絵は暗褐色を呈する。

二 皿

磁器9点と陶器10点がある。

① 磁器 (第151図 1145～1153)

1145～1153は、透明釉がかかった肥前系の磁器である。胎土は、白色・灰白色である。1145・1152の内面、1145・1148・1150の外面上には圓線が描かれ、1146・1149・1152・1153の見込みには蛇の目釉剥ぎ痕がある。

1145～1151は、18世紀代の皿である。1145・1146は、波佐見焼の皿の口縁部で、内面に菊唐草文を描く。1146は底部近くまで残り、口径12.0cm、器高1.8cmで、外面に唐草文を描く。1147～1151は底部片で、1148・1149の底径は8.0cmである。1147は底径7.0cmで、豊付に釉剥ぎと砂目がある。1148は、内面に草花文状の文様を描く。1150・1151は大皿である。1150は底径11.0cmで劣化が著しい。1151は底径7.8cmで内面に十字四方櫻文を描く。

1152・1153は碗の底部片で、低い高台が付き、内面には蛇の目釉剥ぎ痕がある。1152は底径4.6cm、1153は底径6.0cm。

② 肥前系陶器 (第151図 1154～1163)

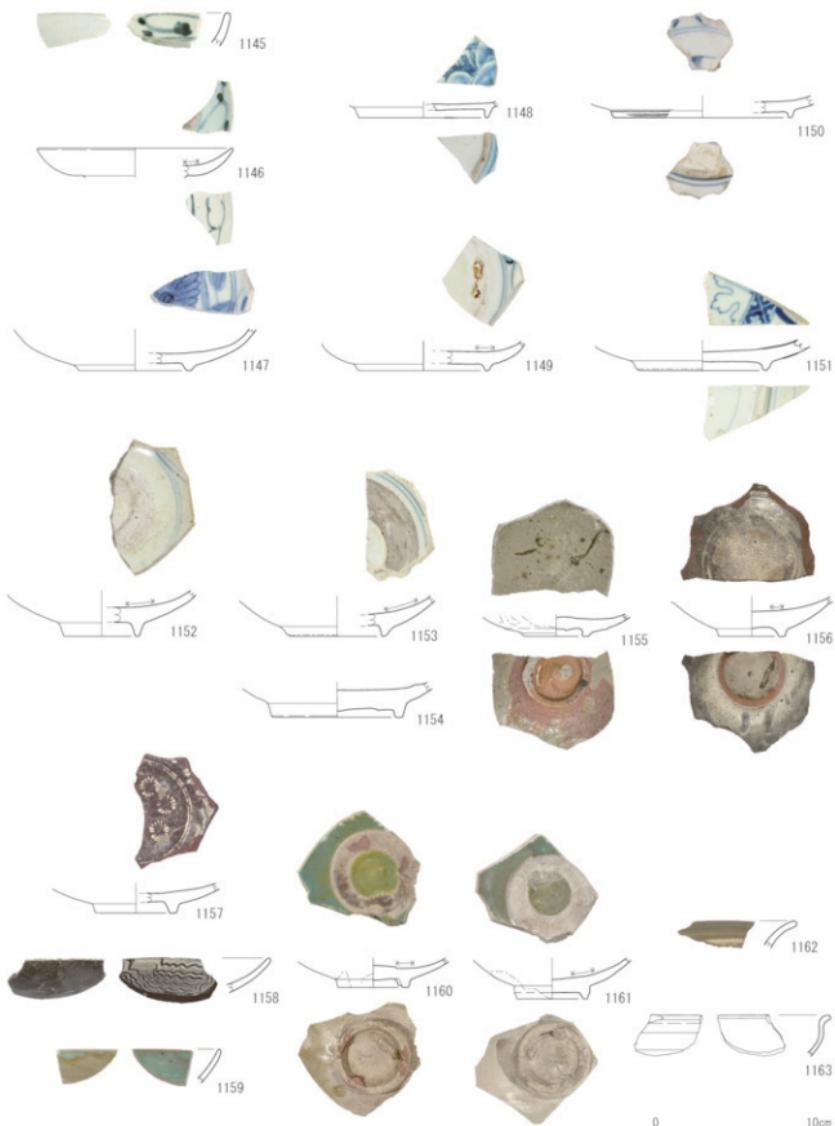
1154・1155は、16世紀末から17世紀初頭の唐津焼皿の底部である。1154は分厚い底部である。底径8.0cm、胎土は灰白色、外底面は部分的に透明釉がかかる。漳州窯の可能性もある。1155は底径4.0cm、胎土は灰白色、外下面部は無釉部が目立ち、内面の一部に鉄釉がかかる。

1156・1157は、17世紀初頭から前半の三島手の唐津焼碗の底部で、見込みは2条圓線に囲まれた菊文のスタンプが押され、象嵌状を呈している。胎土は赤褐色である。1156は底径4.2cmで見込みに目痕が3か所あり、1157は底径5.0cmである。

1158は、唐津焼皿の口縁部片で、内面には櫛状の波状文が施される。暗赤褐色の胎土である。

1159～1161は、内野山系の陶器碗で、外面に透明釉がかかる。1159は口縁部片で、胎土は灰色、内面は銅緑釉をかけ分ける。1160・1161は底径4.5～4.6cmの底部で、胎土は黄灰色、外底面は無釉、内面には透明釉がかかり、見込みに蛇の目釉剥ぎがある。1160は、高台内に胎土目がみえ、釉剥ぎの上にトチン痕が残る。

1162・1163は外反する碗の口縁部片で、胎土は、1162が黄褐色で1163が灰白色である。1163は、鉄釉が施され黒褐色を呈する。



第151図 盤

才 蓋 (第152図 1164~1166)

1164は倒壠状の蓋である。胎土は灰白色で、内面に透明釉、外面に青磁釉がかかる。1090と施釉法が似ている。

1165は肥前系磁器の蓋で、天井部が外側へ張り出している。胎土は白色、透明釉がかかる。1166は、陶器・磁器の区別が不明で、口径10.0cm、器高2.8cm、底径12.8cmである。胎土は黄色、内面は無釉で、上面に文様がある。

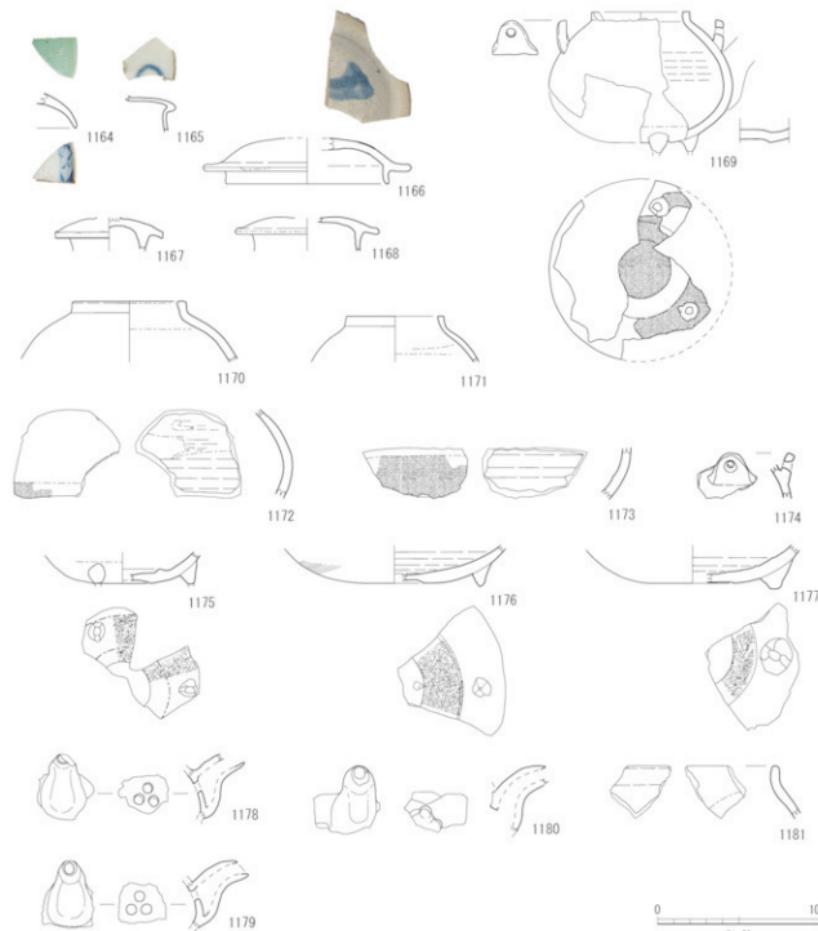
才 土瓶 (第152図 1167~1181)

1167~1181は、18世紀後半から19世紀の苗代川系薩摩焼の土瓶である。石英・白石を胎土に含むものが多い。

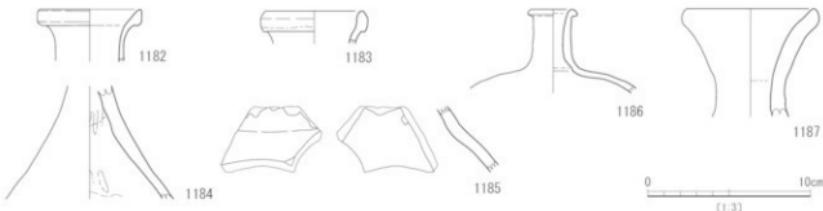
1173・1174・1178・1180の胎土はにぶい褐色である。1167・1172・1175の施釉部は黒褐色を呈する。

1167・1168は上面のみ施釉された蓋で、胎土は、1167が赤褐色で1168が灰褐色である。1168は施釉部も灰色を呈する。

1169は、口径6.0cm、底径3.6cm、器高8.7cmの完形品



第152図 蓋・土瓶



第 153 図 德利

で、胎土は褐色、外面胴部下位～底部は露胎だが煤が付着しているため黒褐色を呈する。口縁部は直に立ち上がり、胴部は丸みを帯びている。両側に把手が付き、片方に注ぎ口がある。底部には3か所に低い脚が付く。

1170・1171は口縁部片である。1170は口径7.0cm、胎土はにぶい赤褐色、内面は無釉、施釉部は極暗褐色を呈し、口唇部は釉剥離される。1171は口径6.0cm、胎土はにぶい黄褐色、口唇部～内面上部は無釉、施釉部は暗褐色を呈する。

1172・1173は、丸みを帯びた胴部片である。1172は、胎土は赤褐色、外面下半に煤が付着する。1173は、施釉部は灰オリーブ色を呈し、腰部以下は無釉で煤が付着する。

1174は、孔を穿たれた耳部分である。

1175～1177は底部で、1175は脚が2本、1176・1177は脚が1本残る。1175・1176は底径3.6cmである。1175は、胎土が灰褐色、外面の腰部以下が無釉である。1176は、胎土が褐色、施釉部が暗灰黄色で外底面の窓道具跡と考えられる部分のみ黒褐色を呈する。1177は底径5.0cm、無釉で大きめの脚をもつ。

1178～1180は注ぎ口である。1178・1179は茶止め穴が三つあり、1180も残存形状から本来三つあったと考えられる。1178は施釉部が暗オリーブ褐色を呈する。1179は、胎土が暗褐色、施釉部が暗オリーブ灰色を呈する。1180は胎土がにぶい褐色を呈する。

1181は口縁部で、胎土は石英を含むにぶい褐灰色、外面下部は無釉、施釉部は灰褐色を呈する。注ぎ口内側が一つ穴で、三つの茶止め穴をもつ通常の土瓶とは用途が異なるか、土瓶に先行する鍋・釜からの派生なのか不明である。

キ 德利（第 153 図 1182～1187）

1182～1185は、17世紀後半から18世紀前半頃の苗代川系蘿摩焼の德利である。1182～1184は、堂平窯産の可能性がある。

胎土は、石英・白石を含み、1182は暗赤灰色、1183・1185は灰色、1184は灰黄色である。いずれも鉄釉が施される。1182・1183はオリーブ黒色を呈する口縁部で、1182は口径6.4cmで17世紀後半頃、1183は口径6.6cm

で17世紀のものと考えられる。1184・1185は頭部～胴部の破片で、1184の内面下部は無釉、施釉部は黒褐色を呈し、1185の施釉部はオリーブ灰色を呈し、内面には鉄分と考えられる黒斑がみられる。

1186・1187は、1182～1185より新しい蘿摩焼の口縁部である。1186は口径3.1cmの細首の口縁部で、端部は外へ広がっている。肩部は外へ張っている。胎土は石英を含む褐灰色、施釉部は暗赤褐色を呈する。1187は口径が8.4cm、外反する分厚い龍門司系蘿摩焼で壺の可能性もある。胎土はにぶい褐色、内面は無釉、化粧土に透明釉が施されている。

(2) 貯蔵具

貯蔵具は、鉢・擂鉢18点、蓋2点、壺・甕16点がある。

ア 鉢（第 154 図 1188～1194）

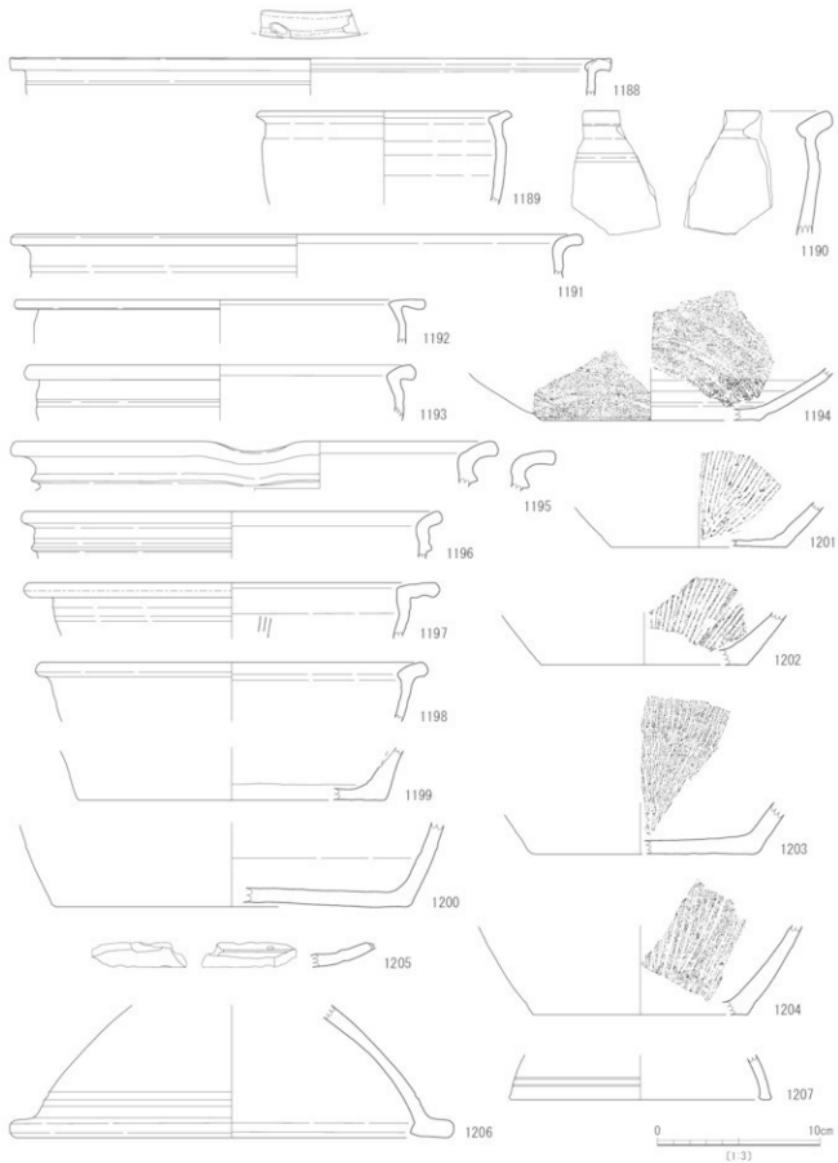
いずれも、苗代川系蘿摩焼である。

1188～1190は、18世紀後半と考えられる片口鉢の口縁部片で、口唇部は無釉、施釉部はオリーブ黒色を呈する。胎土の色調は、1188・1189は暗褐色、1190は赤褐色である。1188は、口径37.7cmのL字状口縁で口唇部に貝目が残る。1189は、口径15.7cmで内側がやや下がる。1190は、1189よりもさらに内側が下がる口縁で、胎土に小理・砂粒を含み、鉄釉を施される。

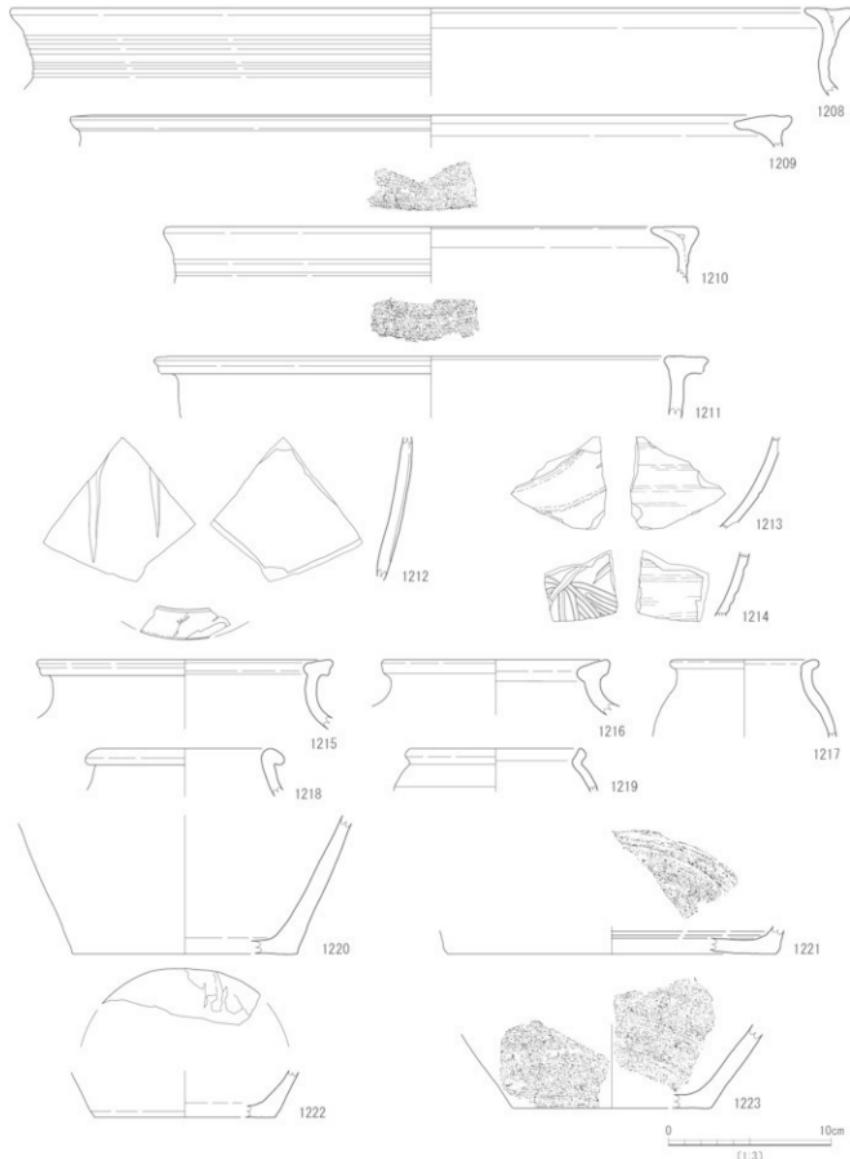
1191～1194は、施釉部がオリーブ黒色を呈する18世紀後半頃の鉢である。1191は丸みを帯びたL字状口縁、1192は鋸先状口縁、1193は端部の分厚いL字状口縁である。1191～1193は口唇部が無釉の口縁部、1194は底部である。胎土は、1192・1194は石英、1192は白石を含み、1191は暗褐色、1192～1194はにぶい赤褐色である。口径は、1191が35.1cm、1192が25.2cm、1193が24.0cmで鉄釉が施される。1194は、底径13.3cmの安定した平底で外底面から脇下部は無釉である。

イ 擂鉢（第 154 図 1195～1204）

1195～1198は、口縁部で内側がやや下がるL字状を呈する。いずれも胎土に石英を含み、口唇部は無釉である。口径は、1195は29.9cm、1196は25.8cm、1197は25.4cm、1198は24.0cmである。胎土の色調は、1195は赤褐色、1196は暗褐色、1197は灰黃褐色、1198は褐灰色である。



第154図 鉢・擂鉢・蓋



第155図 壺・壺

注ぎ口をもつ 1195 の口縁内面は無釉である。1196 の内面上部は無釉である。1197 の内面に三条の摺目がある。1195・1197・1198 はオリーブ黒色、1196 は黒褐色に施釉される。

1199~1204 は安定した平底である。底径は、1199 が 18.8cm、1200 が 22.2cm、1203 が 14.6cm、1204 が 13.2cm、1202 が 12.6cm、1201 が 10.8cm で、1201~1204 は内面に摺目をもつ。胎土は、1199~1204 が石英、1203・1204 が白石を含む。色調は、1199 が灰褐色、1200・1202~1204 が赤褐色、1201 が褐灰色である。1203 の外底面は無釉、施釉部は 1200・1201・1203 がオリーブ黒色、1199・1202・1204 が黒褐色を呈し、1201 は部分的に剥落がみられる。

擂鉢は、ほかに、近世土坑墓 4 号の埋土から 1075 が出土している。

1205 は、器種・産地とも不明であるが、鉢の底部の可能性がある。中国釉薬を施されている可能性もあり、中世にさかのぼることも考えられる。

ウ 蓋 (第 154 図 1206・1207)

1206・1207 は苗代川系薩摩焼の器種不明の蓋である。1206 は底径 27.4cm の L 字状、1207 は底径 16.0cm で肥厚する。1206 は石英を含む褐色、1207 は砂粒を含む赤褐色で、口唇部は無釉となり、施釉部は、1206 は暗オリーブ褐色、1207 は鉄釉が施されオリーブ黒色を呈する。

1206 は鉢の可能性もある。

エ 壺 (第 155 図 1208~1214)

1208~1214 は、苗代川系薩摩焼の壺である。

1208~1211 は口縁部である。1208 は、口径 51.8cm と大型の資料で頭部から強く外反し口縁端部は内外に張り出している。外部に粘土を貼り付けている。1209 は、口径 44.4cm で 1208 と同じく内外に肥厚しているが、特に内側が鋭く突出している。1210 は、口径 32.8cm で内側へ強く突き出しているが、そこから粘土を外へ折り曲げている。1211 は、口径 34.0cm の L 字状に曲がる資料で口唇部には四線が巡る。1210 と 1211 は天井部をハケ様の道具でナデしている。

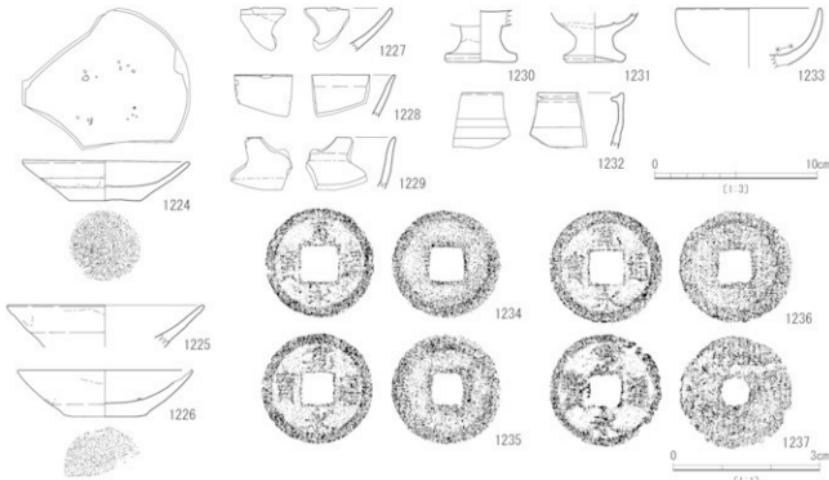
胎土には、1208 が白石、1210・1211 が石英を含む。色調は、1208・1210 が赤褐色、1209 が褐灰色、1211 がぶい黄色で、1210・1211 の口唇は無釉である。1208 の施釉部は暗オリーブ褐色を呈する。1210 の施釉部は黒褐色を呈する。1211 の施釉部は灰オリーブ色を呈する。

1208・1209 は 18 世紀前半から中頃、1210 は 18 世紀代、1211 は 18 世紀後半から 19 世紀と考えられる。

1212~1214 は胴部片で、胎土は石英・白石を含む赤褐色、鉄釉部分がオリーブ黒色を呈し、外面に搔き落とし文を施す。1213 と 1214 は同一個体と考えられる。

オ 壺 (第 155 図 1215~1219)

1215~1219 は、苗代川系薩摩焼の壺口縁部である。1215・1216 は大型、1217~1219 は中小型である。1215・1216 は口縁端部が内外に張り出し、さらに 1215 の外面には凹線が施される。1217 は、緩やかな L 字状口縁でナデ肩状の器形を呈する。1218 は、口唇部が下がる。1219 は、くの字状口縁で胴部は外へ張る。口径は、1215 が



第 156 図 灯明皿・仏具・古銭

18.2cm, 1216 が 14.0cm, 1217 が 9.1cm, 1218 が 12.2cm, 1219 が 11.0cm である。

白石・石英などを胎土に含む。胎土の色調は、暗褐色、にぶい褐色、灰色、にぶい橙色、にぶい赤褐色である。1216・1217 の口唇部と 1218 の内面は無釉、1218 は鉄釉が施され、施釉部は、1215・1217 はオリーブ黒色、1215 の内面は灰白色、1216・1218 は黒褐色、1219 は暗褐色を呈し、1215・1216 は口唇部に目痕が残る。1219 の口縁部は、中世の中国製陶器壺の形状に似る。

カ 壺・甕の底部（第 155 図 1220～1223）

1220～1223 は、苗代川系薩摩焼の壺・甕の底部片だが、鉢の可能性もある。いずれも安定した平底である。1220 は底径 13.7cm で、底面に目痕をもつ。1221 は底径 20.0cm で、筒状に立ち上がる可能性がある。1222 は底径 11.0cm、1223 は底径 12.2cm である。いずれも石英、1220 は白石、1223 は小礫を胎土に含む。胎土の色調は、褐灰色、暗灰黄色、にぶい赤褐色である。

施釉部分は、1220・1221 はオリーブ黒色、1222 は灰オリーブ色、1223 はにぶい黄色を呈する。1220 は外底面まで施釉された 18 世紀前半以前のもので、他は外底面が施釉されていないため、その後のものである。

(3) その他

他に灯明皿、仏具、古銭がある。

ア 灯明皿（第 156 図 1224～1229）

1224～1229 は、龍門司系薩摩焼の灯明皿である。1224～1227 は、外面口縁付近から内面が施釉される。1224 は、口径 10.3cm、器高 2.5cm、底径 4.4cm で糸切り底、胎土は橙色、施釉部は灰オリーブ色を呈し、内底 4 か所に砂目がある。1226 は、口径 10.8cm、器高 2.8cm、

胎土は灰黄褐色、施釉部は暗オリーブ色を呈し、残存部に胡麻目痕 3 か所がみられ、本来は 4 か所あったと考えられる。糸切り底、胎土は黒褐色で施釉部はオリーブ褐色を呈する。

1228・1229 の胎土は白石を含み、化粧土に褐釉を施す。胎土は、1228 はにぶい褐色、1229 はにぶい黄橙色である。

イ 仏具（第 156 図 1230～1233）

1230～1232 は龍門司系、1233 は苗代川系薩摩焼である。

1230・1231 は、高杯状仏具の下部から脚台部分で、胎土は細かい土で、脚台は露胎である。1230 は底径 4.4cm の浅い上げ底で、胎土は白石を含み、施釉部はオリーブ褐色を呈する。1231 は底径 3.8cm で、脚台はにぶい赤橙色で、外面上部は施釉されて灰白色を呈する。内面は赤褐色を呈し、胡麻目が付着している。

1232 は、香炉の口縁部で、口唇から外面は鉄釉が施され黒褐色を呈している。1233 は口径 9.0cm の口縁部で、暗褐色に施釉され、見込みは蛇の目釉剥ぎ取りが行われている。古手の小塊の可能性もある。

胎土の色調は、1230 がにぶい赤褐色、1231 が赤橙色、1232・1233 がにぶい黄橙色である。

ウ 古銭（第 156 図 1234～1237）

古銭が 4 枚出土している。

1234 は F - 27 区 I 層から、1235・1236 は E - 27 区 I 層から出土した寛永通寶である。1237 は、G - 41 区 II b 層から出土した。一部の刻字が判読しがたく、形状も他の 3 点とやや異なるが、寛永通寶と思われ、古寛永の可能性がある。

第3表 古代遺構出土土師器観察表

辨認番号	高さ cm	横幅 cm	厚 cm	取手 有無	器種	鉢底	口径 (cm)	底径 (cm)	沿高 (cm)	鉢形		色調		紹介 地名	構成 石	備考	
										外面	内面	底面	外面	内面			
15	1	F2	①	-	圓筒 土器	頸	口縁へ底	15.9	7.1	6.2	腹へラミガタ	腹へラミガタ	高台貼付 ナデ	にぶい黃緑	黒	○ ○ ○ ○	良好 瓦成 ミガタ

第4表 古代の土師器観察表

辨認番号	高さ cm	横幅 cm	出土区	層	取上 番号	器種	鉢底	口径 (cm)	底径 (cm)	鉢形		色調		紹介 地名	構成 石	備考
										外面	内面	底面	外面	内面		
2	E32	B a	11463	H	口縁 ～脚	(17, 0)	-	ナデ	ナデ	-	根	根	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 内面スズ		
3	F31	H	38420	H	底	-	10.2	ナデ	ナデ	板状圧痕	灰黄	にぶい黄～淡 黄	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 工具痕り		
4	K30	H	205914	底	底	-	6.1	ナデ	ナデ	～ナデ	にぶい黄～淡 黄	にぶい根	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 充実高台、外側一部 スズ		
5	S32	B a	11476	H	底	-	6.3	ナデ	ナデ	～ナデ	にぶい根	にぶい根	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 充実高台、内面スズ		
6	K30	H	24382	底	脚～底	-	6.7	ナデ	ナデ	～ナデ	浅黄	浅黄	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 充実高台		
7	L29	III a	34087	H	底	-	6.9	ナデ	ナデ	～ナデ	浅黄	浅黄	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 充実高台、内側スズ		
8	K28	H	23814	H	底	-	6.5	ナデ	ナデ	～ナデ	にぶい黄	にぶい黄	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 充実高台		
9	H42	B a	8837	底	高台	-	5.0	-	-	高台貼付	にぶい黄	灰	○ ○ ○ ○ ○ ○	普通 内面摩滅		
10	J28	H	23559	底	高台	-	(7, 4)	ナデ	ナデ	～ナデ	にぶい根	にぶい根	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 内面摩滅		
11	H30	H	24873	底	脚～底	-	-	ナデ	布底	～ナデ	にぶい黄	にぶい根	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 外側スズ		
12	L28	I	-	大底	脚～底	(12, 9)	(10, 0)	ナデ	ナデ	板状圧痕	にぶい黄	にぶい黄	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 寸法: 2.8cm, 耳既無		
13	J28-30	I, H	24166	脚	口縁	-	-	ナデ	口縁～ハラマ 脚～脚	-	根	根	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 口肩：肥厚		
14	J28	H	23565	脚	口縁	-	-	ナデ	ナデ	-	にぶい脚	にぶい脚	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 内面スズ		
15	J28	H	24260	脚	口縁	-	-	ナデ	～ナデ	～ナデ	根	根	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 口肩：肥厚		
16	J28	H	23569	脚	口縁	-	-	ナデ	口縁～ハラマ 脚～脚	-	根	根	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 口肩：肥厚, 内外ス ズ		
17	J28	H	25011	脚	口縁	-	-	ナデ	口縁～ハラマ 脚～脚	-	根	根	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 口肩：肥厚, 内外ス ズ		
18	J28	H	23568	脚	脚	-	-	ハラマ	脚～ハラマ	-	根	根	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 内面スズ		
19	K28	I	-	直	口縁	(10, 6)	-	ナデ	ナデ	-	にぶい脚	にぶい脚	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好		
20	I28	H	-	直	口縁	-	-	～ナデ	～ナデ	-	黒	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好		
21	F31	H	27625	H	口縁	-	-	～ナデ	～ナデ	-	黒	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好		
22	K29-30	H	27626	H	口縁	-	-	～ナデ	～ナデ	-	黒	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好		
23	G30	I	-	直	口縁	-	-	～ナデ	～ナデ	-	黒	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好		
24	H31	H	27627	H	脚～脚	-	-	～ナデ	～ナデ	-	黒	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好		
25	F25	I b	18435	H	脚～脚	-	(7, 5)	～ナデ	～ナデ	-	浅黄	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 手持ちハラマケリ。		
26	I30	H	23176	脚	口縁	-	-	～ナデ	～ナデ	-	浅黄	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 外側摩滅		
27	J29	H	26545	脚	口縁	(17, 0)	-	～ナデ	～ナデ	-	にぶい黄	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 直立剥離		
28	E29	H	24612	脚	口縁	(16, 5)	-	～ナデ	～ナデ	-	にぶい黄	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 外側摩滅		
29	H-130	I, H	26606	脚	口縁～脚	(15, 0)	-	～ナデ	～ナデ	～ナデ	にぶい黄	にぶい黄	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 外側摩滅		
30	E32	III a	16474	脚	口縁～脚	(15, 0)	-	～ナデ	～ナデ	～ナデ	にぶい黄	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 直立剥離内のナデ直 摩滅		
31	H30	H	24832	脚	口縁～脚	(16, 9)	-	～ナデ	～ナデ	～ナデ	浅黄	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 外側摩滅, 外面スズ		
32	G42	H b	10795	脚	口縁～脚	(16, 9)	-	～ナデ	～ナデ	～ナデ	にぶい黄 ～灰黄	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 外側スズ, 織りよい		
33	H31	H	28498	脚	口縁	(16, 0)	-	～ナデ	～ナデ	～ナデ	暗赤褐色～暗 灰	暗赤褐色～暗 灰	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 外側や地摩滅		
34	H42	H a	8867	脚	口縁	-	-	～ナデ	～ナデ	～ナデ	黒～にぶい 黄	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 外側スズ, 織りよい		
35	H30	H	28500	脚	脚	-	-	～ナデ	～ナデ	～ナデ	トゲ	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 外側摩滅		
36	K-130	H	23350	脚	脚	-	(9, 6)	脚～ナデ	脚～ナデ	脚～ナデ	にぶい黄	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 直立剥離		
37	J29-30	I, H	25096	脚	脚～脚	(7, 4)	-	ナデ	～ナデ	～ナデ	にぶい黄	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好		
38	H-130	H	24214	脚	脚～脚	-	6.6	～ナデ	～ナデ	～ナデ	一方の～ ナデ	ナデ	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 外側摩滅		
39	E31	H	28591	脚	高台	-	(7, 5)	ナデ	～ナデ	～ナデ	浅黄	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 内面スズ, 織りよ い		
40	F32	H	36964	脚	高台	-	(7, 6)	ナデ	～ナデ	～ナデ	にぶい黄	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好		
41	L29	H	33893	脚	脚～脚	-	(6. 9)	ナデ	～ナデ	～ナデ	高台貼付～ ナデ	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好		
42	F25	I	-	脚	脚～脚	-	(6. 5)	脚～ナデ	脚～ナデ	ナデ	浅黄	黒	○ ○ ○ ○ ○ ○	良好 外側摩滅, 外面スズ		

第4表 古代の土師器観察表

種別 番号	銘載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	調査		色調		胎土		地成	備考			
										外面	内面	底面	外面	内面	石	白 石	黑 石	白 石	黑 石	白 石
18	43	E32 G31	II, IIa	11407 11407	碗	脚~ 高台	~	(7.6)	~	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナダ	にぶい緑	黒	○	○	○	○	良好	外壁磨滅
	44	G24	II	~	碗	高台	~	(6.9)	~	ナダか	ヘラミガキ	ナダ	にぶい緑	黒	○	○	○	○	良好	内外スス
	45	G3	II	36958	碗	脚~ 高台	~	(6.7)	~	ナダ	ヘラミガキ	ナダ	浅黄緑	黒	○	○	○	○	良好	内外スス, 外面磨滅

※上部端2~19, 黒色上部20~44, 内赤上部45

第5表 古代の須恵器観察表

種別 番号	銘載 番号	出土区	層	取上 番号	器種	部位	調査		色調		胎土		地成		備考	
							外面	内面	外面	内面	白 石	基 石	黑 石	白 石	基 石	黑 石
46	I03	I	~	环	口縁	ナダ	ナダ	灰白	灰白	○	○	○	良好	外道やや剥離		
47	I07	II	18833	直	肩	ヘラ横ナダ	当て具 ~ヘラナダ	灰白	灰オリーブ	○	○	○	良好	削離深: 4.0cm 外側自然縫		
48	J20 K29 L28	I, II	25862	直	肩	ヘラ横ナダ	ヘラ横ナダ	灰白	灰白	○	○	○	良好	削離深: 20.6cm 外側表面白色化		
49	E31	III	16021	直	肩	ヘラ横ナダ	ヘラ横ナダ	灰	灰	○	○	○	良好	最大径: 23.0cm 外側×印伝, 肩一部自然縫		
50	F29	II	23506	直	肩	正熱子タタキ ~ヘラナダ	同心円当て具 ~ヘラナダ	灰	灰	○			良好			
19	51	I-J26-27	1, I c.	25062	甕	口縁	横ナダ	横ナダ	横白	暗赤	○	○	○	良好	口: 34.3cm 内: 黄白斑	
	52	I29	II	19794	甕	肩	朱赤タタキ	同心円当て具 ~ナダ	灰白	灰	○	○	○	良好		
	53	G43	I	9105	甕	肩	朱赤タタキ	同心円当て具 ~ナダ	灰白	灰	○	○	○	良好	青磁	
	54	F22	I	~	甕	肩	朱赤タタキ	同心円当て具	灰	灰	○			良好	外道やや磨滅	
	55	K29	I	~	甕	肩	朱赤タタキ	同心円当て具	灰赤	明赤	○	○	○	良好		
	56	E40	I a	~	甕	肩	朱赤タタキ	朱赤当て具	灰白	明灰	○	○	○	良好		
	57	D31	II b	16174	甕	肩	朱赤タタキ ~横ナダ	同心円当て具	灰	灰	○	○	○	良好	8と同一	
	58	I29	II	23897	甕	肩	朱赤タタキ ~横ナダ	同心円当て具	灰	灰	○	○	○	良好	8と同一	
	59	G31	II	37045	甕	肩	長格子タタキ ~部ヘラナダ	朱赤当て具	灰	灰	○	○	○	良好	上面やや擦き	
	60	I25	I	18075	甕	肩	朱赤タタキ	朱赤当て具	灰白	灰白	○	○	○	良好	~	

第6表 中世遺構出土土師器観察表

種別 番号	遺構 番号	遺構 番号 (位)	層	取上 番号	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	器高 (cm)	調査		色調		胎土		地成	備考			
											外 内面	底面	外 内面	底面	白 石	黑 石	白 石	黑 石			
62	62	S810	SK844	①	环	口~底	13.0	9.0	3.0	ナダ	不明	浅黄緑	○	○	○	○	○	○	普	内外青い摩滅	
63	63	245848	环	脚~底	~	~	7.0	~	~	ヘラ	ナダ切	浅黄緑	○	○	○	○	○	○	普	内外青い摩滅	
64	71	SK3	SK192	②	环	口~脚	~	~	~	~	~	~	灰	灰	○	○	○	○	普	外側青い摩滅	
65	72	73	SK3	SK192	③	小鉢	口~脚	~	~	~	~	~	灰	灰	○	○	○	○	普	外側青い摩滅	
66	79	SK11	SK301	④	小鉢	口~底	(8.7)	7.0	2.4	ナダ	系切ナダ	黒い剥離	○	○	○	○	○	○	普	口部、内外摩滅	
67	83	SL2	SK295	~	环	口~脚	(12.1)	~	~	ナダ	~	黒い剥離	○	○	○	○	○	○	普	物	
68	84	SL3	SK397	~	小鉢	底	(7.0)	~	~	ナダ	~	灰	灰	○	○	○	○	○	○	普	内側青土
69	85	SL1	SK149	⑤	小鉢	口~脚	~	~	~	ナダ	系切ナダ	黒い剥離	○	○	○	○	○	○	普	内側り	
70	107	SD6	SD13	⑥	17481	小鉢	口~底	(8.4)	6.4	1.9	ナダ	系切ナダ	根	○	○	○	○	○	○	普	内外青い摩滅
71	108	SD6	SD13	⑦	17478	小鉢	口~底	(6.2)	6.2	2.1	ナダ	系切	高い剥離	○	○	○	○	○	○	普	内外青い摩滅
72	109	SD6	SD13	⑧	17381	环	口~底	(14.8)	(11.1)	3.2	ナダ	系切	高い剥離	○	○	○	○	○	○	普	内外青い摩滅
73	124	SD7	SD26	⑨	23295	环	口~底	(12.4)	(9.0)	2.5	ナダ	不明	高い剥離	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅
74	125	SD7	SD27	⑩	23297	环	口~底	(10.6)	(8.5)	2.5	ナダ	不明	高い剥離	○	○	○	○	○	○	普	内外青い摩滅
75	153	SD8	SD35	⑪	25341	小鉢	口~底	~	~	ナダ	系切ナダ	高い剥離	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅	
76	154	SD8	SD35	⑫	25354	小鉢	口~底	(6.2)	(6.6)	2.3	ナダ	不明	高い剥離	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅
77	155	SD8	SD35	⑬	25358	小鉢	口~底	(10.0)	(7.0)	3.4	ナダ	不明	高い剥離	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅
78	165	SD13	SD25	⑭	23169	小鉢	口~脚	~	~	ナダ	不明	高い剥離	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅	
79	167	SD14	SD17	⑮	23167	小鉢	口~底	~	~	ナダ	系切ナダ	高い剥離	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅	
80	173	SD15	SD18	⑯	23165	小鉢	口~底	~	~	ナダ	系切ナダ	高い剥離	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅	
81	176	地1	SK251	~	环	口~底	(12.0)	(9.0)	2.5	ナダか	不明	灰白	灰白	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅
82	177	地2	SK48	⑰	24146	环	口~底	11.1	8.6	3.3	ナダ	系切ナダ	浅黄緑	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅, 粗分多
83	178	地2	SK48	⑱	24141	环	口~底	(12.0)	(8.6)	3.0	ナダ	不明	浅黄緑	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅
84	179	地2	SK48	⑲	24057	环	脚~底	~	~	ナダ	不明	浅黄緑	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅	
85	180	地2	SK48	⑳	24053	环	脚~底	~	~	ナダ	不明	浅黄緑	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅	
86	181	地2	SK48	㉑	24052	环	脚~底	~	~	ナダ	不明	浅黄緑	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅	
87	183	地3	SK170	㉒	STI-1	小鉢	完形	8.2	5.5	1.6	ナダ	系切	高い剥離	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅
88	184	地3	SK170	㉓	STI-2	小鉢	脚~底	(8.3)	6.1	1.4	ナダ	系切	高い剥離	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅
89	185	地3	SK170	㉔	STI-3	小鉢	底	~	7.0	~	ナダ	系切	高い剥離	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅
90	186	地3	SK170	㉕	STI-4	环	口~底	12.4	8.4	3.3	ナダ	系切	高い剥離	○	○	○	○	○	○	普	外側青い摩滅

第6表 中世遺構出土土器師器観察表

探査番号	発掘番号	遺構番号	遺構番号(III)	層	取上番号	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調査		色調		断土	既成	備考	
											外・内面	底面	外・内面	白・黒・石・岩	白・黒・石・岩			
75	199	572	SK30	-	ST2-4	羽垂	完形	6.0	5.0	4.0	ヘラ ナダ	ホロ ナダ	内・黄・黄褐色 外・明黄褐色～黒	○	○	曾	鉢と口縁が欠損する 外面スヌ	
202		①	16642	小皿	口～底	(8.8)	6.2	2.0	ナダ	ホロ	灰白	○	○	○	曾			
203		②	16644	小皿	口～底	8.2	6.1	2.0	ナダ	ホロ	浅黄褐色	○	○	○	曾	底部一部剥離		
76	204	ST3	SK59	①	16643	小皿	完形	8.8	6.6	1.5	ナダ	ホロ	灰白	○	○	曾	底部一部剥離	
205		②	16645	小皿	完形	8.9	6.8	1.5	ナダ	ホロ	浅黄褐色	○	○	○	曾	底部一部剥離		
206		③	16646	杯	口～底	(2.5)	7.4	3.5	ナダ	ホロ	灰白	○	○	○	曾	底部一部剥離		
207		④	16647	杯	口～底	(13.0)	-	-	ナダ	ホロ	灰白	○	○	○	曾	底部一部剥離		
208		⑤	30846	小皿	口～底	8.5	6.6	1.5	ナダ	ヘラ切～ナダ	浅黄褐色	○	○	○	良			
209		⑥	30848	小皿	口～底	8.8	7.5	1.2	ナダ	ヘラ切	灰白	○	○	○	良			
77	210	ST4	SK244	⑦	30847	小皿	完形	9.0	6.8	1.5	ナダ	ヘラ切～ナダ	灰褐色	○	○	○	良	
211		⑧	30849	小皿	完形	8.3	7.2	1.1	ナダ	ヘラ切～ナダ	灰褐色～灰	○	○	○	良	鉢分岐や多		
212		⑨	30848	小皿	口～底	8.8	6.8	1.5	ナダ	ヘラ切～ナダ	灰白	○	○	○	良			
213		⑩	STS-3	小皿	完形	9.4	7.7	1.5	ナダ	ヘラ切	明褐色	○	○	○	良			
214		⑪	STS-5	小皿	完形	9.0	7.0	1.5	ナダ	ヘラ切～ナダ	板状灰	○	○	○	良	見込み凹状の溝		
78	217	ST5	SK249	⑫	STS-6	小皿	完形	9.5	7.4	2.0	ナダ	ヘラ切～板状灰	板状	○	○	○	良	
218		⑬	STS-4	杯	口～底	(13.8)	(9.0)	2.1	ナダ	ヘラ切	板状灰	○	○	○	良			
219		⑭	STS-2	杯	完形	15.1	11.5	2.2	ナダ	ヘラ切～板状灰	内・明褐色 外・黄～青褐色	○	○	○	良			
222		⑮	STS-1	小皿	口～底	(10.0)	(8.0)	1.6	ナダ	ヘラ切～板状 灰～ナダ	暗灰褐色	○	○	○	良			
223		⑯	STS-2, 6	小皿	口～底	9.3	6.9	1.5	ナダ	複雑なへた切	外・黄～青褐色	○	○	○	良			
79	224		STS250	⑰	STS-5	小皿	口～底	8.8	6.6	1.5	ナダ	ホロ	黄褐色	○	○	○	良	
225		⑱	STS-4	小皿	口～底	9.4	7.8	1.7	ナダ	ヘラ切	板状灰	○	○	○	良			
226		⑲	STS-3	杯	口～底	12.0	8.0	2.3	ナダ	ヘラ切	板状灰	○	○	○	良			
83	226	P17550	P1818	⑳	杯	口～底	8.5	6.5	1.3	ナダ	ホロ	暗灰褐色	○	○	○	良		
227	P18	P1818	P18	㉑	小皿	口～底	8.5	6.5	1.3	ナダ	ホロ	暗灰褐色	○	○	○	良		
228	P11	P11	P11	㉒	-	杯	口～底	13.6	8.6	3.5	ナダ	ホロ	灰褐色	○	○	○	良	馬頭形、内外輪脚

第7表 中世遺構出土国産陶器観察表

探査番号	発掘番号	遺構番号	遺構番号(III)	層	取上番号	器種	部位	種別	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調査		色調		断土	既成	備考	
												外	内	外	内				
49	100	望2	SK257	-	-	縁鉢	完形	備前	31.4	14.4	12.1	横ナダ	底・ナダ	口・赤茶 脚・暗褐色 底・明褐色	横ナダ	○	○	○	10枚単位で12組 口部一部自然解
51	103	S83	SD12	-	13740	鉢	口縁	東播系	-	-	-	横ナダ	横ナダ	口・やや赤 底・ある黒 脚・灰色	灰	○	○	○	良 凸凹あり
54	115	SD6	SD13	-	-	鉢	底	東播系	(9.2)	-	-	ヘラナダ 底～切	ヘラナダ	灰	灰	○	○	○	良 内面使用痕
				116	17490	鉢	脚～底	東播系	(9.2)	-	-	ヘラナダ 底・切	ヘラナダ	灰	灰	○	○	○	良
				118	37293	鉢	脚	近世 高岡	-	-	(4.4)	-	-	黒	高岡灰	黒	○	○	良 脚下平～高台無輪 底地・底厚（高岡式）
57	133	SD7	SD9	①	25362	鉢	口縁～脚	東播系	(29.6)	-	-	横ナダ	横ナダ	横白	灰白	○	○	○	良 内・外輪脚
				②	25335	鉢	口縁	東播系	-	-	-	ヘラナダ	ヘラナダ	口・黒 脚・茶	灰	○	○	○	曾
				③	-	鉢	口縁	東播系	-	-	-	ヘラナダ	ヘラナダ	口・黒 脚・茶	灰	○	○	○	曾
				④	25332	鉢	口縁	東播系	-	-	-	横ナダ	横ナダ	口・暗茶 脚・茶	灰	○	○	○	良
				⑤	37247	鉢	底	東播系	9.6	-	-	ナダ	ナダ	黄灰	黄灰	○	○	○	良
				⑥	25293	広口 脚～カムイ 脚・ヤカ	脚	-	-	-	-	長筋ナタ 脚・一輪ナダ	脚・当て具 一輪ナダ	暗灰	灰	○	○	○	良 内部・暗赤
58	139	SD7	SD9	⑦	28111	縁鉢	圓面	-	(25.6)	-	-	ヘラナダ	ヘラナダ	暗い赤褐色	暗い赤褐色	○	○	○	良 縁き日6条
				⑧	25331	縁鉢	口縁買 土器	-	(24.2)	-	-	横ナダ	横ナダ	灰白	灰白	○	○	○	良 口縁一部・黒靴
				⑨	27978	縁鉢	口縁	備前	-	-	-	横ナダ	横ナダ	暗赤褐色	暗赤褐色	○	○	○	良 縁き日7条 内面・青色
				⑩	28021	縁鉢	口縁	備前	-	-	-	横ナダ	横ナダ	暗青灰	暗青灰	○	○	○	良 縁き日8条
				⑪	28017	縁鉢	口縁	備前	(28.4)	-	-	横ナダ	横ナダ	口・暗 脚・黒靴	暗赤褐色	○	○	○	良 内面・オーブ・黄色
				⑫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	良 内面・暗赤	

第7表 中世遺構出土國產陶器觀察表

所蔵 番号	開 拓 番号	遺構 番号	遺構 番号 (目)	層	取上 番号	器種	部位	種別	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調査		色調		胎土		組成	備考	
												外面	内面	外面	内面	白石	黒石	白石	黒石	
58	144 145 146 147	SD7 SD8	① ② ③ ④	25559 25522 26688 28024	標本 標本 標本 標本	口縁 ～脚	脚部	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	口縁～脚 脚部	脚部	白石	黒石	白石	黒石	○ ○ ○ ○	良	
												ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	黒灰	○ ○ ○ ○	○	○		良	縦き日8条 使用痕
												青施	黒灰	○ ○ ○ ○	○	○	○		良	内面一部黄色斑 内面加工痕
												反參	黒灰	○ ○ ○ ○	○	○	○		良	縦き日8条 使用痕
60	159	SD8	SD5	④	25582	標本	口縁 ～底	東腰系	(29.0)	9.0	9.9	横ナデ	横ナデ	灰	灰	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	良	直筋砂口瓶
64	164	SD12	SD51	①	22135	跡	口縁 ～脚	東腰系	—	—	—	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	口縫赤色 脚部	灰	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	良	
65	179	SD14	SD17	②	19456	標本	口縁 ～脚	東腰系	—	—	—	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	口縫白 脚部	灰黄	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	良	縦き日4条幅広
66	176	地1	SK251	①	33009	跡	口縁 ～脚	東腰系	—	—	—	横ナデ	横ナデ	口・黑 脚・黑	灰黄	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	良	
69	183	地3	SK170	—	—	標本	脚	脚部	—	—	—	不明	不明	黒い赤褐 黒	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	良	縦き日不明 施釉施施	
71	187	火1	SK234	⑨	—	跡	口縁 ～底	東腰系	(29.3)	(15.0)	11.0	口縁・ナデ 底・ハケナデ	横・斜位 ハケナデ	灰白	灰白	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	良	内面～口縫付近 灰
78	230	ST5	SK249	①	26617	跡	脚 ～底	東腰系	—	—	—	横ナデ	横ナデ	黄灰	黄灰	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	良	

第8表 中世遺構出土船來產陶磁器觀察表

所蔵 番号	開 拓 番号	遺構 番号	遺構 番号 (目)	層	取上 番号	種類	部位	種別	法量 (cm)	文様	胎土	釉裏 色調	施釉範圍	焼 成	产地	古 分類	分類	備考				
34	64 65 66	ST ST21	① ② ③ ④	下層 床 下層	7549 7594 7596 7597	碗 碗 碗 碗	口縁 ～脚 高台 ～脚	青施 青施 青施 青施	口径:18.0 口径:5.4 直徑:6.0 口径:(11.1)	— — — —	灰白 灰白 灰白 灰白	脚下平無輪 脚下平無輪 脚下平無輪 脚下平無輪	良	— 良 良 良	白灰 森田 D型	森田 D型	良	— 上田 上田 上田	上田 上田 上田 上田	上田 上田 上田 上田		
												灰白	脚下平無輪	良	—	白灰 森田 D型	白灰 D型	良				
												明オーリップ	灰白	明オーリップ	良	青釉 森田 5型	青釉 5型	上田 2-2型				
												灰白	脚下平無輪	良	—	白灰 森田 5型	白灰 5型	森田 多角 直筒 内面貫入				
36	74	SK93	SK192	—	25404	皿	口縁 ～脚	白	—	—	—	灰白	灰白	脚下平無輪	良	—	白灰 V型	V型				
38	79	SK82	SK202	①	25154	杯	口縁 ～脚	白	—	—	—	灰白	灰白	脚下平無輪	良	—	白灰 森田 5型	白灰 5型	上田 2-2型			
40	81	SK182	SK302	①	—	碗	脚 ～脚	青施	直径:6.0	見込:草花文	—	オーリップ	外底:高台 脚部	脚下平無輪	良	青釉 森田 5型	青釉 5型	I-2 I-2型				
43	82	SK25	SK178	—	22803	碗	脚	青施	—	—	—	灰白	明緑灰	脚下平無輪	良	青釉 森田 3型	青釉 3型	上田 B-6 型				
47	86	地1	SK149	①	23170	碗	口縁 ～脚	白	口径:11.1	—	—	灰白	灰白	脚下平無輪	良	—	白灰 V型	V型				
51	101 102	SD9 SD12	— —	13735 13736	碗	口縁 ～脚	青施	—	—	—	—	灰白	オーリップ	良	— 白灰 V型	V型						
												脚下高台 無輪	脚下高台 無輪	脚下高台 無輪	良	— 白灰 V型	白灰 V型	上田 2-2型				
54	110 111 112 113	SD6 SD6	① ② ③ ④	37284 37285 37289 37290	碗	脚 ～脚	白	青施	口径:(6.1) 直径:6.4 直径:5.8 内:花文	— — — —	灰白	脚下高台 無輪	良	— 良 良 良	白灰 森田 V型	V型	良	— 上田 上田 上田 上田	上田 上田 上田 上田	上田 上田 上田 上田	上田 上田 上田 上田	上田 上田 上田 上田
												明緑灰	脚下高台 無輪	良	—	白灰 V型	白灰 V型	良				
												オーリップ	脚下高台 無輪	良	—	白灰 V型	白灰 V型	良				
												脚下高台 無輪	脚下高台 無輪	脚下高台 無輪	良	— 白灰 V型	白灰 V型	良				
55	119 120	SD6 SD6	① ②	37289 30225	碗	脚 ～脚	白	青施	口径:(14.4) 口径:(18.0)	— —	灰白	脚下平無輪	良	— 良 良 良	白灰 V型 脚 ～脚	V型 脚 ～脚	良	— 上田 上田 上田 上田	上田 上田 上田 上田	上田 上田 上田 上田	上田 上田 上田 上田	
												オーリップ	脚下平無輪	良	—	白灰 V型	白灰 V型	良				
												脚下高台 無輪	脚下高台 無輪	脚下高台 無輪	良	— 白灰 V型	白灰 V型	良				
												脚下高台 無輪	脚下高台 無輪	脚下高台 無輪	良	— 白灰 V型	白灰 V型	良				
124	125	SD7	SD7	①	28055	碗	脚 ～脚	白	直径:3.9	—	—	淡黃	灰白	脚下高台 無輪	良	— 白灰 V型	白灰 V型	良	— 森田 D型	良		
126	127	SD7	SD7	②	23096	碗	脚 ～脚	青施	直径:3.6	—	—	白	明緑灰	脚下高台 無輪	良	— 白灰 V型	白灰 V型	良	— 森田 D型	良		
57	128 129 130	SD7 SD7	① ② ③	26515 28022 26910	碗	脚 ～脚	青施	青施	直径:6.6 直径:6.1 直径:7.2	内: B区画・草花文, 開削 内: 草花文带 内: 二重界線, 草花文印	黄灰 黄灰 黄灰	オーリップ	脚下高台 無輪	良	— 良 良 良	白灰 V型 脚 ～脚	V型 脚 ～脚	良	— 上田 上田 上田 上田	上田 上田 上田 上田	上田 上田 上田 上田	
												明緑灰	脚下高台 無輪	良	—	白灰 V型	白灰 V型	良	— 森田 D型	良		
												黄灰	脚下高台 無輪	良	—	白灰 V型	白灰 V型	良	— 森田 D型	良		
												淡黃	脚下高台 無輪	良	—	白灰 V型	白灰 V型	良	— 森田 D型	良		
128	129	SD7	SD7	①	26889	碗	脚 ～脚	青施	直径:5.8	—	—	灰白	オーリップ	脚下高台 無輪	良	— 白灰 V型	白灰 V型	良	— 森田 D型	良		
130	130	SD7	SD7	①	26910	碗	脚 ～脚	青施	直径:7.2	—	—	灰白	脚下高台 無輪	良	—	白灰 V型	白灰 V型	良	— 森田 D型	良		

第8表 中世構造出土船来産陶磁器観察表

序号	測量番号	遺構番号	遺構番号(III)	層	取土番号	器種	部位	種別	法量(cm)	文様	胎土色調	施釉範囲	焼成	产地	永吉分類	分類	備考
57	131	SD7	SD96	①	27975	陶	脚~高台	青磁	直径:5.2 高さ:5.2	見达:界線	灰	灰オーラブ	脚付~高台内 脚付	良	龍泉系 青磁系	上田 D-2類	
	132				29425	陶	脚~高台	青磁	-	内:連背文	灰白	オーラブ灰	高台内脚付	良	龍泉系 青磁系	-	買入
	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
60	155	SD8	SD95	⑤	25212	陶	口縁	白磁	口径:(16.0)	-	灰白	灰オーラブ	-	良	白磁上部	IV類	
	156				25215	陶	口縁	白磁	-	-	無い縫	灰黄	-	良	白磁上部	IV類	買入
	157			⑥, II	26960	陶	脚~高台	白磁	直径:(7.0)	見达:沈線	灰白	灰白	外面無釉	良	白磁上部	IV類	
	158				28216	黑	口縁~ 高台	白磁 青磁	口径:(12.0) 直径:(5.4) 高さ:3.3	内:三重沈線、片割文 見达:片割文	灰黄	オーラブ灰	高台内無釉	良	龍泉系 青磁系	櫻花系 高台内移粒付 着	
65	166	SD13	SD23	①	19439	陶	青磁	-	-	羅通弁文	灰	灰オーラブ	-	良	龍泉系 青磁系	II-b 3類	
	168	SD14	SD17	①	19449	陶	口縁~ 高台	青磁	口径:(15.8)	-	灰	オーラブ灰	-	良	龍泉系 青磁系	上田 D-3類	買入
	169			①	18695	黒	脚~ 高台	白磁	直径:(6.0)	-	灰	灰	見达:組立輪紋 脚付、脚下平付 高台無釉	良	白風 5類	森田 D類	
	172			脚	-	陶	脚~ 高台	白磁	直径:(7.0)	見达:沈線	灰白	灰オーラブ	外面無釉	良	白磁 1類	IV類	
73	173	SD15	SD18	②	19457	陶	口縁~ 高台	青磁	-	-	灰	オーラブ灰	-	良	龍泉系 青磁系	上田 D-2類	
	174			③, II, IIa	18705	陶	口縁~ 高台	青磁 青磁	口径:(14.0) 口径:(6.0) 高さ:6.6	見达:界線、蓮花文	灰黄	オーラブ灰	高台内無釉	良	龍泉系 青磁系	上田 D-2類	
	191				29495	黒	山字形 青磁	青磁	口径:11.1 直径:5.2 高さ:3.2	口縁:二重界線	黄 黄高台内 無い縫	暗オーラブ	外底~高台内 一部無釉	良	龍泉系 青磁系	1類	桜花系
	192			①	29035	陶	口縁	青磁	口径:(0.0)	-	灰黄	オーラブ灰	-	良	龍泉系 青磁系	上田 C類	
75	197	SK30	ST2	-	ST2-1	陶	完形	白磁	口径:17.1 直径:6.3 高さ:6.5	-	灰白	灰オーラブ	脚下~高台内 無釉	良	白磁 2類	V-4 類	
	198			-	ST2-2	陶	山字形 完形	白磁	口径:16.5 直径:6.6 高さ:6.3	-	浅黄帶	灰黄	見达:円状模取、脚部下~ 足込無釉	良	白磁 2類	V-4 類	
	200			-	ST2-3	陶	脚	青磁	-	内外:網文	無い黄斑	黃褐	外面脚切	良	同安 青磁系	1-1b 類	内面買入 福建產
	230	P1	P296	①	-	瓈	脚	陶器	-	内調整:同心円当て具 外調整:格子タスキ →ハラ模ナダ	外面: 黒褐	内面: 灰灰	外面無釉	良	-	-	中国製
83	232	P3	P1015	①	-	陶	脚~ 高台	青磁	直径:5.6	外:井字上条 内底:京花文、折繪	灰白	オーラブ灰	高台内無釉	良	龍泉系 青磁系	上田D 小4類	買入
	234	P5	P2731	①	-	陶	口縁~ 高台	白磁	口径:11.8	-	灰白	灰白	口唇部模取	良	白磁 4類	IV類	

※分類 森山分類は、森山範「14~16世紀の白磁と分類と輸入」『貿易陶磁研究No.3』1982

上田分類は、上田秀夫「14~16世紀の青磁の分類について」『貿易陶磁研究No.2』1982

その他の分類は、大宮府教育委員会「大宮府条例附X-V・陶器分類編」2000

をそれぞれ参考にした。(変更あり)

第9表 中世遺構出土石器・石製品観察表

標団番号	掘査番号	遺構番号	遺構番号(目)	層	取上番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
28	61	SIB6(22)	SB47(22)	I	—	石製品	4.0	3.4	1.2	17.4	滑石	パレン状
	68	SI	SB21	床直	7624	石製品	18.0	12.4	11.0	690.1	軽石	
34	69	SI	SB21	(1)	7136	磨石粗	7.8	11.1	4.0	568.2	安山岩	
35	70	SK1	SK23	(1)	7336	石製品	(32.4)	15.5	13.3	2,012	軽石	
36	76	SK3	SK192	(1)	25403	石製品	13.6	8.9	9.3	591.4	軽石	
38	79	SK6	SK202	(1)	28151	石製品	12.2	12.1	8.9	415.3	軽石	
	104	SI	SB21	(1)	13719	砾石	(8.5)	(8.9)	(8.9)	709.8	砂岩	
51	105	SD3	SD12	(1)	13749	砾石	(11.4)	(13.1)	(8.1)	1,040	凝灰岩	
	106	SD5	SD13	(1)	13765	石製品	20.0	14.0	5.8	502.7	軽石	
54	117	SD5	SD13	(1)	37288	石製品	4.7	4.4	2.5	61.7	滑石	
	148	SD5	SD13	(1)	36576	砾石	(4.0)	3.0	1.6	35.8	砂岩	
	149	SD5	SD13	(1)	37239	砾石	(6.0)	(3.1)	1.2	30.7	砂岩	
59	150	SD7	SD36	(1)	27985	砾石	(13.5)	(8.8)	(3.2)	377.2	砂岩	
	151	SD7	SD36	(1)	29420	砾石	(8.0)	(14.0)	(8.6)	1,298	砂岩	
	152	SD7	SD36	(1)	29428	砾石	10.3	5.4	2.5	153.3	凝灰岩	
	160	SD8	SD35	(2)	25192	砾石	6.5	4.5	1.4	54.7	頁岩	
	161	SD8	SD35	(2)	25194	砾石	(12.0)	(8.0)	(7.0)	1,011	砂岩	
61	162	SD8	SD35	(3)・(4)	25198・ 25199・ 25203	蛋白	—	—	9.4	5,200	凝灰岩	推定径34.0cm
	163	SD8	SD35	(4)	25200・ 25201	蛋白	—	—	12.2	2,600	凝灰岩	推定径20.7cm
68	182	地2	SK148	—	—	石製品	14.0	15.7	11.0	931.9	軽石	
69	185	地3	SK170	—	—	五輪鉢(空輪)	12.5	14.7	13.3	2,300	凝灰岩	
71	188	大1	SK234	(3)	SK1-N55	石頭・台石	19.3	17.5	11.2	3,110	凝灰岩	
	72	189	大2	(3)	SK1-N33	砾石	11.1	10.6	7.7	940.0	砂岩	
73	190	大2	SK30	(2)	28160	石頭・台石	29.0	26.6	8.7	8,700	砂岩	
78	221	ST5	SK249	—	ST5-N7	玉器類	1.2	1.2	0.9	2.0	水晶	
	227	ST5	SK249	H.a	18	石鏡	19.1	12.3	7.9	1,423	滑石	
81	228	SG7	SG7	H.b	—	五輪鉢(大輪)	42.3	18.0	16.3	6,900	凝灰岩	
	229	SG7	SG7	H.c	—	五輪鉢(地輪)	41	39	12.2	—	凝灰岩	
82	233	P4	P2378	—	—	石製品	(9.0)	(7.0)	(10.5)	186.4	軽石	
	235	P6	P2865	—	37533	石製品	4.8	3.3	1.0	18.6	滑石	パレン状
83	239	P6	P1969	—	—	石製品	29.1	23.0	12.3	12,300	花崗岩	

第10表 中世遺構出土金属製品観察表

標団番号	掘査番号	遺構番号	遺構番号(目)	層	取上番号	器種	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
34	67	SI	SB21	—	—	刀子	—	7.4 右7.3	1.6	0.3	—	2本通着
37	77	SK8	SK196	(1)	—	刀子	—	22.8	2.6	6.7	105.3	
69	186	地3	SK170	(1)	22961	船玉	—	—	—	—	8.5	古90%、網カゴラ
76	201	ST2	SK30	(1)	—	輪孔圓錐	—	直径12.0	—	—	—	表に布痕・ベンガラ付着
77	210	ST4	SK244	(1)	—	鐵錐	—	6.0	6.0	3.5	12.4	
	214	ST4	SK244	(1)	—	鐵錐	—	8.0	4.5	4.5	23.2	

第11表 中世遺構出土渡来銭觀察表

標団番号	掘査番号	遺構番号	遺構番号(目)	層	取上番号	器種	分類	銘文(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	時期	背面	初跡年	書体	備考
48	87	整2	SK257	(1)	—	渡来銭	國北造費	24.6	1.3	2.3	唐	上月	621年	真書	
	88	整2	SK257	(1)	—	渡来銭	田平元寶	24.6	1.4	2.3	北宋	—	1064年	真書	
	90	整2	SK257	(1)	—	渡来銭	田平元寶	24.8	1.4	3.4	北宋	—	1064年	篆書	
	91	整2	SK257	(1)	—	渡来銭	國北造費	23.8	1.4	2.2	唐	七月	621年	真書	
	92	整2	SK257	(1)	—	渡来銭	國北造費	24.9	1.5	3.4	北宋	—	998年	真書	
	93	整2	SK257	(1)	—	渡来銭	田平元寶	24.9	1.2	3.1	唐宋	—	1038年	篆書	
	94	整2	SK257	(1)	—	渡来銭	田平元寶	24.9	1.2	3.1	北宋	—	1031年	篆書	
	95	整2	SK257	(1)	—	渡来銭	不辨	24.3	1.5	3.3	唐	不明	—	不辨	
	96	整2	SK257	(1)	—	渡来銭	飛雲元寶	23.2	1.3	3.6	唐	—	919年	真書	名化
	97	整2	SK257	(1)	—	渡来銭	只梨元寶	25.3	1.4	3.3	北宋	—	1023年	真書	
	98	整2	SK257	(1)	—	渡来銭	西武元寶	24.0	1.6	3.8	唐	—	1368年	真書	
	99	整2	SK257	(1)	—	渡来銭	高昌元寶	26.0	1.0	1.8	唐	—	—	真書	鐵鑄打制
82	231	P2	P2378	(1)	—	渡来銭	和和利	—	—	—	北宋	—	1111年	篆書	

第12表 中世の土師器観察表

件名 番号	出土地 番号	層 番号	取上 番号	基準	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	測量		色調	地土 白 黒 灰 石 岩 砂 泥 粘 板 基	構成	備考					
									外・内面										
									外	内									
240	H29	II	24608 他	坪	口縁～底	(17.4)	(11.8)	2.6	ナデ	ハラ雲→ナデ	暗灰黄～黒褐	○○	○○○	良					
241	H31	II	28454 他	坪	口縁～底	(17.0)	(9.5)	3.0	ナデ	ハラ雲→ナデ	淡黄	○	○○○	良	織密な土				
242	G32	II, II.5	36919 他	坪	口縁～底	(15.6)	9.8	3.2	ナデ	ハラ雲→模様 底盛→ナデ	灰白	○	○○○	良	織密な土				
243	F30	II	—	坪	口縁～底	(15.8)	9.0	2.1	ナデ	ハラ雲→ナデ	棕	○	○○○	良	織密な土				
244	F31	II.5	37128 他	坪	口縁～底	(15.8)	(8.6)	3.3	ナデ	ハラ雲→ナデ	内：浅黄褐 外：暗～浅黄褐	○○○	○○○	良	織密な土				
245	G30	II	24889 他	坪	口縁～底	(14.0)	(6.4)	2.2	ナデ	模様正規	内：灰灰 外：にい・灰	○○	○	良	研り糞				
246	D32	II.5	16133 他	坪	口縁～底	(15.0)	(7.7)	2.9	ナデ	ハラ雲→ナデ	灰白	○	○○○	良	質部変致り				
247	E35	—	坪	口縁～底	—	(10.8)	—	ナデ	ハラ雲→ナデ	灰白	○	○○○	良	織密な土					
248	G31	II	27565 21-32	坪	縁～底	—	11.2	—	ナデ	雜～ハラ雲 →ナデ	西：にい・黄 東：灰	○○○	○○○	良	小穂含む、外スル 火、練り糞				
E-F	—	III	—	坪	縁～底	—	(12.0)	—	ナデ	ハラ雲→ナデ	内：灰灰 外：灰灰	○	○○○	良	内墨色				
250	F31	II.5	38418 坪	坪	縁～底	—	(9.0)	—	ナデ	ハラ雲→ナデ	内：浅黄褐 外：灰	○○○	○○○	良					
251	J28-30	I, II	25478 坪	底	—	(10.3)	—	—	ナデ	ハラ雲→ナデ	内：灰 外：浅黄褐	○○○	○○○	良	小穂含む、練り糞				
252	H30	II	24855 坪	坪	口縁～底	(10.6)	(7.8)	2.6	ナデ	ハラ雲→ナデ	内：灰白 外：灰	○○○	○○○	良	外一面褐色、織密 な土、練り糞				
253	G29	II	23283 坪	坪	口縁～底	(13.8)	(10.0)	3.2	ナデ	糸切	内：にい・黄 外：黒褐～灰褐	○○○	○○○	良					
254	H29	II	23377 坪	坪	口縁～底	(14.0)	11.0	3.1	ナデ	糸切	にい・黄	○○○	○○○	良	織密な土、練り糞				
255	E31	II	—	坪	口縁～底	(13.9)	(8.4)	3.2	ナデ	糸切	にい・灰	○○○	○○○	良	研り糞				
256	E29	II	23798 坪	坪	口縁～底	(13.0)	(8.6)	3.2	ナデ	糸切	にい・灰	○○○	○○○	良	成形フタ、練り糞				
257	E37	I	—	坪	口縁～底	(11.4)	(8.2)	3.4	ナデ	糸切	にい・灰褐	○○○	○○○	良	研り糞				
258	I23	II.5	22428 坪	口縁～底	(11.3)	7.3	3.4	ナデ 外・ナデ	糸切→ナデ	灰褐	○	○○○	良						
259	I-J30	II, II.5	24208 他	坪	口縁～底	(10.8)	6.2	3.1	ナデ	糸切	内：にい・褐 外：灰褐～黒褐	○○○	○○○	良	成形脱型状のナ デ				
260	H36	III.5	29060 坪	口縁～底	(12.0)	8.8	3.5	ナデ	糸切	褐	○○○○○	○○○○○	良	小穂含む、練り糞					
261	H36	III.5	29059 坪	口縁～底	(11.7)	7.9	3.5	ナデ	糸切	褐	○○○○○	○○○○○	良	外外壁薄、小穂含む					
262	I-29-36	II, II.5	26625 坪	口縁～底	(12.0)	8.8	3.7	ナデ	糸切	にい・黄褐	○○○○○	○○○○○	良	見込スス					
263	I29	II.5	—	坪	口縁～底	(13.4)	(9.6)	3.1	ナデ	糸切→ナデ	にい・黄褐	○○○○○	○○○○○	良	一部比較、小穂含む				
264	L28	I	—	坪	口縁～底	(11.2)	(6.6)	3.2	ナデ	糸切	浅黄褐	○○○○○	○○○○○	良	外外壁薄				
265	F22	II.5	22134 坪	口縁～底	(11.0)	(7.4)	3.0	ナデ	糸切	にい・灰	○○○○○	○○○○○	良						
266	J28	I	—	坪	口縁～底	(11.2)	(7.7)	3.2	ナデ	糸切	にい・灰	○○○○○	○○○○○	良	外外壁薄				
267	J35	III.5	22979 坪	口縁～底	(11.2)	(7.6)	3.3	ナデ	糸切	内：浅黄褐 外：にい・灰	○○○○○	○○○○○	良	外外壁薄					
268	K28	I	—	坪	口縁～底	(11.8)	(7.3)	3.2	ナデ	糸切	褐	○○○○○	○○○○○	良					
269	E25	IV	27226 坪	口縁～底	(11.2)	(7.6)	3.1	ナデ	糸切→ナデ	浅黄褐～にい・灰	○○○○○	○○○○○	良	外外壁薄、小穂含む					
270	E27	I	—	坪	口縁～底	(10.6)	(7.5)	3.2	ナデ	糸切→ナデ	褐	○○○○○	○○○○○	良	外外壁薄、見込スス				
271	E28	I	—	坪	口縁～底	(11.4)	(8.8)	3.1	ナデ	糸切	にい・灰褐	○○○○○	○○○○○	良					
272	A140-41	II	14385 坪	口縁～底	(11.0)	(6.8)	3.9	ナデ	糸切→ナデ	浅黄褐	○○○○○	○○○○○	良	外外壁薄					
273	E25	II	—	坪	口縁～底	(10.8)	(8.0)	2.1	ナデ	糸切	内：浅黄褐 外：灰白	○○○○○	○○○○○	良					
274	E31	III	16302 坪	底	縁～底	—	(9.6)	—	ナデ	糸切	内：にい・黄褐 外：灰褐	○○○○○	○○○○○	良					
275	H29	II	26398 坪	底	縁～底	—	(10.0)	—	ナデ	糸切→ナデ	浅黄褐	○○○○○	○○○○○	良	内面脱離				
276	I27	II	26761 坪	底	縁～底	—	(9.6)	—	ナデ	糸切	にい・褐	○○○○○	○○○○○	良	成形ムラ				
277	G31-32	I, II.5	—	坪	縁	(16.5)	—	—	ナデ	—	にい・灰	○○○○○	○○○○○	良					
278	F31	II.5	29633 坪	口縫	(15.6)	—	—	ナデ	—	—	内：西黄 外：黑褐	○○○○○	○○○○○	良					
279	F31	II.5	26687 坪	口縫	(14.0)	—	—	ナデ	—	—	浅黄褐	○○○○○	○○○○○	良					
280	E31	II	28525 坪	口縫～底	(14.0)	—	—	ナデ	—	—	灰白	○○○○○	○○○○○	良					
281	H31	II	28513 他	口縫	(15.0)	—	—	ナデ	—	—	にい・黄褐	○○○○○	○○○○○	良					
282	F32	II.5	36611 坪	口縫～底	(13.6)	—	—	ナデ	—	—	内：褐 外：灰褐	○○○○○	○○○○○	良					
283	G31	II	27630 坪	口縫	(13.8)	—	—	ナデ	—	—	浅黄褐	○○○○○	○○○○○	良					
284	F29	II	27511 坪	口縫～底	(15.2)	—	—	ナデ	—	—	灰白	○○○○○	○○○○○	良					
285	G29	II	27578 坪	口縫～底	(13.4)	—	—	ナデ	—	—	浅黄褐	○○○○○	○○○○○	良					
286	G31	II	27578 坪	口縫～底	(13.4)	—	—	ナデ	—	—	にい・灰	○○○○○	○○○○○	良	研りやや細				
287	E41	II.5	11207 坪	口縫～底	(13.5)	—	—	ナデ	—	—	淡黃	○○○○○	○○○○○	良	研りやや細				
288	G20-31	II	23933 坪	底	底	(8.8)	—	—	ナデ	—	—	不明	にい・灰	○○○○○	良				
289	G20	II	23933 坪	底	底	(8.8)	—	—	ナデ	—	—	内：褐 外：灰	○○○○○	○○○○○	良				
290	G43	II.5	9624 坪	口縫～底	—	(8.0)	1.7	ナデ	模様正規 →ナデ	浅黄褐	○○○○○	○○○○○	良	内面スス					
291	L29	II	33891 坪	底	縁～底	—	(8.0)	2.5	ナデ	不明	浅黄褐	○	○○○	良	内外壁薄・スス、 織密な土				
292	J28-29- 30	II	24305 他	坪	縁～底	—	5.8	—	内：不明 外：ナデ	不明	にい・黄褐	○○○○○	○○○○○	良					

第12表 中世の土師器観察表

件名	通番号	出土区	層	取上番号	断面	部位	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	輪郭		胎土				構成	備考	
										外・内面	底面	白(白石)	黄(黄石)	青(青石)	褐(褐色)			
293	630-31	II	26498	他	縦	底	-	7.3	-	ナデ	無切	内:黒灰 外:灰黄	○○	○○	○○	良	光面磨合	
294	530	II	24905	縦	底	-	7.0	-	ナデ	無切	無	○○	○○	○○	○○	良	光面磨合・無切な土	
295	E25-26	I-2	18923	他	底	-	(8.0)	-	ナデ	無切	無	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	光面磨合	
296	F29	II	23302	小皿	口縁～底	(10.0)	(8.0)	1.9	ナデ	ハラ型→ナデ	に点・縫	○○	○○	○○	○○	良	良	
297	G31	II	39236	小皿	口縁～底	(9.0)	(6.7)	1.5	ナデ	ハラ型→ナデ	無	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良	
298	G30	II	39237	小皿	口縁～底	(8.4)	(6.4)	1.8	ナデ	ハラ型→ナデ	無	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良	
299	F30-31	II	b	37243	小皿	口縁～底	(9.4)	(7.2)	1.3	ナデ	ハラ切	縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	内外墨縫・小継合む
300	H31	II	28516	小皿	口縁～底	9.8	7.6	1.4	ナデ	ハラ型→ナデ	西蒙焼	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	内外墨縫	
301	G31	II	b	39234	小皿	口縁～底	9.8	6.2	1.5	ナデ	ハラ型→ナデ	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
302	F43	II	b	9820	小皿	口縁～底	9.0	6.8	1.3	ナデ	ハラ型→ナデ	浅黄	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	ハラ型压机
303	F32	II	b	36977	小皿	口縁～底	(9.0)	(7.2)	1.1	ナデ	ハラ型→ナデ	縫・浅黄	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
304	G31	II	b	39206	小皿	口縁～底	(8.4)	(6.4)	1.5	ナデ	点・無切	無	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
305	F31	II	b	37244	小皿	口縁～底	(8.6)	(7.0)	1.1	ナデ	ハラ型→ナデ	内:無	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	内外墨縫
306	F31	II	b	39267	小皿	口縁～底	(8.6)	(7.0)	1.1	ナデ	ハラ型→ナデ	内:無	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	内:無
307	F32	II	b	37264	小皿	口縁～底	9.1	7.0	1.1	ナデ	ハラ型→ナデ	灰灰・灰灰	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
308	F31	II	b	27335	小皿	口縁～底	(10.0)	(6.6)	1.5	ナデ	ハラ型→ナデ	西蒙焼	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
309	G31	II	b	21677	小皿	口縁～底	(6.4)	(6.7)	1.3	ナデ	ハラ切	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
310	G31	II	b	28972	小皿	口縁～底	(9.0)	(7.0)	1.4	ナデ	ハラ型→ナデ	西蒙焼	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
311	G32	II	b	26917	小皿	口縁～底	(9.0)	(7.4)	1.2	ナデ	ハラ型→ナデ	灰白	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
312	G31	II	b	26918	小皿	口縁～底	(9.2)	(7.0)	1.5	ナデ	ハラ型→ナデ	西蒙焼	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
313	G31	II	b	39232	小皿	口縁～底	(7.9)	(6.0)	1.3	ナデ	ハラ型→ナデ	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
314	F31	II	b	27334	小皿	口縁～底	(6.0)	(7.2)	1.8	ナデ	ハラ型→ナデ	西蒙焼	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
315	H31	II	b	28501	小皿	口縁～底	(8.7)	(7.2)	1.3	ナデ	ハラ型→ナデ	西蒙焼	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
316	G31	II	b	37044	小皿	口縁～底	(8.8)	(6.4)	1.4	ナデ	ハラ型→複数	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
317	H31	II	b	28538	小皿	口縁～底	(8.8)	(7.0)	1.3	ナデ	ハラ型→複数	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
318	F31	II	b	39611	小皿	口縁～底	(8.6)	(7.0)	1.1	ナデ	ハラ型→ナデ	浅黄	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	外:一面墨縫
319	H31	II	b	28512	小皿	口縁～底	(8.4)	(6.6)	1.0	ナデ	ハラ型→ナデ	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
320	F31	II	b	37095	小皿	口縁～底	8.6	6.8	1.3	ナデ	ハラ型→ナデ	内:灰黄 外:に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	内外やし墨縫
321	H31	II	b	28535	小皿	口縁～底	(10.0)	(7.3)	1.1	ナデ	ハラ型→ナデ	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
322	G31	II	b	37044	小皿	口縁～底	(8.8)	(6.4)	1.4	ナデ	ハラ型→ナデ	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
323	F31	II	b	28536	小皿	口縁～底	(10.0)	(6.0)	1.2	ナデ	ハラ型→ナデ	内:灰黄 外:に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	外:一面墨縫
324	G31	II	b	9054	小皿	口縁～底	(8.6)	(7.1)	1.2	ナデ	ハラ型→ナデ	内:浅黄 外:灰黄	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
325	E32	II	b	11654	小皿	口縁～底	(10.0)	(8.4)	1.6	ナデ	ハラ切	灰灰	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
326	H30	II	b	26550	小皿	口縁～底	(9.6)	8.0	1.0	ナデ	ハラ型→ナデ	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
327	F31	II	b	37148	小皿	口縁～底	8.0	7.0	0.9	ナデ	ハラ型→複数	浅黄焼	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
328	H31	II	b	28501	小皿	口縁～底	(8.3)	(6.8)	0.9	ナデ	ハラ型→複数	黄灰	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
329	D33, F31	II	b	37169	小皿	口縁～底	(9.0)	(7.4)	1.0	ナデ	ハラ型→ナデ	に点・縫・灰黄焼	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
330	F31	II	b	29246	小皿	口縁～底	(9.0)	(7.0)	1.1	ナデ	ハラ型→ナデ	浅黄焼	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	外:一面墨縫
331	H31	II	b	28518	小皿	口縁～底	(9.2)	(7.6)	1.0	ナデ	ハラ型→ナデ	灰黄	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
332	H27	II	b	11874	小皿	口縁～底	(9.2)	(8.0)	1.1	ナデ	ハラ切	浅黄	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
333	G31	II	b	37091	小皿	口縁～底	(8.6)	(7.2)	1.1	ナデ	ハラ型→ナデ	浅黄	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
334	F31	II	b	37318	小皿	口縁～底	(9.0)	(7.2)	1.1	ナデ	ハラ切	西蒙焼	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	内:西蒙焼スズ
335	F31	II	b	38416	小皿	口縁～底	(8.8)	(8.8)	1.1	ナデ	ハラ切→縫	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	供分多量
336	F-631	II	b	37046	小皿	口縁～底	8.3	7.4	1.7	ナデ	ハラ型→ナデ	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
337	I29-30	II	b	26903	小皿	口縁～底	10.0	7.3	2.0	ナデ	ハラ型→ナデ	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	普	内外墨縫・小継合む
338	I29	II	b	26245	小皿	口縁～底	9.0	6.7	1.7	ナデ	無切	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
339	128-29	II	b	23426	小皿	口縁～底	10.0	7.4	1.7	ナデ	無切	天～に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
340	I23	II	b	22829	小皿	口縁～底	9.0	7.0	1.4	ナデ	無切→ナデ	西蒙焼	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	内:西蒙焼スズ
341	I32	II	b	-	小皿	口縁～底	(8.5)	(6.8)	1.2	ナデ	無切	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	内:西蒙焼スズ
342	G31	II	b	27642	小皿	口縁～底	(9.0)	(7.6)	1.2	ナデ	無切→ナデ	内:点・縫 外:浅黄	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
343	H43	II	b	8750	小皿	口縁～底	(9.2)	(7.0)	1.3	ナデ	無切	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	内:小継合
344	F31	II	b	26844	小皿	口縁～底	(8.5)	(7.0)	1.3	ナデ	無切	内:点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	内:小継合
345	F31	II	b	37045	小皿	口縁～底	(8.2)	(6.6)	1.1	ナデ	無切	内:点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	内:小継合
346	F31	II	b	39295	小皿	口縁～底	(8.4)	(5.0)	1.4	ナデ	無切	浅黄焼～に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	内:浅黄焼
347	H22	II	b	31199	小皿	口縁～底	8.2	6.4	1.6	ナデ	無切→ナデ	無	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	内:無
348	I30	II	b	25391	小皿	口縁～底	(9.8)	(8.2)	1.7	ナデ	無切	内:無	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	内:無
349	F31	II	b	37331	小皿	口縁～底	(9.8)	(8.2)	1.9	ナデ	無切	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	内:無
350	F-6	II	b	22663	小皿	口縁～底	(9.2)	(7.4)	1.8	ナデ	無切→ナデ	縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
351	H31	II	b	28421	小皿	口縁～底	(9.0)	(6.8)	1.3	ナデ	無切	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	良
352	F31	II	b	37181	小皿	口縁～底	(8.2)	(6.4)	1.0	ナデ	無切	浅黄	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	無切な土
353	F31	II	b	38462	小皿	口縁～底	(9.0)	(7.8)	1.4	ナデ	無切	に点・縫～灰黄焼	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	構成ムラ
354	G22	II	b	16906	小皿	口縁～底	(6.3)	(6.4)	1.9	ナデ	無切	縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	小継合
355	K28	II	b	23625	小皿	口縁～底	(7.6)	(5.6)	1.8	ナデ	無切	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	小継合
356	F24	II	b	21789	小皿	口縁～底	(8.6)	(6.8)	2.1	ナデ	切り離し不明	に点・縫	○○○○○○○○	○○	○○	○○	良	小継合

第12表 中世の土師器観察表

序号	通番号	出土区	層	取上番号	断面	部位	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	形状		胎土				構成	備考	
										外・内面	底面	白	黄	黑	石			
351	E25, F24	I, II, 9	18187	小皿	口縁～底	(10.0)	(7.0)	3.2	ナデ	魚切	にがい・黄裡	○	○	○	良	織りやあり		
356	S28	II	他	小皿	口縁～底	(6.4)	(6.0)	2.1	ナデ	魚切	灰黒	○	○	○	良	焼成にみづ		
359	S23	II	-	小皿	口縁～底	(8.0)	(5.5)	3.4	ナデ	魚切	にがい・黄裡	○	○	良	織り底			
360	R30	II, II, 9	-	小皿	口縁～底	-	6.2	-	ナデ	魚切	にがい・黄裡	○	○	良	織り底			
361	H30, I29	II	23413	小皿	口縁～底	-	7.3	-	ナデ	魚切～ナデ	にがい・黄裡	○	○	○	良	骨	内外壁薄、織密な土	
362	J31	I	-	小皿	口縁～底	-	(7.4)	-	ナデ	魚切	内:にがい・黄裡 外:浅黄	○	○	○	良			
363	E22	II	21198	小皿	底	-	(8.0)	-	ナデ	魚切～ナデ 板状圧痕	淡黄裡～灰黒	○	○	○	良	内側距離		
364	G31	II	27497	小皿	底	-	6.4	-	-	ナデ	にがい・黄裡	○	○	良	織密な土			
365	K29	II	25239	小皿	底	-	6.8	-	-	ナデ	灰白	○	○	良	骨	内外壁薄		
366	F30	I, II	37407	小皿	口縁～底	-	7.2	-	ナデ	魚切	内:灰灰 外:灰白	○	○	○	良	織密な土		
367	D21	II	19695	小皿	底	-	5.4	-	ナデ	魚切	にがい・黄裡	○	○	○	良			
368	I-130	II, II, a	24289	小皿	底	-	6.8	-	ナデ	魚切	浅黄	○	○	良				
369	L28	II	33931	小皿	口縁～底	(9.6)	(6.8)	2.3	ナデ	ナデ	内壁理	○	○	良	骨	内外壁薄、小筋付		
370	G31	II	27614	小皿	口縁～底	10.0	7.6	2.7	ナデ	ナデ	淡黄	○	○	良				
371	F32	II	36978	小皿	口縁～底	(9.4)	(7.4)	1.2	ナデ	ナデ	灰黒～灰黒	○	○	良				
372	F31	II	36780	小皿	口縁～底	(9.2)	(6.0)	1.6	ナデ	ナデ	灰～灰	○	○	良				
373	G31	I, II, 9	-	小皿	口縁～底	(8.9)	(4.7)	1.8	ナデ	ナデ	灰白	○	○	良				
374	G32	II	-	小皿	口縁～底	(10.0)	-	-	ナデ	ナデ	白灰	○	○	良				
375	F43	II, a	-	小皿	口縁～底	(9.0)	-	-	ナデ	-	内:にがい・場 外:にがい・場	○	○	○	良	織りあり		
376	F31	I	-	小皿	口縁	(8.4)	-	-	ナデ	-	場底～にがい・場	○	○	良	骨	織り弱い		
377	F23	II, b	-	小皿	底	-	7.6	-	ナデ	ナデ	灰白	○	○	良		骨	内外壁薄	
378	I-J29	II	24184	小皿	底	底～開	-	4.4	-	ナデ	不明	淡黄	○	○	良			
379	H31	II	-	不明	底～開	-	-	-	ナデ	板状圧痕	灰黒	○	○	良	骨	粉多量、織りあり		
380	F24	II, a	-	不明	底	-	-	-	ナデ	-	内:にがい・黄裡 外:灰黒	○	○	良				
381	F31	II, b	37532	瓶	口縁～底	10.8	5.5	2.2	ナデ～ハ タミガキ	ナデ～ナデ	墨	○	○	良				

第13表 瓦器・瓦質土器・須恵質土器・土師質土器観察表

序号	通番号	出土区	層	取上番号	断面	部位	口径	底径	高さ(cm)	形状		胎土				構成	備考		
										外面	内面	内・外面	白	黄	黑	石			
382	F32	II, a	-	口	口縁～底	瓦隙	底径:1.7	-	-	板ナデ	板ナデ	灰	○	○	○	良好	土白		
383	E30	-	-	27468	底	瓦隙	-	-	-	工字ナデ	工字ナデ	灰白	○	○	○	良好	機械加工瓦		
384	B31, E30	II, II, a	18127	底	口縁	瓦隙	口径:(11.4)	指揮丸	ヘラナガキ	灰～灰黒	○	○	○	○	○	普通	186-87と同一		
385	E31, E31, E30	II, II, a	15911	底	口縁	瓦隙土跡	-	指揮丸	丁寧なハナケナデ	丁寧なハナケナデ	灰白	○	○	○	○	○	普通	186-87と同一	
386	III-2, II-128	I, II, a	24786	底	口縁～底	瓦隙土跡	口径:(23.2)	指揮丸	丁寧なハナケナデ	丁寧なハナケナデ	灰白	○	○	○	○	○	普通	186-87と同一	
387	E31, J29	I, II	17944	底	口縁～底	瓦隙土跡	口径:(23.0)	指揮丸	板～ハナケナデ	丁寧なハナケナデ	灰白	○	○	○	○	○	普通	186-87と同一	
388	F30, H29-30,	I, II	23698	底	口縁～底	瓦隙土跡	底径:(18.0)	手づく印押し ナデ	丁寧なハナケナデ	丁寧なナデ	灰、部分的 に白	○	○	○	○	○	良好		
389	E30, H29-30,	I, II	24101	底	口縁～底	瓦隙土跡	口径:(25.0)	ヘラナガキ	ヘラナガキ	ヘラナガキ	灰白、部分 的に白	○	○	○	○	○	普通		
390	E30, H29-30,	I, II	24798	底	ワバ～底	瓦隙土跡	-	ヘラナガキ	ヘラナガキ	ヘラナガキ	灰白、部分 的に白	○	○	○	○	○	普通	作りが薄い	
391	E-P31-32	II	-	底	口縁	瓦隙土跡	-	ヘラナガキ	ヘラナガキ	ヘラナガキ	灰白	○	○	○	○	○	良好		
392	H31	II	-	底	口縁	瓦隙土跡	-	ヘラナガキ	ヘラナガキ	ヘラナガキ	灰白	○	○	○	○	○	良好		
393	G20-30, H30-45, E30-35	II	23295	便	口縁～底	土附質土器	口径:(29.0)	口縁～ハナケナデ 底～ハナケナデ	ハナケナデ、口縁 ハナケナデ	ハナケナデ	浅黄裡	○	○	○	○	○	良好	外側スス、紹伊裏	
394	H30	I	-	底	口縁	瓦隙土跡	底径:(7.0)	ハナナダ	ハナナダ	ハナナダ	灰白	○	○	○	○	○	良好	コグあり	
395	G25	I, II, b	17921	底	口縁～底	須恵質土器	底径:(15.2)	ヘナナダ	ヘナナダ	ヘナナダ	灰白	○	○	○	○	○	良好		
396	H29	II	23393	底	須恵質土器	底径:(11.0)	ヘナナダ	ヘナナダ	ヘナナダ	ヘナナダ	灰白	○	○	○	○	○	良好	外側スス	
397	K29	I	-	埋納	口縁～底	須恵質土器	-	ヘラナガナ	ヘラナガナ	ヘラナガナ	にがい・黒	○	○	○	○	○	良好	縁上部のみ以 上に黒	
398	E21	II	19504	埋納	口縁	須恵質土器	-	横方向ナガナ	横方向ナガナ	横方向ナガナ	埋・縁上に 白～黒	○	○	○	○	○	良好	縁上部のみ以 上に黒	
399	G29	II, a	18589	ほか	把手	土附質土器	底径:(7.0)	ヘナナダ	ヘナナダ	ヘナナダ	浅黄裡	○	○	○	○	○	良好		
400	B28	I	-	ほか	把手	土附質土器	底径:(7.0)	ヘナナダ	ヘナナダ	ヘナナダ	浅黄裡	○	○	○	○	○	良好		
401	J31	I	-	ほか	把手	土附質土器	底径:(7.0)	ヘナナダ	ヘナナダ	ヘナナダ	浅黄裡	○	○	○	○	○	良好		

第14表 東播系須恵器・カムイヤキ・備前焼・常滑焼・灰釉陶器観察表

検証番号	通巻番号	出土区	層	取上番号	基盤	部位	種別	法量(cm)	形態		色調		地土	焼成	備考				
									外茎	内面	外茎	内面	白基石	黄基石	黄白基石	黄青基石	灰基石	黑基石	
93	402	J29, K36	II, III	23641	鉢	口縁～腹	東播系	口径:(20.2) ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	灰	○	○	○	○	○	○	良好	口縁部で光沢あり
	403	J30	II	23661	鉢	口縁～腹	東播系	口径:(19.4) 横ナデ	丁寧な横ナデ	灰	灰	○	○	○	○	○	○	良好	口縁部で光沢あり、軟通
	404	E32, G30	II	23979	鉢	口縁～腹	東播系	口径:(26.0)	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	作りが謹い
	405	H30	II	26583	鉢	口縁～腹	東播系	~	横ナデ	横ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	作りが謹い
	406	G31	II	27484	鉢	口縁～腹	東播系	~	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	
	407	J35	IIIa	36366	鉢	口縁～腹	東播系	口径:(26.6)	横ナデ	横ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	口縁部で光沢あり
	408	E32+33, E32, H31 IIIa	I, II IIIa,b IIIa	11449	鉢	口縁～腹	東播系	口径:(26.2) 直径:(10.4) 器高:9.2	ハケ模ナデ	ハケ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	見込み使用済
	409	E31	II	-	鉢	口縁～腹	東播系	~	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	
	410	I30	I	-	鉢	口縁～腹	東播系	~	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	内面部一部剥離、小隠含む
	411	I31	II	28269	鉢	口縁～腹	東播系	~	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	小隠含む
	412	G30	II	23973	鉢	口縁～腹	東播系	~	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	口縁部で光沢あり
94	413	E32+33 H31,b	II	15943	鉢	口縁～腹	東播系	口径:(26.8)	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	
	414	E27, F31	I, II	18930	鉢	口縁～腹	東播系	口径:(31.0)	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	小隠含む
	415	F32	I	-	鉢	口縁～腹	東播系	~	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	
	416	E29+30 浅丸	II	36452	鉢	口縁～腹	東播系	~	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	口縁部で光沢あり
	417	B20	I	-	鉢	口縁～腹	東播系	~	横ナデ	横ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	
	418	H30	II	24021	鉢	口縁～腹	東播系	~	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	口縁部で光沢あり
	419	I30	II	24740	鉢	口縁～腹	東播系	~	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	
	420	E21	II	19571	鉢	口縁～腹	東播系	~	横ナデ	横ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	口縁部で光沢あり
	421	E30, E32	III, IIIa	16000	鉢	口縁～腹	東播系	口径:(24.0)	ハラ模ナデ	ハケナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	
	422	H22	IIa	18631	鉢	口縁～腹	東播系	~	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	往ロ・口縁部で光沢あり、小隠含む
95	423	F30	II, IIIa	37368	鉢	口縁～腹	東播系	口径:(37.6)	ハケ, ハラナデ	ハケ, ハラナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	小隠含む
	424	F26	I, IIIa	18151	鉢	口縁～腹	東播系	口径:(26.2) 直径:(11.6) 器高:8.2	ハラ模ナデ 直系:切系 器高:8.2 →ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	
	425	E-H31	II, III	24811	鉢	口縁～腹	東播系	口径:(35.4)	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	内面部凹陥著、内面部下半部使用済
	426	G-H31, I, III J30	I, III	24339	鉢	口縁～腹	東播系	口径:(33.8)	横ナデ	横ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	小隠含む
	427	E-H31	II	-	鉢	口縁～腹	東播系	~	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	口縁部で光沢あり
	428	D53	IIa	8999	鉢	口縁～腹	東播系	~	横ナデ	横ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	
	429	G43	IIa	9064	鉢	口縁～腹	東播系	~	横ナデ	横ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	
	430	G43	IIa	9092	鉢	口縁～腹	東播系	~	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	
	431	G43	IIa	9092	鉢	口縁～腹	東播系	~	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	
	432	E-P27	I, II	18111	鉢	口縁～腹	東播系	口径:(25.0) 直径:(9.6) 器高:8.6	灰:ヘラナデ 灰:丁寧な横ナデ	ヘラナデ	灰黄灰	○	○	○	○	○	○	上半部凹凸現の 様み上げ灰灰、灰 基石含む	
96	433	H-129	D	23348	鉢	口縁～腹	東播系	~	横ナデ	横ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	口縁部で光沢あり、小隠含む
	434	E21	D	19552	鉢	口縁～腹	東播系	~	横ナデ	横ナデ	灰灰	○	○	○	○	○	○	良好	
	435	H30	D	24822	鉢	口縁～腹	東播系	~	横ナデ	横ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	
	436	H22, I25	IIIa	18622	鉢	口縁～腹	東播系	~	横ナデ	横ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	口唇部欠、口縁 袖:オーライ
	437	E28-L29	II	23824	鉢	口縁～腹	東播系	口径:(22.6)	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	
	438	F26	I	-	鉢	口縁～腹	東播系	~	横ナデ	横ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	
	439	J38	IIb	22338	鉢	口縁～腹	東播系	~	横ナデ	横ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	口縁部で光沢あり、作りが謹い
	440	I30	II	24720	鉢	口縁～腹	東播系	~	ハラ模ナデ	ハラ模ナデ	灰	○	○	○	○	○	○	良好	

第14表 東播系須恵器・カムイヤキ・備前焼・常滑・灰釉陶器観察表

検出番号	高さ mm	出土区	層	取上 番号	形種	部位	種別	法量 (cm)	整齊		色調		胎土				備考	
									外面	内面	外面	内面	白石 石	黒 石	黄 石	天 青 石	墨 石	
441	J01, J29	II	22616	鉢	口縁～底	東播系	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	須恵器類
442	E28	IIIa	36431	鉢	口縁～底	東播系	-	模ナデ	模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	口縁部で光沢あり
443	J-K29	II	23667	鉢	口縁	東播系	口径:25.0	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	
444	F-G30	II	23924	鉢	口縁～底	東播系	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰白	白	○	○	○	○	○	不良	内面にコダマや擦れ、軋質
445	F31	IIb	36671	鉢	口縁～底	東播系	-	模ナデ	模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	
446	I29	II, IIb	23908	鉢	口縁～底	東播系	口径:(35.6)	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	小継含む
447	H31	II	28492	鉢	口縁～底	東播系	-	模ナデ	模ナデ	灰白	白	○	○	○	○	○	普通	やや軟質
448	H31	II	28438	鉢	口縁～底	東播系	-	模ナデ	模ナデ	灰白	白	○	○	○	○	○	普通	
449	I29	II	24654	鉢	口縁	東播系	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	口縁部で光沢あり、小継含む
450	E29-30	II	23336	鉢	口縁～底	東播系	-	模ナデ	模ナデ	灰白	白	○	○	○	○	○	普通	口縁部でやや光沢あり、やや軟質
451	K29	II	23936	鉢	口縁	東播系	-	模ナデ	模ナデ	青白	白	○	○	○	○	○	普通	内面剥離、瓦張
452	G43	IIa	9035	鉢	口縁～底	東播系	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰白	白	○	○	○	○	○	普通	
453	B-E31	II, IIa	16034	鉢	口縁～底	東播系	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	普通	
454	D-132	II, IIIa	28272	鉢	口縁～底	東播系	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	
455	J29-30	I, II	23667	鉢	口縁～底	東播系	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰白	白	○	○	○	○	○	普通	
456	J28	II	24298	鉢	口縁～底	東播系	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰白	白	○	○	○	○	○	普通	
457	I26	I	18069	鉢	口縁～底	東播系	-	模ナデ	模ナデ	灰白	白	○	○	○	○	○	良好	小継含む
458	F30, I31	II, IIa	28270	鉢	脚～底	東播系	底径:10.0	模ナデ	模ナデ	灰白	白	○	○	○	○	○	良好	底面剥離著しい
459	J33	I	-	鉢	脚～底	東播系	底径:(9.3)	ヘラ模ナデ 底/内切	ヘラ模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	
460	I29-31	II	26380	鉢	脚～底	東播系	底径:(12.6)	ヘラ模ナデ 底/内切	ヘラ模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	
461	I-J29	II, IIa	23618	鉢	脚～底	東播系	底径:(10.8)	ヘラ模ナデ 底/施施ハケナデ	ヘラ模ナデ	灰白	白	○	○	○	○	○	良好	
462	L29	II	33962	鉢	脚～底	東播系	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	
463	I31	II	28162	鉢	脚～底	東播系	底径:(10.2)	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰白	白	○	○	○	○	○	良好	内面使用痕
464	I30, J29	II	23597	鉢	脚～底	東播系	底径:(14.6)	模ナデ	模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	普通	内外剥離著しい
465	I26	I	-	鉢	脚～底	東播系	-	ヘラ模ナデ 底/内切	ヘラ模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	普通	内面使用痕
466	G-130	II	24292	鉢	脚～底	東播系	底径:10.2	ヘラ模ナデ 底/内切	ヘラ模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	内面使用痕
467	E26-27	I, II	18379	鉢	脚～底	東播系	底径:13.0	ヘラ模ナデ 底/内切	ヘラ模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	
468	I26	IIIa	-	鉢	脚～底	東播系	-	模ナデ	模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	内面使用痕
469	E21	II	19530	鉢	脚～底	東播系	-	ヘラ模ナデ 底/内切	ヘラ模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	内面使用痕
470	J31, G30	II	24090	鉢	脚～底	東播系	底径:(9.8)	ヘラ模ナデ 底/内切	ヘラ模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	底面擦痕、小継含む
471	B27	II	20649	鉢	底	東播系	-	ヘラ模ナデ 底/内切	ヘラ模ナデ	灰白	白	○	○	○	○	○	普通	やや蓄積、軟質
472	E30	II	24775	鉢	底	東播系	-	ヘラ模ナデ 底/内切 一輪伏口底	ヘラ模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	内面使用痕
473	H31	II	28380	便	口縁	東播系	口径:(21.6)	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰白	白	○	○	○	○	○	普通	内面剥離著しい、瓦張か、軟質
474	J26	I	-	便	底	東播系	-	条底タキ 施施ナデ	条底タキ 施施ナデ	灰白	白	○	○	○	○	○	良好	内面剥離著しい
475	I25	I	-	便	底	東播系	-	条底タキ カムイヤキ	ヘラナデ	灰白	白	○	○	○	○	○	良好	
476	H43	Ia	-	便	脚	カムイ ヤキ	-	模ナデ	模ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	脚壁内部-埋存地
477	J30, J31	II	26672	便	脚	カムイ ヤキ	-	良格ニタキ ナーナ	良格ニタキ ナーナ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	脚壁内部-埋存地
478	G41	II	-	便	脚	カムイ ヤキ	-	良格ニタキ ナーナ	良格ニタキ ナーナ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	脚壁内部-埋存地
479	G41	IIa	9144	便	脚	カムイ ヤキ	-	長方形ニタキ ナーナ	ナーナ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	脚壁内部-埋存地
480	E42	IIa	10009	便	底	カムイ ヤキ	底 直径:(13.0)	ナデ	ナデ	灰	白	○	○	○	○	○	良好	脚壁内部-埋存地

第14表 東播系須恵器・カムイヤキ・備前焼・常滑焼・灰釉陶器観察表

検出番号	高さ mm	出土区	層	取上 番号	形種	部位	種別	法量 (cm)	整齊		色調		釉土				備考	
									外面	内面	外面	内面	白石 灰石 黄石 天石 黑石 墨石	黄白石 黄黑石 天黑石 黑墨石	墨石			
481	G25	IIIa	22120	縦鉢	口縁～ 腹	側面	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	赤褐色	赤褐色	○○	○○	○	○	○	良好	結構1類
482	F30	I	-	縦鉢	口縁	側面	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	暗青灰	暗青灰	○○	○	○	○	○	良好	器内部・埋立地 灰褐色1類
483	F31	I	-	縦鉢	口縁～ 腹	側面	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	褐灰 白縁・黒	褐灰 白縁・黒	○○	○○	○	○	○	良好	2類
484	E26	I	-	縦鉢	口縁～ 腹	側面	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	赤褐色	赤褐色	○○	○○	○	○	○	良好	2類
485	G41	IIa	9136	縦鉢	口縁	側面	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰褐色	灰褐色	○○	○○	○	○	○	良好	口縁に淡黄色斑 点、小縫合、2類
486	K37	I	-	縦鉢	口縁～ 腹	側面	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	褐灰	褐灰	○	○	○	○	○	良好	2類
487	F28	I	-	縦鉢	口縁～ 腹	側面	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	褐灰	褐灰	○○	○	○	○	○	良好	小縫合、3類
488	B31	IIa	15965	縦鉢	口縁	側面	-	模ナデ	模ナデ	褐灰	褐灰	○○	○	○	○	○	良好	白っぽい細縫、 小縫合、2類
489	E26	I	18017	縦鉢	口縁～ 腹	側面	-	模ナデ	模ナデ	褐	褐	○○	○○	○	○	○	良好	口縁外部灰、3類
490	J38	I	-	縦鉢	口縁～ 腹	側面	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰褐色	灰褐色	○○	○○	○	○	○	良好	口縁外部灰、 埋立地、4類
491	J28	I	-	縦鉢	口縁	側面	-	模ナデ	模ナデ	赤褐色	赤褐色	○○	○○	○	○	○	良好	内縫合、4類
492	L35	I	-	縦鉢	口縁	側面	-	模ナデ	模ナデ	赤褐色	赤褐色	○○	○	○	○	○	良好	表面剥落著、5 類
493	H34	I	-	縦鉢	口縁	側面	-	模ナデ	模ナデ	赤褐色	赤褐色	○○	○○	○	○	○	良好	口縫欠損、口 縫に灰斑、5類
494	K27	II	24128	直	口縁～ 腹	側面	-	模ナデ	模ナデ	赤褐色	赤褐色	○○	○○	○	○	○	良好	肩部外灰斑
495	I32	I	-	直	口縁～ 腹	側面	直径:(11.5)	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	にぶい赤褐	赤褐色	○○	○○	○	○	○	良好	底凹凸、小縫合
496	G33	I	-	直	口縁～ 腹	側面	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	赤褐色	赤褐色	○○	○○	○	○	○	良好	外縫と底に灰斑
497	G22, J28	I, II	20900 焦	直	口縁～ 腹	側面	島大塔:(18.0)	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰褐色	灰褐色	○○	○○	○	○	○	良好	側面に淡黄色の 斑
498	J33	I	-	直	口縁	側面	-	模ナデ	模ナデ	赤褐色	赤褐色	○○	○○	○	○	○	良好	口縫外部で灰斑 あり
499	J38	IIIa	-	直	口縁～ 腹	側面	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰	灰	○○	○○	○	○	○	良好	口縫輪で灰斑あ
500	F21	I	-	直	直	常滑	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ→ 模且当乳頭	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○○	○○	○	○	○	良好	側面、501と同一 個体
501	H26	I	18184	直	直	常滑	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ→ 模且当乳頭	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○○	○○	○	○	○	良好	側面、500と同一 個体
502	E21	II	19557	直	直	常滑	透徑:(7.6)	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰	灰 透鏡	○○	○○	○	○	○	良好	内面自然灰斑
503	J35	I	-	直	口縁～ 腹	常滑	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	にぶい場 の場	にぶい場 の場	○○	○○	○	○	○	良好	内面厚い自然灰 斑、引きぶくれ
504	E31	I	-	直	口縁	常滑	-	模ナデ	模ナデ	灰 模・オリーブ	灰 模・オリーブ	○	○	○	○	○	良好	内外自然灰斑
505	E22	II	19619	直	直	常滑	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	褐灰 模・球 モリーブ	褐灰 模・球 モリーブ	○○	○○	○	○	○	良好	外側厚い自然灰 斑、引きぶくれ
506	R27	I	-	直	直	常滑	-	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	灰 模・球 モリーブ	灰 模・球 モリーブ	○	○	○	○	○	良好	内外自然灰斑
507	D29, F28	I, II	17134 焦	直	直	常滑	透徑:(23.0)	ヘラ模ナデ	ヘラ模ナデ	褐灰 模・球 モリーブ	褐灰 模・球 モリーブ	○○	○○	○	○	○	良好	外側厚い自然灰 斑、引きぶくれ
508	L29	II	23902	直	直	常滑	-	ヘラナデ	ヘラナデ	灰黃褐色	灰黃褐色	○○	○○	○	○	○	良好	内面自然灰斑、 小縫合付
509	B20, E25, F21	I, II	17999 焦	直	直	常滑	透徑:(16.0)	ヘラナデ	ヘラナデ	にぶい場 の場	にぶい場 の場	○○	○○	○	○	○	良好	内面厚い自然灰 斑
510	E1, G30 E27, 29 E30 遺物集中 1号	I, II	23378	直	脚丁～ 底	常滑	透徑: 16.0	ヘラ模ナデ 直・球底	ヘラ模ナデ	褐灰 模・球 モリーブ	褐灰 模・球 モリーブ	○○	○○	○	○	○	良好	
511	D18	II	18944	印盒	口縁～ 腹	灰輪海 器	-	ヘラナデ	ヘラナデ	灰白 模・球 モリーブ灰	灰白 模・球 モリーブ灰	○	○	○	○	○	良好	内面薄い細
512	E36	IIIa	-	印盒	直	灰輪海 器	-	ヘラナデ	ヘラナデ	灰白 模・球 モリーブ灰	灰白 模・球 モリーブ灰	○○	○○	○	○	○	良好	外側破損、内面 縫合・粘
513	G27	I	17899	印盒	直	灰輪海 器	透徑: 10.6	ヘラナデ→ 英 台内格子ヘラ 縫合	ヘラナデ	褐灰 模・球 モリーブ灰	褐灰 模・球 モリーブ灰	○	○	○	○	○	良好	高面には露 出、4ヶ所に目 皿、小縫合付

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

番号	測定番号	出土区	層	取上番号	器種	部位	種別	重量 (g)	文様	色調		施釉範囲	焼成	产地	古文分類	分類	備考
										紺土	釉色						
514	D31-32	I, II, III E30-31-32 F31-32	23052	他	罐	口縁	青磁	口径:(17, 0) 内:横位櫛彫文 外:弧状櫛彫文、押圧 文	灰白	オリーブ黄	脚下半無釉	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1b類		
	B32	II b	16128	罐	口縁	青磁	-	-	灰	明オリーブ灰	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I類		
	G31	II	27532	罐	口縁	青磁	-	内:横位沈縞文、櫛彫 文	灰	オリーブ灰	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1a類		
	E22-31 F31, K30	II, IIa, III J3a	19633	他	罐	口縁	青磁	-	-	灰	灰オリーブ	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	II類	
	F30	II b	36035	他	罐	口縁	青磁	-	-	灰白	オリーブ灰	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	II類	貢入
	B33, E31 F32, G30-33 H31	I, II, III J3a	24914	他	罐	口縁	青磁	口径:(17, 0) 内:浅沈縞2条	灰白	浅黃	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	II類	貢入	
	G31, L34	II, IIa	27693	他	罐	口縁	青磁	口径:(15, 6) 内:浅沈縞1条	灰	暗オリーブ	脚下半無釉	良好	同安 窯系	同安 窯系	II類	貢入	
	F29	II b	-	他	罐	口縁	青磁	-	外:横位沈縞文	灰白	オリーブ灰	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	II類	再泛、 内面入
	B32-34 F31, K36	I, II	-	他	罐	口縁	青磁	口径:(18, 2) 外:斜位浅沈縞文	灰白	オリーブ黄	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	II類	4mmの石英 質磚合	
	B29-31 D29-31 I, II J3b	24738	他	罐	口縁	青磁	口径:(18, 1) 内:横位沈縞文、界線 内:波状沈縞文	浅黃	に赤い黄	外面部切	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1a類	見込み数有		
521	I33	I	-	罐	口縁	青磁	-	外:横位櫛彫 内:三足	灰白	灰オリーブ	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1か II類	520と同一	
	G31, H30	I, II	24849	他	罐	脚	青磁	-	外:横位櫛彫 内:三足	灰白	灰オリーブ	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1か II類	521と同一
	H-J 31	I, II	28364	他	罐	脚	青磁	-	外:櫛彫文	灰	オリーブ黄	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1か II類	
	G43	II a	9047	罐	脚下	青磁	-	外:横位平行線片割	灰白	オリーブ黄	脚下部無釉	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1か II類		
	D42	I	-	瓶	底	青磁	底径:(5, 0)	-	灰	オリーブ灰	底部無釉	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1a類	内貢入	
	B29-30, 130	II	24793	底	口縁	青磁	底径:(10, 2) 直径:(4, 8) 高さ:1.9	内:横彫文、ヘラ片彫文	灰白	灰オリーブ	底部無釉	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1類		
	G31	II	27660	底	口縁	青磁	-	内:片彫文	灰	オリーブ灰	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1類		
	F43	II a	9825	底	口縁	青磁	底径:(5, 4)	内:横彫文、ヘラ片彫文	灰白	明オリーブ灰	底部無釉	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1類	浅に浅い穴	
	F31	II b	36642	底	口縁	青磁	底径:(10, 4)	-	灰	明オリーブ灰	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1類		
	I30	II	24776	底	口縁	青磁	底径:(10, 0)	-	灰	オリーブ黄	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I類		
535	K37	III a	24564	底	口縁	青磁	底径:(13, 6)	-	灰	明オリーブ灰	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I類		
	E41	I	-	大瓶	口縁	青磁	-	-	灰白	オリーブ黄	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I類	貢入	
	F32	I	-	罐	口縁	青磁	口径:(16, 4)	-	灰白	明緑灰 白縁、底るい、噴 灰	-	良好	同安 窯系	青磁 窯系	I-1a類		
	E30, F31	I, III b	36623	罐	口縁	青磁	口径:(16, 4)	-	灰白	明緑灰	-	良好	同安 窯系	青磁 窯系	I-1a類		
	E24	匣	-	罐	口縁	青磁	口径:16cm?	-	灰白	明オリーブ灰	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1a類		
	F31	II b	36779	罐	口縁	青磁	-	-	灰白	オリーブ黄 口縁:オリーブ黄	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1a類		
	I29	II	23387	罐	口縁	青磁	-	-	灰白	灰オリーブ	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1a類		
	G43	III	15983	罐	口縁	青磁	-	-	に赤い赤 黒	黄黒	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1a類		
	O32	II	-	罐	口縁	青磁	-	-	灰	灰オリーブ 口縁:明青灰	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1a類		
	G43	III	-	罐	口縁	青磁	-	-	灰	灰オリーブ	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1a類		
545	E32	II b	16169	罐	口縁	青磁	-	-	灰	緑灰 口縁:明るい	-	良好	同安 窯系	青磁 窯系	I-1a類		
	G31, L38	I, II	27518	罐	底	青磁	底径:(6, 5)	-	灰	灰オリーブ 底:灰	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1a類		
	K29	I	-	罐	底	青磁	底径:(6, 5)	-	灰白	灰	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1a類		
	D29	II	17136	罐	底	青磁	底径:(6, 4)	-	灰	暗オリーブ	高台～高台内無 釉	-	良好	同安 窯系	同安 窯系	I-1a類	貢入、日直

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

番号	測定番号	出土区	層	取上番号	標高	位置	種別	重量 (g)	文様	色調		施釉範囲	焼成	高地	水古分類	分類	備考
										船土	輪底						
548	032	II	-	磯 口縫 背磁	-	内:花文	灰白	灰オーラブ		良好	青磁	窓	良好	窓	1-2類		
549	E31+32, H30	II	-	磯 口縫 背磁	-	内:片斷蓮華文	灰白	オリーブ灰		良好	青磁	窓	良好	窓	1-2類		
550	E31	II	-	磯 口縫 背磁	-	内:片斷蓮華文	灰	灰オーラブ		良好	青磁	窓	良好	窓	1-2類	貢入	
551	E29, J31	II	36429	磯 口縫 背磁	-	内:片斷蓮華文	灰白	灰オーラブ		良好	青磁	窓	良好	窓	1-2類		
552	032	II	-	磯 口縫 背磁	-	内:片斷蓮華文	灰白	灰オーラブ		良好	青磁	窓	良好	窓	1-2類	貢入	
553	F32, G31	I	-	磯 口縫 背磁	-	内:片斷蓮華文	灰白	灰オーラブ		良好	青磁	窓	良好	窓	1-2類	貢入	
554	G31, J29	II	24294	磯 脚 背磁	-	内:片斷と輪廻で蓮華 蔓文	灰白	灰オーラブ		良好	青磁	窓	良好	窓	1-2類		
555	K30	I	-	磯 脚 背磁	-	内:片斷キノコ状文	灰白	灰オーラブ		良好	青磁	窓	良好	窓	1-2類	貢入	
556	G32+43	I	-	磯 脚 背磁	-	内:片斷と輪廻で蓮華 文	灰	灰オーラブ		良好	青磁	窓	良好	窓	1-2類	貢入	
557	E24	II	20046	磯 底 背磁	底径:(6.2)	内:片斷と輪廻で蓮華 文	灰	灰オーラブ	高台内無釉	良好	青磁	窓	良好	窓	1-2類		
558	F30, G31	II	29624	磯 脚 背磁	底径:(5.8)	内:浅い團體、片斷蓮華 蔓文	灰	灰オーラブ	高台内無釉	良好	青磁	窓	良好	窓	1-2類	貢入 見込み跡目	
559	E32, G31	I	Ba	11417	磯 口縫 背磁	口径:(17.2) 内:日本分類团體、片斷 蓮華蔓文	灰白	灰白	灰白	良好	青磁	窓	良好	窓	1-4類		
560	G31	II	27679	磯 口縫 背磁	-	内:不明文	灰白	オーラブ灰、口 縫 内青磁青釉	良好	青磁	窓	良好	窓	1-4類			
561	137	III	24545	磯 底 背磁	底径:(5.6)	見込み:團體、片斷蓮華 蔓文及片斷キノコ状文	灰白	灰オーラブ	高台内無釉	良好	青磁	窓	良好	窓	1-2~4類		
562	F27	I	17907	磯 底 背磁	底径:(6.2)	見込み:團體、片斷蓮華 蔓文及片斷キノコ状文	灰	灰オーラブ	高台内無釉	良好	青磁	窓	良好	窓	1-2~4類		
563	126	I	18197	磯 底 背磁	-	見込み:團體、片斷蓮華 蔓文及片斷キノコ状文	灰	灰オーラブ	高台内無釉	良好	青磁	窓	良好	窓	1-2~4類		
564	E30	III	16019	磯 口縫 背磁	口径:(16.2)	-	灰赤	オーラブ灰		良好	青磁	窓	良好	窓	1類か 2類		
565	F31	I	Bb	36653	磯 底 背磁	底径:(5.4)	-	灰白	灰オーラブ	盤付～高台内無 釉	良好	青磁	窓	良好	窓	1類か 2類	貢入
566	E21	I	-	磯 脚 背磁	底径:(5.2)	-	灰白	灰オーラブ	盤付～高台内無 釉	良好	青磁	窓	良好	窓	1類か 2類	盤付に妙	
567	J29	II	23614	磯 底 背磁	底径:(5.2)	-	灰白	オーラブ灰	盤付～高台内無 釉	良好	青磁	窓	良好	窓	1類か 2類		
568	F32, H30	II	B	24050	磯 脚 背磁	底径:(5.2)	-	灰	オーラブ灰	盤付～高台内無 釉	良好	青磁	窓	良好	窓	1類か 2類	小碗?
569	C27-28	I	-	磯 底 背磁	底径:(4.8)	見込み:幾何学文	灰白	オーラブ灰	盤付～高台内無 釉	良好	青磁	窓	良好	窓	1類か 2類		
570	D33	II	-	磯 口縫 背磁	口径:(17.2) 外:片斷蓮華井文	赤褐	灰オーラブ		良好	青磁	窓	良好	窓	日-類			
571	H30	II	24842	磯 口縫 背磁	口径:(16.1) 外:片斷蓮華井文	灰	灰オーラブ		良好	青磁	窓	良好	窓	日-類			
572	F32	II	-	磯 口縫 背磁	-	外:片斷蓮華井文	灰	灰オーラブ		良好	青磁	窓	良好	窓	日-類		
573	H30	II	24018	磯 口縫 背磁	-	外:片斷蓮華井文	灰	オーラブ灰		良好	青磁	窓	良好	窓	日-類		
574	H30	II	24038	磯 口縫 背磁	-	外:片斷蓮華井文	灰	暗オーラブ		良好	青磁	窓	良好	窓	日-類		
575	H1	-	磯 脚 背磁	-	外:片斷蓮華井文	灰	灰白	良好	青磁	窓	良好	窓	日-類				
576	G30	II	23951	磯 口縫 背磁	-	外:片斷蓮華井文	灰	灰オーラブ		良好	青磁	窓	良好	窓	日-類		
577	G32	I	-	磯 脚 背磁	-	外:片斷蓮華井文	灰	オーラブ灰		良好	青磁	窓	良好	窓	日-類		
578	E28-30	IIa+b	17918	磯 脚 背磁	底径:(5.8)	外:片斷蓮華井文	灰	暗オーラブ	高台内部分的に無 釉	良好	青磁	窓	良好	窓	日-類	高台内砂目	
579	F23, J28	II	22352	磯 脚 背磁	底径:(5.4)	外:片斷蓮華井文	灰	灰オーラブ	高台内部分的に無 釉	良好	青磁	窓	良好	窓	日-類	高台内砂目	
580	F30	I	-	磯 底 背磁	底径:(5.1)	外:片斷蓮華井文	赤褐	灰オーラブ	高台無釉	良好	青磁	窓	良好	窓	日-類		
581	E-J28	II	17919	磯 完形 背磁	口径:(16.0) 底径:(5.0) 窓:(7.3)	外:弧線文 内:三足様の文様 見込み:團體、ヘラ形施 文	灰	オーラブ灰	盤付～高台内無 釉	良好	青磁	窓	良好	窓	日-類		
582	J30	II	23683	磯 口縫 背磁	口径:(16.4)	外:弧線文	灰	オーラブ灰	良好	青磁	窓	良好	窓	日-類			
583	H29	II	26434	磯 口縫 背磁	口径:(15.0)	外:弧線文 にぶい霜	灰	灰オーラブ	良好	青磁	窓	良好	窓	日-類			
584	I29	II	24639	磯 口縫 背磁	口径:(16.2)	外:弧線文	灰白	オーラブ灰	良好	青磁	窓	良好	窓	日-類			
585	G30	II	23929	磯 口縫 背磁	口径:(16.2)	外:弧線文	灰白	明オーラブ灰	良好	青磁	窓	良好	窓	日-類			
586	E-J30	II	23655	磯 脚 背磁	口径:(16.0)	外:弧線文	灰白	明オーラブ灰	良好	青磁	窓	良好	窓	日-類			
587	129	II	26372	磯 口縫 背磁	口径:(17.2)	外:弧線文	灰	オーラブ灰	良好	青磁	窓	良好	窓	日-類			

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

番号	測量番号	出土区	層	取上番号	器種	部位	種別	重量 (g)	文様	色調		施釉範囲	焼成	高地	水古分類	分類	備考		
										紺土	輪底								
104	588	I	H29	B	24611	碗	口縁	青磁	口径:(16.5) 外:施薙弁文	灰	暗オーラーブ		良好	青磁	青磁	II-b類			
	589	136, 228	II	23547	碗	口縁	青磁	内:脚	青磁	口径:(16.0) 外:施薙弁文	灰	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類		
	590	R25	II	23312	碗	口縁	青磁	-	外:施薙弁文	灰	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類			
	591	F30	II	36542	碗	口縁	青磁	-	外:施薙弁文	灰	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類			
	592	F41	II	II	-	碗	口縁	青磁	-	外:施薙弁文	灰	明オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類		
	593	G30	II	23939	碗	口縁	青磁	内:脚	青磁	-	外:施薙弁文	灰	明オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類	
	594	H21	II	21019	碗	口縁	青磁	-	外:施薙弁文	灰	明オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類			
	595	126	I	18758	碗	口縁	青磁	-	外:施薙弁文	灰	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類			
	596	D32	II	-	碗	口縁	青磁	-	外:施薙弁文	灰	灰オーラーブ		良好	青磁	青磁	II-b類	貢入		
	597	F32, H29	II	23341	碗	脚~底	青磁	底径:(6.0) 見込み:八花茎	灰	オーラーブ灰	鶴付~高台内無釉	良好	青磁	青磁	II-b類	貢入			
105	598	G24	II	-	碗	底	青磁	底径:	5.4 見込み:圓錐, 楊魯文	灰白	オーラーブ灰	鶴付~高台内無釉	良好	青磁	青磁	II-b類	貢入 高台外砂目		
	599	H30	II	24876	碗	脚~底	青磁	底径:	5.8 外:施薙弁文	灰	明緑灰	鶴付~高台内無釉	良好	青磁	青磁	II-b類			
	600	138	II	-	碗	底	青磁	底径:	5.7	-	灰白	灰オーラーブ	鶴付~高台内無釉	良好	青磁	青磁	II類		
	601	F28	I	18770	碗	脚~底	青磁	底径:(5.6) 見込み:草花文	灰	緑灰		良好	青磁	青磁	II-b類				
	602	F21	II	18627	碗	底	青磁	底径:	5.0 見込み:草花文	灰	オーラーブ	鶴付~高台内無釉	良好	青磁	青磁	II-b類	貢入 高台砂目		
	603	P27	II	-	碗	底	青磁	底径:	5.7 外:施薙弁文	灰	オーラーブ灰	鶴付~高台内無釉	良好	青磁	青磁	II-b類	高台砂目		
	604	J31	I	-	碗	脚~底	青磁	底径:	5.8 外:施薙弁文	灰	灰オーラーブ	鶴付~高台内無釉	良好	青磁	青磁	II-b類	貢入		
	605	K30	II	-	碗	脚~底	青磁	底径:	4.8 見込み:魚と蟹?	灰白	明オーラーブ灰	高台内無釉	良好	青磁	青磁	II-b類	高台内砂目痕		
	606	J28	I	-	碗	脚~底	青磁	底径:	5.4 見込み:圓錐	灰白	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類			
	607	G22	II	a	18613	碗	口縁	青磁	-	外:施文	灰	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類		
106	608	E42	II	a	-	碗	口縁	青磁	-	外:施文	灰黃	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類		
	609	F·K30	II	27422	碗	口縁	青磁	-	外:施文	灰黃	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類			
	610	H22	II	a	-	碗	口縁	青磁	-	外:施文	灰	にぶい黄緑		良好	青磁	青磁	II-b類		
	611	129	I	-	碗	口縁	青磁	-	外:施文 内:施文	灰	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類			
	612	K29	I	-	碗	口縁	青磁	口径:(14.0)	外:施文	灰	にぶい黄緑		良好	青磁	青磁	II-b類			
	613	J28	I	-	碗	口縁	青磁	口径:(12.0)	外:施文	灰	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類			
	614	G32·H1	II	B	-	碗	口縁	青磁	口径:(14.0)	外:施文	灰	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類		
	615	E41	II	a	-	碗	口縁	青磁	口径:(15.0)	外:施文	灰	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類	気泡	
	616	F30	I	-	碗	口縁	青磁	口径:(15.0)	外:施文	灰白	緑灰		良好	青磁	青磁	II-b類			
	617	F41	I	a	-	碗	口縁	青磁	口径:(15.0)	外:施文	灰白	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類		
107	618	F30	I	-	碗	口縁	青磁	内:脚	青磁、ラマ式透 文	灰白	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類			
	619	J30	I	-	碗	口縁	青磁	-	外:施文	灰白	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類			
	620	G32	I	-	碗	口縁	青磁	-	外:施文楷	灰白	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類			
	621	J31	I	-	碗	口縁	青磁	-	内:沈文	灰白	灰オーラーブ		良好	青磁	青磁	II-b類	貢入		
	622	D32	II	a	15952	碗	脚	青磁	-	外:施文楷、ラマ式透 文	灰白	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類		
	623	F21	I	-	碗	脚	青磁	-	外:施文楷、ラマ式透 文	灰白	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類	背面貢入		
	624	K29	I	-	碗	脚~底	青磁	底径:(6.1)	外:施文 内:見込み:界線、草花文	灰白	オーラーブ灰	高台内無釉	良好	青磁	青磁	II-b類			
	625	L38	II	-	碗	脚~底	青磁	底径:	5.8 外:草花文 内:施文、スタンプ文	灰白	オーラーブ灰	高台内無釉	良好	青磁	青磁	II-b類	高台内砂目痕		
	626	I-J26-27	I	-	碗	口縁	青磁	口径:(15.0)	見込み:界線	灰白	オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類			
	627	L28	I	-	碗	口縁	青磁	口径:(13.4)	-	灰白	明オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類	内反 外内質入		
	628	F30	I	-	碗	口縁	青磁	-	-	灰	明オーラーブ灰		良好	青磁	青磁	II-b類	内外質入		

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

序号	測量番号	出土区	層	取上番号	標高	位置	種別	重量 (g)	文様	色調		釉料範囲	焼成	产地	古文分類	分類	備考
										航土	輪胎						
	629	J22	II	-	縦	口縁	青磁	-	-	灰	明オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-1	内外貢入	
	E32	I	-	縦	口縁	青磁	口徑:(15.4) 外面:浅凹縫2条	-	灰白	明オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-1	1か所複数		
	631	143	IIb	15610	縦	口縁	青磁	口徑:(18.4)	-	灰白	明オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-1		
	632	J38	IIb	23031	縦	口縁	青磁	口徑:(15.4)	-	灰白	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2		
	633	J38	I	-	縦	口縁	青磁	口徑:(16.0)	-	灰白	明オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	内外貢入	
	634	J28	I	-	縦	口縁	青磁	口徑:(16.6)	-	灰	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	内外貢入	
	635	E20	II	-	縦	口縁	青磁	口徑:(16.6)	-	灰	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	内外貢入	
	636	J38	IIIa	23120	縦	口縁	青磁	-	-	灰	灰オーラープ	良好	織錦	青磁	上田D-2	内外貢入	
	637	G25	I	18756	縦	口縁	青磁	-	-	灰	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	内外貢入	
	638	E37	IIb	-	縦	口縁	青磁	-	-	灰白	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	内外貢入	
	639	C27-28	I	-	縦	脚	青磁	-	内:印龍文?	灰白	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	脚?	
107	640	J28	I	-	縦	口縁	青磁	口徑:(6.0)	-	灰白	明緑灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	質入	
	641	J38	I	-	縦	底	青磁	底径:(5.4)	-	灰	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-1		
	642	D29	II	17137	縦	底	青磁	底径:(6.0)	-	灰白	オーラープ灰	良好	高台内攝取	青磁	上田D-1		
	643	J38	I	-	縦	底	青磁	-	見込み:草花スタンプ文	褐灰	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	内:面貢入	
	644	J32	I	-	縦	底	青磁	底径:(6.2)	見込み:草花スタンプ文	灰白	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	内:面貢入	
	645	325, J28	I	-	縦	底	青磁	底径:(5.5)	見込み:團錦、草花スタンプ文	灰白	明緑灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	IV-イ類	
	646	J28	I	-	縦	底	青磁	底径:(5.6)	-	灰白	明オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	IV-イ類	
	647	J38	IIIa	23109	縦	底	青磁	底径:(6.2)	内:外:「木」の擬似沈縫 見込み:草花スタンプ文	灰	オーラープ灰	良好	高台内粒の目状 輪胎	青磁	上田D-2	内:面貢入 高台欠損	
	648	F29	IIb	36308	縦	底	青磁	底径:(6.0)	見込み:草花スタンプ文	灰白	明オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	IV-イ類	
	649	K21, K29	I, II	23809	縦	底	青磁	底径:(5.2)	見込み:草花スタンプ文	灰白	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	IV-イ類	
	650	J38	IIb	23030	縦?	底	青磁	底径:(6.6)	-	灰	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	IV-イ類	
	651	E23	I	-	縦	底	青磁	底径:(5.0)	-	灰白	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	IV-イ類	
108	652	K28	I	-	縦	底	青磁	底径:(9.4)	見込み:貼付薺花文 にぶい黃 根	灰白	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	質入	
	653	J29	I	-	縦	口縁	青磁	口徑:(13.0)	-	灰	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	IV-イ類	
	654	G21	IIa	18585	縦	口縁	青磁	口徑:(12.0)	-	灰~黄褐	黄灰	良好	織錦	青磁	上田D-2		
	655	F21	I	-	縦	口縁	青磁	口徑:(12.0)	-	灰	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2		
	656	K28	II	23621	縦	口縁	青磁	口徑:(13.1)	-	灰	灰オーラープ	良好	織錦	青磁	上田D-2		
	657	E21	II	19550	縦	口縁	青磁	口徑:(13.0)	-	灰	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	質入	
	658	H21	IIa	18650	縦	口縁	青磁	口徑:(11.6)	-	灰	オーラープ	良好	織錦	青磁	上田D-2	死訣なし	
	659	H26	I	18260	縦	口縁	青磁	口徑:(13.2)	-	灰	灰オーラープ	良好	織錦	青磁	上田D-2	質入	
	660	E21	II	19558	縦	口縁	青磁	-	-	灰	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	質入	
	661	F21	II	18900	縦	口縁	青磁	-	-	灰	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2		
	662	I	-	縦	口縁	青磁	口徑:(12.3) 底径:(5.7) 露芯:(3.1)	内:團錦、薺花文 見込み:團錦、桜花文と 「舟」字	灰	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	破花皿		
	663	O20	II	-	縦	口縁	青磁	口徑:(11.9)	内:口縁:沈縫2条	灰	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	質入、模花皿	
	664	G40	IIa	9178	縦	口縁	青磁	-	内:地開文 内:團錦2条、草花文	灰白	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	内:面貢入、模花皿	
	665	G43	I	-	縦	口縁	青磁	口徑:(11.8)	内:口縁:沈縫2条	灰	灰オーラープ	良好	織錦	青磁	上田D-2	質入、内面砂目、模花皿	
	666	G24	II	22143	縦	口縁	青磁	-	内:口縁:沈縫2条	灰	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	質入、模花皿	
	667	D41	IIa	-	縦	口縁	青磁	-	内:口縁:沈縫2条	灰	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	質入、模花皿	
	668	G41	I	-	縦	口縁	青磁	-	-	灰	オーラープ灰	良好	織錦	青磁	上田D-2	質入、口縁砂利、模花皿	

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

序回 番号	測量 番号	出土区	層	取上番号	器種	部位	種別	直量 (cm)	文様	色調		施釉範囲	焼成	高地	水古 分類	分類	備考
										紺土	輪底						
109	669	D20	I	-	皿	口縁	青磁	-	内:沈綱1条	灰	オリーブ灰	良好	継ぎ 青磁系	上部	継ぎ花皿		
	670	E42	II-a	-	皿	口縁	青磁	-	内:沈綱2~3条	灰	オリーブ灰	良好	継ぎ 青磁系	上部	継ぎ花皿		
	671	E37	II-b	-	皿	口縁	青磁	口徑:(11.0)	外:蓮唐文 内:吉慶文	灰白	明オーラブ灰	良好	継ぎ 青磁系	中部	基筒底?		
	672	E21	II	17977	皿	口縁	青磁	口徑:(12.0)	外:蓮唐文 内:吉慶文	灰白	オリーブ灰	良好	継ぎ 青磁系	中部	基筒底?		
	673	F43	II-a	-	皿	口縁	青磁	口徑:(9.4)	-	灰	オリーブ灰	良好	継ぎ 青磁系	上部	継ぎ花皿		
	674	H30	II	24651	皿	口縁	青磁	口徑:(10.4)	-	灰白	明オーラブ灰	良好	継ぎ 青磁系	上部	継ぎ花皿		
	675	C12	I	-	皿	底	青磁	底径:(7.5)	見込み:團練、草花文	灰白	オリーブ灰	高台内一部無釉	良好	継ぎ 青磁系			
	676	E24	I	-	皿	底	青磁	底径:(6.2)	見込み:花スタンプ文	灰	暗オーラブ	盤付~高台内無 釉	良好	継ぎ 青磁系			
	677	J29	I	-	皿	底	青磁	-	-	灰	明オーラブ灰	見込み輪状輪刻、 外腹下~高台内 無釉	良好	継ぎ 青磁系			
	678	K37	I	-	皿	底	青磁	底径:(6.0)	-	灰白	灰白	見込み輪状輪刻、 盤付~高台内無 釉	良好	継ぎ 青磁系			
110	679	L28	I	-	皿	底	青磁	底径:(7.6)	-	灰白	オリーブ灰	見込み輪状輪刻、 高台内無釉	良好	継ぎ 青磁系			
	680	J28	I	-	皿	底	青磁	底径:(4.6)	-	灰白	淡黄	見込み輪状輪刻、 盤付~高台内無 釉	良好	継ぎ 青磁系			
	681	I40	I	-	皿	底	青磁	底径:(4.8)	外:螺旋線 見込み:菊花文	灰白	明緑灰色	盤付~高台内~ 無釉	良好	継ぎ 青磁系			
	682	H21	II-a	18676	折 口縁 ~脚	青磁	口徑:(13.0)	外:片断蓮弁文	灰	明オーラブ灰	-	-	-	継ぎ	IV類	口縫外反	
	683	I29	II	23401	小皿	口縁	青磁	-	-	灰白	オリーブ灰	-	継ぎ	継ぎ	I-I類		
	684	F32	I	-	小皿	口縁	青磁	-	口縁:継縫凹1条	灰白	オリーブ灰	-	継ぎ	継ぎ	基筒底? 外腹入		
	685	P23	II	21957	小皿	底	青磁	底径:(3.0)	-	灰白	明オーラブ灰	外腹脚下~無釉 袖	良好	継ぎ 青磁系		基筒底? 内腹入	
	686	O27	I	18155	盤	口縁	青磁	-	-	灰白	オリーブ灰	-	継ぎ	継ぎ	継ぎ 外腹入		
	687	J26-27	I	-	盤	脚子 半 高台	青磁	底径:(5.6)	見込み:浅い花弁スタ ンプ文	灰白	オリーブ灰	脚下半~高台内 無釉	良好	継ぎ 青磁系			
	688	F30	I	-	盤	脚子 底	青磁	底径:(4.4)	-	灰白	明オーラブ灰	-	継ぎ 青磁	継ぎ	見込み脚子 高台砂付 李研陶器?		
	689	J28	I	-	盤	脚子 底	青磁	底径:(4.4)	-	黄灰	オリーブ灰	外腹無釉	良好	継ぎ 青磁		李研 砂付 李研陶器?	
	690	F31, H30	L, II	27596	盤	口縁 ~底	白磁	口徑:(16.0)	底径:(6.8) 器高:6.5	-	灰白	灰白	脚下半~高台内 無釉	良好	白継 上部	IV-1	
	691	C27-28, G25	I	20376	盤	口縁 ~底	白磁	口徑:(16.8)	底径:(7.2) 器高:6.5	-	灰白	灰白	脚下半~高台内 無釉	良好	白継 上部	IV類	
112	692	J29-30 L29, S206	①II	23721	盤	口縁 ~底	白磁	口徑:(17.5)	底径:7.0 器高:6.6	-	灰白	灰白	脚下半~高台内 無釉	良好	白継 上部	IV類	
	693	I29	II	24681	盤	口縁	白磁	口徑:(17.0)	-	灰白	灰白	-	良好	白継 上部	IV類		
	694	I29	II	26370	盤	口縁	白磁	口徑:(17.0)	-	灰白	灰白	-	良好	白継 上部	IV類		
	695	H29	II	23380	盤	口縁	白磁	口徑:(16.0)	-	灰白	灰白	-	良好	白継 上部	IV類		
	696	L35	III-a	18593	盤	口縁	白磁	口徑:(17.6)	-	灰白	灰白	-	良好	白継 上部	IV類		
	697	G22	II-a	18593	盤	口縁	白磁	-	-	灰白	灰白	-	良好	白継 上部	IV類		
	698	F30	I, II	27462	盤	口縁 ~脚	白磁	口徑:(16.2)	-	灰白	灰白	-	良好	白継 上部	IV類		
	699	G31, H30	II	24682	盤	口縁	白磁	口徑:(16.8)	-	灰白	灰白	脚下半無釉	良好	白継 上部	IV類		
	700	J30, K29	I, II	25242	盤	口縁 ~脚	白磁	口徑:(18.4)	-	灰白	灰白	脚下半無釉	良好	白継 上部	IV類		
	701	E31	II	16625	盤	口縁 ~脚	白磁	口徑:(16.0)	-	灰白	灰オーラブ	脚下半無釉、口縁 脚半に無釉	良好	白継 上部	IV類		
	702	J29	II	25425	盤	底	白磁	底径:(5.3)	-	灰白	オーラブ	外腹無釉	良好	白継 上部	B-II類	内面黒地 内腹入	
	703	K30	II	30043	盤	底	白磁	底径:(5.6)	-	灰白	灰オーラブ	外腹無釉	良好	白継 上部	B-II類		
	704	G30, J29	II	23925	盤	口縁 ~脚	白磁	口徑:(18.0)	-	灰白	灰白	脚下半無釉	良好	白継 上部	IV類		

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

番号	測定番号	出土区	層	取上番号	器種	部位	種別	重量(g)	文様	色調		種類範囲	焼成	高地	古文書分類	分類	備考
										紺土	褐色						
112	705	G32, I29-30	II	23909	碗	口縁	白磁	-	-	灰白	灰白	脚下平無輪	良好	白磁	IV類		
	706	G30-31	II	23961	碗	口縁	白磁	-	-	灰白	灰白	脚下平無輪	良好	白磁	IV類		
	707	E21-22	II	19551	碗	口縁	白磁	口径:(16.7)	-	灰白	灰白	-	良好	白磁	IV類		
	708	F31, G32	II	36725	碗	口縁	白磁	口径:(16.2)	-	灰白	灰白	脚下平無輪	良好	白磁	IV類		
	709	J26	I	-	碗	口縁	白磁	口径:(16.2)	-	灰白	灰白	-	良好	白磁	IV類		
	710	K35	IIIa	34023	碗	口縁	白磁	口径:(16.5)	-	灰白	灰白	-	良好	白磁	IV類		
	711	I30, J29	II	23925	碗	口縁	白磁	口径:(16.2)	-	灰白	灰白	脚下平無輪	良好	白磁	IV類		
	712	F32, G31	I, II	27624	碗	口縁	白磁	口径:(16.6)	-	灰白	灰白	脚下平無輪	良好	白磁	IV類		
	713	H31, J28	II	25065	碗	口縁	白磁	口径:(16.0)	-	灰白	灰白	-	良好	白磁	IV類		
	714	F32, G30-31	II	23925	碗	口縁	白磁	口径:(16.5)	-	灰白	灰白	脚下平無輪	良好	白磁	IV類		
	715	H20, J26	I, II	21096	碗	口縁	白磁	口径:(16.4)	-	浅黄	灰白	脚下平無輪	良好	白磁	IV類		
	716	T31	II	28275	碗	口縁	白磁	口径:(16.6)	-	灰白	灰白	-	良好	白磁	IV類		
	717	F31-32	II	36708	碗	口縁	白磁	口径:(17.0)	-	浅黄	灰白	-	良好	白磁	IV類		
	718	H43	II	10699	碗	口縁	白磁	口径:(18.1)	-	灰白	浅黄	-	良好	白磁	IV類		
	719	F32	IIa	11392	碗	口縁	白磁	口径:(15.4)	-	灰白	灰白	脚下平無輪	良好	白磁	IV類		
	720	E32	IIIa	16295	碗	口縁	白磁	口径:(14.2)	-	灰白	灰白	脚下平無輪	良好	白磁	IV類		
	721	D32	II	-	碗	底	白磁	底径:7.2	-	灰白	灰白	外面無輪	良好	白磁	IV類		
113	722	G31, J30	II	25122	碗	底	白磁	底径:6.7	見込み:沈澱	灰白	灰白	内面無輪, 外面無輪	良好	白磁	IV類		
	723	E33, G41	II	11923	碗	底	白磁	底径:6.8	見込み:沈澱	灰白	灰黃	外面無輪	普通	白磁	IV類		
	724	K28	II	23926	碗	底	白磁	底径:6.4	-	灰白	浅黄	外面無輪	普通	白磁	IV類		
	725	F27, G31-32	I, II	18336	碗	底	白磁	底径:7.6	見込み:沈澱	淡黄	灰白	脚下平~高台内無輪	良好	白磁	IV類		
	726	F32, G31	II	39208	碗	底	白磁	底径:7.0	見込み:沈澱	灰白	灰白	脚下平~高台内無輪	良好	白磁	IV類		
	727	F27	II	18861	碗	底	白磁	底径:6.5	見込み:沈澱	灰白	灰白	外面無輪	良好	白磁	IV類		
	728	F31, G40	II	14871	碗	底	白磁	底径:6.9	見込み:沈澱	灰白	灰白	高台無輪	良好	白磁	IV類		
	729	H43	IIa-b	11924	碗	底	白磁	底径:6.8	見込み:沈澱	灰白	灰白	脚下平~高台内無輪	良好	白磁	IV類		
	730	F30-31	I, IIb	37588	碗	底	白磁	底径:5.6	見込み:沈澱	灰白	灰白	脚下平~高台内無輪, 内面一部無輪	良好	白磁	IV類		
	731	J30	II	25129	碗	底	白磁	底径:7.0	見込み:沈澱	灰白	灰白	脚下平~高台内無輪	良好	白磁	IV類		
	732	G33	I	-	碗	底	白磁	底径:6.4	見込み:沈澱	灰白	灰白	脚下平~高台内無輪	良好	白磁	IV類		
	733	D32	II	-	碗	底	白磁	底径:(7.5)	見込み:沈澱	灰白	灰白	外面無輪	良好	白磁	IV類		
	734	G31, J28	II	25224	碗	底	白磁	底径:(6.7)	見込み:沈澱	灰白	灰白	脚下平~高台内無輪	良好	白磁	IV類		
	735	D30, E30-31	II-a-b	16233	碗	底	白磁	底径:(6.8)	-	灰白	灰白	外面無輪	良好	白磁	IV類		
	736	F32, H30-31	II	24052	碗	底	白磁	底径:6.5	見込み:沈澱	灰白	灰白	脚下平~高台内無輪	良好	白磁	IV類		
	737	F21	I, II	24116	碗	口縁	白磁	口径:(16.4) 底:(6.6) 高さ:6.5	内口縁・見込み:沈澱	灰白	灰白	脚下平~高台内無輪	良好	白磁	V-4a類		
	738	J35	II	36262	碗	完形	白磁	口縁	口径:17.6 底径:6.0 高さ:6.5 基部:7.4	淡黄	浅黄	脚下平~高台内無輪, 見込み一部無輪	良好	白磁	V-6a類	質入	
	739	F31	I, II	24852	碗	口縁	白磁	口縁	口径:17.2 底径:6.0 高さ:6.0	見込み:沈澱	灰白	灰白	脚下平~高台内無輪	良好	白磁	V-4類	
	740	I29	II	26350	碗	口縁	白磁	口縁	口径:(16.4)	見込み:沈澱	灰白	灰白	脚下平無輪	良好	白磁	V-4a類	内外面気泡
	741	H31, J30	II	26679	碗	口縁	白磁	口縁	口径:(16.6)	内口縁	灰白	灰白	-	良好	白磁	V-4a類	外面気泡
	742	G-H30	II	24800	碗	口縁	白磁	口縁	口径:(16.0)	内口縁	灰白	灰白	-	良好	白磁	V-4a類	
	743	G-J30	II	23669	碗	口縁	白磁	口縁	口径:(16.0)	内口縁・見込み:沈澱	灰白	灰白	脚下平無輪	良好	白磁	V-4類	

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

番号	測定番号	出土区	層	取上番号	器種	部位	種別	重量 (g)	文様	色調		釉輪範囲	焼成	高地	古文分類	分類	備考
										紺土	緑色						
744	G31-32	I, II	28609	縹	口縁	白磁	口径:(16.4)	-		灰	オリーブ灰	脚下平無輪	良好	古文2類	V-4類	775と同一	
745	E32, E31	II, III	15890	縹	脚	白磁	底径:(6.0)	見込み:沈縫		灰	オリーブ灰	脚下~高台無輪 見込み:正無輪	良好	古文2類	V-4類	774と同一	
746	E28-30-32	II	23769	縹	口縁	白磁	口径:(17.4)	見込み:沈縫		灰白	明オリーブ灰	脚下部無輪	良好	古文2類	V-4類		
747	G31, J30	II	27490	縹	口縁	白磁	口径:(18.6)	見込み:沈縫		灰白	灰白	脚下部無輪	良好	古文2類	V-4類		
748	J29-30	II	23596	縹	口縁	白磁	口径:(17.1)	内:櫻文		灰黄	灰オリーブ		普通	古文2類	V-4類か 縹類		
749	F31-32, K29	I, II	27392	縹	口縁	白磁	-	内:櫻文		灰白	浅黄		普通	古文2類	V-4類	貴人	
750	H30	II	24797	縹	口縁	白磁	-	-		灰白	灰白		良好	古文2類	V-4類		
751	F31, G30	II, III	-	縹	脚	白磁	-	内:櫻文 見込み:沈縫		灰白	灰白	脚下深~高台内 無輪	良好	古文2類	V類		
752	K30	II	25249	縹	脚	白磁	-	内:櫻文 見込み:沈縫		灰白	灰白	高台無輪	良好	古文2類	V類	外面気泡	
753	I, 35	I	-	縹	底	白磁	底径:(6.2)	-		灰白	明オリーブ灰	脚下深~高台内 無輪	良好	古文2類	V類		
754	J26	II	-	縹	底	白磁	-	-		灰黄	灰黄	高台無輪	普通	古文2類	V類	貴人、被熱で 一部黒化色	
755	F31, J29	II, III	24596	縹	底	白磁	底径:(6.0)	-		灰白	灰白	脚下~高台内 無輪	良好	古文2類	V類		
756	I30-31, J30	I, II	28243	縹	脚	白磁	底径:(6.3)	見込み:沈縫		灰白	灰白	脚下~高台内 無輪	良好	古文2類	V類		
757	G41, J34	I, III	9170	縹	底	白磁	底径:(5.5)	見込み:沈縫		灰白	灰白	脚下深~高台内 無輪	良好	古文2類	V類	外面気泡	
758	G31	II, III	24051	縹	口縁	白磁	口径:(17.0)	-	辺部:黄	灰白			良好	古文2類	V-4類か 縹類	貴人	
759	F30, G31-32	I, II, III	36675	縹	口縁	白磁	口径:(17.0)	-		灰白	灰白		良好	古文2類	V-4類か 縹類		
760	F31-32	I	-	縹	口縁	白磁	口径:(17.0)	見込み:沈縫		灰白	灰白	脚下部無輪	良好	古文2類	V-4類か 外面気泡		
761	F-632, I30	II, III	24086	縹	口縁	白磁	口径:(16.8)	-		灰黄	灰黄	脚下部無輪	良好	古文2類	V-4類か 縹類	貴人	
762	J29-30	II, III	23782	縹	口縁	白磁	口径:(17.0)	内:沈縫		灰白	灰白	脚下~高台内 無輪	良好	古文2類	V-4類か 外面気泡		
763	E31	III	16300	縹	口縁	白磁	口径:(17.2)	-		灰白	灰白	上部:灰白 下部:灰 口縁:灰白	良好	古文2類	V-4類か 縹類	外面気泡	
764	F31	II, III	37225	縹	口縁	白磁	口径:(18.8)	内:沈縫		灰白	灰白		良好	古文2類	V-4類か 縹類		
765	I31	II	28281	縹	口縁	白磁	底径:(15.2)	内:沈縫		灰白	灰オリーブ		良好	古文2類	V-4類か 縹類		
766	E30	II, III	36639	縹	口縁	白磁	口径:(16.0)	内:沈縫		灰白	灰白		良好	古文2類	V-4類か 縹類		
767	K37	I, III	24063	縹	口縁	白磁	口径:(16.2)	-		灰白	灰白		良好	古文2類	V-4類か 縹類	外面気泡	
768	F31	II	-	縹	口縁	白磁	口径:(16.0)	-		灰白	灰オリーブ		良好	古文2類	V-4類か 外面気泡		
769	F-630	II, III	27466	縹	口縁	白磁	-	見込み:沈縫		灰白	灰白	脚下部無輪	良好	古文2類	V-4類か 縹類		
770	F31, I30	II, III	24149	縹	口縁	白磁	-	-		灰白	灰白	脚下部無輪	良好	古文2類	V-4類か 縹類		
771	G30	II	23943	縹	口縁	白磁	-	内:沈縫		灰白	灰白		良好	古文2類	V-4類か 縹類		
772	J30, L35	III, III	-	縹	口縁	白磁	底径:(16.0)	内:沈縫		灰白	灰白		良好	古文2類	V-4類か 外面気泡		
773	H31	II	-	縹	口縁	白磁	-	内:沈縫		灰白	灰白		良好	古文2類	V-4類か 外面気泡		
774	E-F31	I, III	-	縹	口縁	白磁	口径:(17.0)	-		灰白	灰白		良好	古文2類	V-4類か 外面気泡		
775	F31	II, III	36794	縹	口縁	白磁	口径:(15.5)	-		灰オリーブ アーチ	灰白		良好	古文2類	V-4類か 縹類		
776	H30, I30	II, III	24086	縹	口縁	白磁	口径:(16.0)	見込み:沈縫		灰白	灰白		良好	古文2類	V-4類か 縹類	気泡・貴人	
777	F32	II, III	36673	縹	口縁	白磁	口径:(16.6)	内:沈縫		灰白	灰オリーブ		良好	古文2類	V-4類か 縹類		
778	F31	II, III	36793	縹	口縁	白磁	口径:(16.0)	-		灰白	灰オリーブ		良好	古文2類	V-4類か 縹類		
779	E32	II, III	16489	縹	口縁	白磁	口径:(15.8)	内:沈縫		灰白	灰白		良好	古文2類	V-4類か 縹類	外面気泡	
780	I30	II	78679	縹	口縁	白磁	口径:(16.0)	内:沈縫		灰	灰		良好	古文2類	V-4類か 縹類		
781	F30, J29-30	II, III	21495	縹	口縁	白磁	口径:(16.0)	内:沈縫		灰白	灰白		良好	古文2類	V-4類か 縹類		
782	E30	II, III	36453	縹	口縁	白磁	-	-		灰白	灰オリーブ		良好	古文2類	V-2類 II, III類		

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

番号	測定番号	出土区	層	取上番号	器種	種別	重量(g)	文様	色調		施釉範囲	焼成	高地	古文書分類	分類	備考
									紺土	輪底						
783	F30, J29	II, IIb	23648 他	罐	口縁 白磁	口径:(14.0)	内:沈繩	灰白	灰白		良好	白磁 2類	VII-a類	入人		
784	J29, K30	II, IIa	23736 他	罐	口縁 白磁	口径:(16.0)	内:沈繩	灰白	灰白		良好	白磁 3類	VII-a類	786と同一?		
785	G43	II, IIa	9065	罐	口縁 ~脚 白磁	-	-	灰白	灰白~オリーブ黄		良好	白磁 2類	VII-a類	784と同一?		
786	J30	I, II	-	罐	口縁 白磁	口径:(16.0)	内:沈繩	灰白	灰白		良好	白磁 2類	VII-a類	784と同一?		
787	C27-28	II	-	罐	口縁 白磁	口径:(17.0)	-	灰白	灰白		良好	白磁 2類	VII-a類	表面気泡		
788	H30, I31	II	24058	罐	口縁 白磁	口径:(17.0)	外:二重圓錐 内:草文	灰白	オリーブ黄		良好	白磁 2類	VII-a類	櫻花瓦?		
789	H29	II	23358	罐	口縁 白磁	-	内:内草文	灰白	灰白		良好	白磁 2類	VII-b類	790と同一		
790	I-J31	I, II	28301	罐	口縁 ~脚 白磁	-	内:内草文	灰白	灰白		良好	白磁 2類	VII-a類	789と同一		
791	E-F31	II, IIb	27684 他	碗	底 白磁	底径:(4.8)	-	浅黄	浅黄	脚下平~高台内 無輪	普通	白磁 3類	蝶瓶	表面鉄付着		
792	H30	II	24068	罐	口縁 白磁	-	-	灰黄	灰黄	脚下~高台 無輪	普通	白磁 3類	蝶瓶	2類?	入人, 気泡	
793	G30-31	II	26524 他	罐	口縁 白磁	口径:(15.0)	-	灰黄	灰黄	脚下部無輪 み採取	良好	白磁 2類	蝶瓶	2類?	入人, 高台脚 無輪	
794	H32	II, IIb	15945	罐	口縁 白磁	口径:(15.0)	-	灰	灰	灰下部無輪, 見込み み採取	良好	白磁 2類	蝶瓶	2類?		
795	F-G31	II, IIb	28602 他	罐	口縁 ~脚 白磁	口径:(15.0)	-	灰	灰	脚下部無輪, 見込み み採取	良好	白磁 2類	蝶瓶	2類?		
796	E30, F31	II, IIa	37469 他	罐	口縁 白磁	口径:(16.0)	内:沈繩	灰白	灰白	脚下部は無輪	良好	白磁 3類	蝶瓶	2類?		
797	J38	IIIa	23088	盤	脚 高台 白磁	底径:(5.9)	-	灰白	灰白	足付~高台内 無輪	普通	白磁 3類	蝶瓶	表面に 鉄(被熱?)		
798	J30, K29	II	25137	罐	底 白磁	底径:(6.0)	見込み:沈繩	灰黄	明鏡灰	見込み輪状輪, 脚下部~高台内 無輪	良好	白磁 3類	蝶瓶	見込み燒痕		
799	J30	II	24058	罐	脚 底 白磁	底径:(6.7)	-	灰白	灰白	見込み輪状輪, 外周無輪	良好	白磁 3類	蝶瓶	見込み燒痕		
800	E21	II	19596	罐	口縁 白磁	口径:(14.0)	外:二重圓錐	灰白	灰白		良好	白磁 1類	蝶瓶	口壳:浅黄		
801	J30	II	23712	罐	口縁 ~脚 白磁	-	-	灰白	灰白		良好	白磁 4類	蝶瓶	口壳:灰黄		
802	K29	II	23798	罐	口縁 白磁	口径:(14.0)	内:沈繩	灰白	灰白		良好	白磁 4類	蝶瓶	口壳:浅黄		
803	D21	II	19753	罐	口縁 白磁	口径:(11.0)	-	灰白	灰白		良好	白磁 4類	蝶瓶	口壳:灰黄, スヌス		
804	D32	IIIa	-	罐	口縁 白磁	口径:(11.2)	-	灰白	明オーリーブ灰		良好	白磁 4類	蝶瓶	口壳:灰白, スヌス		
805	I30, J31	II	24742 他	皿	口縁 白磁	口径:(10.0)	-	灰白	オリーブ黄	脚下部無輪	良好	広東 白磁 1類	VII-1類			
806	K29	II	25937	皿	口縁 ~脚 白磁	口径:(11.0)	-	灰白	灰白		良好	広東 白磁 1類	森田D類	入人		
807	J28	I	-	皿	口縁 ~脚 白磁	口径:(11.0)	-	灰白	灰白	脚下部無輪	良好	広東 白磁 2類		入人		
808	I40	Ia	-	皿	口縁 ~脚 白磁	-	-	灰白	灰白	脚下部無輪	良好	広東 白磁 2類				
809	F30	I	-	皿	口縁 ~脚 白磁	-	-	灰白	明鏡灰	内外口縁付高台 無輪	やや 良好	広東 白磁 2類		入人, スヌス		
810	F31	I	-	皿	底 白磁	底径:(8.4)	-	灰白	灰白	内口縁~外周無輪 無輪	やや 良好	広東 白磁 2類		入人, スヌス		
811	H30-33	II, IIb	24843 他	皿	口縁 白磁	口径:(10.0)	-	灰白	灰白	脚下部無輪	良好	広東 白磁 2類				
812	F41	II, IIb	-	皿	口縁 白磁	口径:(11.0)	-	灰白	灰白		良好	広東 白磁 2類	森田D類			
813	G22	II, IIa	18592	皿	口縁 白磁	口径:(9.6)	-	灰白	灰白	脚下部無輪	良好	広東 白磁 3類	森田D類			
814	G31	II	27610	皿	口縁 白磁	口径:(9.4)	-	灰白	灰オーリーブ		良好	広東 白磁 3類	目録小品 1類			
815	I30	II	26646	皿	口縁 白磁	口径:(10.0)	内面:沈繩	灰白	明鏡灰		普通	広東 白磁 4類	目録小品 1類	入人		
816	I30	II	24694	皿	底 白磁	底径:(4.6)	-	灰白	灰白	見込み輪状輪, 外周無輪	良好	広東 白磁 4類	見込み目録			
817	E-F-G31, H30	I, II, IIa	16044 他	皿	口縁 白磁	口径:(10.0) 底径:5.4 器高:2.2	-	灰白	灰白	脚下平~高台内 無輪	良好	広東 白磁 4類	目録2類	内面胡麻		
818	F31	II, IIb	-	皿	口縁 白磁	口径:(11.0)	内面:胡麻	灰白	灰白		良好	広東 白磁 4類	内面胡麻			
819	129, K30	II, IIa	25256 他	皿	口縁 ~脚 白磁	口径:(10.0)	-	灰白	灰白		良好	広東 白磁 2類				
820	I30, J29	I, II	26650 他	皿	口縁 白磁	口径:(10.0)	内面:胡麻	灰白	明オーリーブ灰	見込み輪状輪, 脚下 無輪	良好	広東 白磁 4類				
821	I30	II	24090 他	皿	口縁 白磁	口径:(10.0)	-	灰白	灰白	見込み輪状輪, 脚下 無輪	良好	広東 白磁 4類				
822	L27	I	-	皿	口縁 白磁	口径:(12.0)	-	灰白	灰白	見込み輪状輪, 脚下 無輪	良好	広東 白磁 4類		入人		

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

番号	測量番号	出土区	層	取上番号	器種	部位	種別	重量 (g)	文様	色調		施釉範囲	焼成	高地	古文書分類	分類	備考
										船土	輪底						
823	G41	II a	9171	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(10.6)	—	灰黄	灰白	見込み釉調、脚下 無釉	良好	白系 1型	■類			
824	J29	II	24196	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(10.6)	見込み:沈綴	オリーブ 黒	灰白	見込み釉調、脚下 無釉	良好	白系 4型	■類	質入		
825	D32	II	—	直	底	白磁	直径:(5.6)	—	灰白	灰白	見込み釉調、脚下 無釉	良好	白系 4型	■類	内外重疊底		
826	I30-31	II	24722	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(11.4)	内面底綻	灰白	灰白	見込み釉調、脚下 無釉	良好	白系 4型	■類			
827	I30, J29	II	23795	直	口縁 ～脚	白磁	—	—	灰白	灰白	見込み釉調、脚下 無釉	良好	白系 4型	■類			
828	G30	II	23928	直	底	白磁	底径:(4.6)	—	灰白	灰白	見込み釉調、脚下 無釉～高台内 無釉	良好	白系 4型	■類	見込み蓋地の 心、質入		
829	F30-31- 32, G30 II b	I, II	23803	直	口縁 ～底	白磁	口径:(10.3) 底径:(2.6) 高さ:(2.6)	—	灰黄	オリーブ	脚下部～底部無 釉	良好	広東 白系	IV-1A類			
830	D33	II	—	直	口縁 ～脚	白磁	—	見込み:草花文	灰	オリーブ黄	—	良好	広東 白系	IV-1A類	質入		
831	G30	II	23914	直	脚～ 底	白磁	底径:(4.0)	見込み:沈綴	灰白	オリーブ黄	脚下部～底部無 釉	良好	広東 白系	IV-1A類			
832	I30, J31	I, II	24753	直	脚～ 底	白磁	直径:(3.4)	—	灰白	オリーブ黄	脚下部～底部無 釉	良好	広東 白系	IV-1A類			
833	F31	II b	36648	直	底	白磁	底径:(3.2)	—	—	オリーブ黄	底部無釉	良好	広東 白系	IV-1A類			
834	G31	II	27629	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(10.3)	—	灰白	オリーブ黄	脚下部無釉	良好	広東 白系	IV-1A類	薄輪		
835	E21	II	19055	直	底	白磁	底径:(5.4)	内面:草花文	灰～淡黄	灰オリーブ	底部無釉	良好	広東 白系	VII-B1b類	内面に質入		
836	T41	II a	9201	直	口縁 ～底	白磁	口径:(10.8)	見込み:沈綴	灰白	灰	口縁釉調	良好	白系 7型	IX-B1c ■類	口壳:灰白		
837	E29	I	—	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(9.6)	見込み:沈綴	灰白	灰白	口縁釉調	良好	白系 7型	四類	口壳:灰黄		
838	E22	II	19015	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(8.4)	—	灰白	灰白	口縁釉調、脚下 無釉	良好	白系 7型	四類	口壳:灰白		
839	F31-32	I, II b	—	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(10.6)	—	灰白	灰白	口縁釉調	良好	白系 7型	四類	口壳:明黄褐		
840	F31	II b	37180	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(10.6)	—	灰白	灰オリーブ	口縁釉調	良好	白系 7型	四類	口壳:灰白		
841	E30	I	—	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(11.8)	—	灰白	灰オリーブ	口縁釉調	良好	白系 7型	四類	口壳:浅黄		
842	F30	II b	36695	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(11.6)	—	灰白	灰オリーブ	口縁釉調	良好	白系 7型	四類	口壳:灰白		
843	F31-32	II b	36708	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(12.0)	—	灰白	灰白	口縁釉調	良好	白系 7型	四類	口壳:明黄褐		
844	F31	II b	36782	直	底	白磁	底径:(6.0)	—	灰白	灰白	全周底輪	良好	白系 7型	四類			
845	D31	II b	16159	直	底	白磁	底径:(5.6)	—	灰白	灰白	底部無釉	良好	白系 7型	五類	底部目張		
846	G21	II a	18586	直	口縁 ～底	白磁	口径:(8.8) 底径:(6.0) 高さ:(2.1)	脚下部:突錐	灰白	白	底部中央無釉	良好	白系 8型	森田B類			
847	E29	II b	36419	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(9.4)	—	灰黄	灰白	脚下部一部無釉	良好	白系 9型	森田D類	質入		
848	K37	II a	23241	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(9.2)	—	灰黄	灰白	脚下部無釉	良好	白系 9型	森田D類	質入、 外側重疊底		
849	L28	I	—	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(10.4)	—	暗灰黄	灰白	脚下部無釉	良好	白系 9型	森田D類			
850	G22	II a	18600	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(11.6)	—	灰白	灰白	—	良好	白系 9型	森田D類	質入		
851	J38	I	—	直	口縁 ～脚	白磁	—	—	灰黄	灰白	脚下部無釉	良好	白系 9型	森田D類	質入		
852	E41	I a	—	直	口縁 ～脚	白磁	—	—	灰白	灰白	脚下部無釉	普通	白系 9型	森田D類	質入		
853	G33	I	—	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(12.7)	—	灰	灰白	—	良好	白系 9型	森田D類			
854	J38	III a	22985	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(10.9)	—	灰白	灰白	—	良好	白系 9型	森田D類	質入		
855	F32	II b	—	直	口縁 ～底	白磁	底径:(9.0) 底径:(4.6) 高さ:(2.8)	—	灰白	灰白	見込み輪底無 釉、脚下～高台内 無釉	良好	白系 9型	森田D類	見込み砂目		
856	G31	II b	37035	直	口縁 ～底	白磁	口径:(10.0)	内外:沈綴	灰白	灰オリーブ	見込み釉調、脚下 無釉	良好	白系 9型	森田D類	外側スス		
857	H30-J29	II	23622	直	口縁 ～底	白磁	口径:(10.7) 底径:(4.7) 高さ:(2.6)	—	灰	灰オリーブ	見込み釉調、脚下 無釉	良好	白系 9型	森田D類	見込み:高台 底輪跡、白配、 外口縁付近小 難付着		
858	J28	II	—	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(10.4)	—	灰白	灰オリーブ	—	良好	白系 9型	森田D類			
859	J28	I	—	直	口縁 ～脚	白磁	口径:(12.0)	内面底綻	白	灰白	—	良好	白系 9型	森田D類	質入		
860	J30	II	25170	直	口縁 ～底	白磁	口径:(10.6) 底径:(4.4) 高さ:(2.9)	—	浅黄	明オリーブ灰	見込み輪底無 釉、脚下～高台内 無釉	良好	白系 9型	森田D類	見込み:質付 付近重疊底、 白配		

第15表 青磁・白磁・青白磁観察表

序回 番号	測量 番号	出土区	層	取上番号	器種	種別	重量 (g)	文様	色調		施釉範囲	焼成	高地	古文 分類	分類	備考	
									紺土	釉色							
	861	032	B	-	直	底	白磁	底径:3.7	-	灰黄	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 9型	森田D類	貢入	
	862	J38	II b	23004	直	底	白磁	底径:3.8	-	灰白	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 9型	森田D類	貢入	
	863	027	I	-	直	底	白磁	底径:4.7	内:沈綸	浅黄	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 9型	森田D類	貢入	
	864	828	I	-	直	底	白磁	底径:4.4	-	灰黄	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 9型	森田D類	貢入	
	865	143	II b	15611	直	底	白磁	底径:4.0	-	灰黄	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 9型	森田D類	貢入	
	866	J38	I	-	直	底	白磁	底径:3.4	-	灰白	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 9型	森田D類		
	867	131	II	28161	直	底	白磁	底径:4.8	-	灰白	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 9型	森田D類	貢入	
	868	E42	II a	10039	直	底	白磁	底径:4.0	-	灰白	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 9型	森田D類	所持高台 無釉	
	869	H22	II	-	不明	底	白磁	底径:4.4	-	灰白	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 9型	所持高台 無釉		
	870	K37	I	-	不明	底	白磁	底径:4.0	-	淡黄	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 9型	所持高台 無釉		
	871	J41	Ia	-	不明	底	白磁	底径:4.4	-	白	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 9型	目剥4所 所持高台		
	872	K29	I	-	不明	底	白磁	底径:4.0	-	灰白	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 9型	目剥4所 所持高台		
	873	G43	II a	-	碗	口縁	白磁	口径:(12.0)	-	灰白	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 10型	森田E類		
	874	328	I	-	碗	口縁	白磁	口径:(12.2)	-	灰白	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 10型	森田E類		
	875	E30	II b	-	碗	口縁	白磁	口径:(14.7)	-	灰白	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 10型	森田E類		
	876	129	II	33688	直	口縁	白磁	口径:(11.6) 底径:(5.8) 厚さ:2.5	-	灰白	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 10型	目剥付近一部 無釉		
	877	G32	I	-	碗	脚~ 底	白磁	底径:7.0	-	灰白	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 10型	森田E類	脚剥:淡黄, 高台に砂付付	
	878	E29	I	-	碗	脚~ 底	白磁	底径:6.2	-	灰白	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 10型	森田E類	脚剥:淡黄 脚剥:灰白	
	879	F31	I	-	直	脚~ 底	白磁	底径:7.0	-	灰白	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 10型	森田E類	脚剥:淡黄	
	880	K31	I	-	直	脚~ 底	白磁	底径:7.0	-	灰白	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 10型	森田E類	脚剥:灰白	
	881	F31	I	-	直	脚~ 底	白磁	底径:6.7	-	灰白	灰白	脚下部~高台内 無釉	良好	白磁 10型	森田E類	脚剥:灰白	
	882	L27	I	-	直	脚~ 底	白磁	底径:3.2	-	灰白	灰白	一部無釉	良好	白磁 10型	森田D類	脚剥:灰白	
	883	128	III	29792	碗	完形	白磁	口径:10.5 底径:4.5 厚さ:2.8	-	淡黄	浅黄~灰白	見込み輪状剥	良好		I-1類		
	884	J36	III a	29254	鉢	口縁	白磁	口径:(20.0)	-	灰黄	灰白		普通			磁州窯、貢入 大型製品?	
	885	J31	II	28186	鉢	底	白磁	底径:6.5	-	灰黄	灰白		普通			磁州窯、見込 日賀、貢入 大型製品?	
	886	J30	II	24726	直	底	白磁	腹部:(6.6)	-	灰	明オーラー直		良好			口縁に剥落 痕	
119	887	E31-32 E31-32 F28-31 G29-30-31 H30-32 J28-30-35	I, II, II, II a-b, II b	18822	蓋子	脚~ 底	白磁	最大径:(18.4) 底径:(10.0)	-	灰白	浅黄、一部赤	内面の脚下~底 に剥、腹付~高台 内~一部施釉	良好				内面凹凸が目 立つ
	888	F30	II b	36023	合子	上面 ~受	青白 磁	-	外:草花文型押し、菊非 文	灰白	明緑灰	口縁付近無釉	良好	C~D期	堅づく		
	889	F31	I	-	合子	脚~ 底	青白 磁	-	外:菊非文	灰白	明緑灰	口縁付近無釉	良好	C~D期	堅づく		
	890	E31	II a	16028	合子 (身)	口縁	青白 磁	口径:(6.6)	-	灰白	明オーラー直	蓋受部~脚下部剥 取、内面~一部施釉	良好			織紋:に若い 黄橙、白磁の 可能性	
	891	G30	I	24908	合子 (身)	口縁	青白 磁	底径:(5.6)	-	灰白	灰白		外無釉	良好			
	892	J33	I	-	直	口縁	青白 磁	口径:(9.6)	屈曲部内面:沈縫	灰白	明緑灰		良好		直入		
	893	J34	I	-	直	口縁	青白 磁	口径:(9.6)	屈曲部内面:沈縫	灰白	明緑灰		良好		難口直?		

第16表 染付観察表

締固 番号	面積 番号	出土 区	層	鉢上 番号	面積	種別	法量 (cm)	文様		柿子 色調	柿葉 色調	輪郭	焼成	産地	未古 分類	分類	備考
								外:牡丹唐草文 内:四方彫文	外:界線2条、矢羽状文								
894	J37	I	-	縦 口縁 染付	-	-	-	外:牡丹唐草文 内:四方彫文	灰白	灰白	-	良好	-	-	群	-	-
895	E29	I	-	縦 口縁 染付	-	-	-	外:界線2条、矢羽状文	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	-	-
896	D32	II	-	縦 口縁 染付	-	-	-	外:界線1条、下2条、波浪文帯 内:界線1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	-	-
897	F32	I	-	縦 口縁 染付	-	-	-	外:下界線上1条、下2条、波浪文帯、牡丹 内:界線1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	-	-
898	G32	I	-	縦 口縁 染付	-	-	-	外:界線上下2条、波浪文帯 内:界線2条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	-	-
899	G43	IIa	-	縦 口縁 染付	-	-	-	外:界線上下2条、列点文、連草文 内:界線2条	灰白	明緑灰	-	良好	-	-	-	-	-
900	K37	I	-	縦 口縁 染付	-	-	-	外:界線1条、牡丹唐草文 内:界線1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	-	-
901	L28	I	-	縦 口縁 染付	-	-	-	外:波浪文、唐草文 内:界線1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	-	-
902	F31	I	-	縦 口縁 染付	-	-	-	外:花文 内:界線1条	灰黄	灰黄	-	良好	-	-	-	-	-
903	I38	IIb	-	縦 口縁 染付	-	-	-	外:唐草文? 内:界線1条	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	-	-
904	E29	I	-	縦 附 焼付	-	-	-	外:波浪文、烈草文 内:界線1条	灰白	明緑灰	-	良好	-	-	-	-	-
905	H21	I	-	縦 附 焼付	-	-	-	外:波浪文? 内:烈草文(波浪文)	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	-	-
906	B27	I	-	縦 亂 焼付	直径:(6.4)	-	-	90:唐草文? 91:界線2条 92:界線1条 見込み:圓錐2条、花文	灰白	灰白	豐付輪調	良好	-	-	-	-	-
121	907	H26	I	-	縦 亂 焼付	直径:(6.0)	-	90:界線1条 91:界線2条 92:不明文 見込み:不規文字	灰白	灰白	豐付輪調	良好	-	-	-	-	-
	908	G32	I	-	縦 亂 焼付	直径:(7.0)	-	90:界線2条 91:波状文 見込み:圓錐1条、唐草文	灰白	灰白	豐付輪調	良好	-	-	-	-	-
909	K25	I	-	縦 亂 焼付	直径:(7.0)	-	-	90:唐草文 見込み:圓錐1条、波狀1条	灰白	灰白	豐付輪調	良好	-	-	-	-	-
910	H22	I	-	縦 亂 焼付	直径:(5.4)	-	-	90:高台 91:界線2条 92:見込み:圓錐1条、且蝶目文	白	明青灰	豐付輪調	良好	-	-	-	-	-
911	F31	I	-	直 口縁 染付	直径:(14.0)	-	-	外:界線1条、唐草文 内:口縁:四方彫文 側面:波浪文	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	-	-
912	E29	I	-	直 口縁 染付	直径:(10.0)	-	-	外:界線1条 内:口縁:四方彫文 側面:波浪文	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	-	-
913	F31	I	-	直 口縁 染付	-	-	-	外:口縁:波浪文 内:口縁:四方彫文 側面:波浪文	灰白	灰白	-	良好	-	-	-	-	-
914	G32	I	-	直 亂 焼付	直径:(3.0)	-	-	外:波浪文、界線2条 見込み:圓錐1条、唐草文	灰白	灰白	豐付輪調	良好	-	-	-	基質底	-
915	D-E42	I, IIa	-	直 亂 焼付	直径:(2.4)	-	-	外:波浪文 内:波浪文 見込み:圓錐2条、且蝶目文	灰白	明青灰	豐付輪調	良好	-	-	-	基質底、底部砂目跡	-
916	I26	II	-	直 亂 焼付	直径:(3.0)	-	-	見込み:圓錐2条、唐草文	灰黄	灰白	底部輪調	良好	-	-	-	基質底、見込み:且蝶目跡	-
917	H20	I	-	直 亂 焼付	直径:(8.0)	-	-	90:圓錐2条 見込み:花文	灰白	灰白	豐付輪調	良好	-	-	-	-	-
918	H20	I	-	直 亂 焼付	直径:(12.0)	-	-	90:圓錐2条 見込み:且蝶目文	灰白	灰白	豐付輪調	良好	-	-	-	-	-

第17表 国中陶器観察表

件名 番号	高載 番号	出土区.	層	取上 番号	器種	部位	種別	口径 (cm)	調査		色調		胎土	施成	備考			
									外面		内面							
									白 青 有 無 白 青 有 無	石 青 有 無 白 青 有 無	白 青 有 無 白 青 有 無	石 青 有 無 白 青 有 無						
919	F31, G42, L1, L2, K29-36-36, L28-29	I, II, II-a-b III-a	23761	直	口縁 ～底	中国 陶器	口徑: 9.8 底径: 8.4 高さ: 20.6 幅最大径: 15.4	ろくろ	ろくろ	輪: 暗オリーブ	輪: 暗オリーブ	○	良好	輪輪、外面に凹線2条 底部日暉				
920	D32	II-b	15941	直	口縁	中国 陶器	口徑: (15.4)	-	-	輪: 暗オリーブ	輪: オリーブ黄	○	○	良好	輪輪、口縁内砂目跡			
921	141	II-a	9191	直	口縁	中国 陶器	口徑: (7.2)	横ナデ	横ナデ	輪: 灰黒	輪: 灰黒	○	○	良好	輪輪、輪葉比熱変色 胎土埋			
922	E31, F31～ 33, G31～ 32, H39～ 32, I30	I, II, II-a-b	36581	直	口縁 ～底	中国 陶器	口徑: ((1.1, 2)	丁寧な横ナ デ	丁寧な横ナ デ	にぶい黃褐 輪: 淡黄	にぶい黃褐 輪: 淡黄	○ ○	○ ○	普通	輪輪、輪葉比熱変色 胎土凹線			
923	F31	I	-	直	肩	中国 陶器	-	横ナデ	横ナデ	灰白 輪: 黑褐	灰白	○	○	良好	輪輪、外面部施 圓形化粧2条			
924	G-H30, I29	I・II	23393	直	肩 ～脚	中国 陶器	最大径: (13.6)	ろくろくろ	ろくろくろ	輪: オリーブ 輪: 淡黄	淡黄	○ ○	○ ○	良好	耳窓、外面施輪			
925	E31, F31, G30-31 H30-31	II, II-b, III-a	16029	直	脚～ 脚	中国 陶器	最大径: (26.0) 底径: (10.6)	横ナデ	ろくろ	輪: 輪闊縫 輪: オリーブ黄	○	○	○	良好	底部無輪 胎土: 灰～にぶい變			
926	G43	I	-	直	脚～ 脚	中国 陶器	口徑: (7.0)	ろくろ	-	暗灰黄 輪: 明黄	暗灰黄	○ ○	○ ○	良好	輪輪、外面施輪			
927	D32, E31～ 32, F31～ 32, G32, I38 J29, K30	I, II, II-a-b III-a	11389	直	口縁 ～脚	中国 陶器	口徑: (23.0)	横ナデ	横ナデ	輪: 黄褐 輪: にぶい黄	にぶい黄	○ ○	○ ○	良好	底部化粧、口縁内砂日 外面光沢あり			
928	E30, F31, G30, H30-31, I31	I, II, II-b	28375	鉢	口縁 ～脚	中国 陶器	絶対最大径: (23.8)	-	-	輪: オリーブ 輪: 淡黄	輪: オリーブ 輪: 淡黄	○ ○	○ ○	良好	外面中央砂目2-3所 内外光沢あり 口縁部欠損			
929	E27, G41-42	I	18076	直	肩	中国 陶器	底径: 8.8	横方向へナ デ	横方向へナ デ	にぶい輪 輪: オリーブ	にぶい輪 輪: オリーブ	○ ○	○ ○	良好	輪輪、部分的に輪葉 施成した上部4-5所			
930	G41	II-a	9165	直	肩	中国 陶器	底径: (3.8)	底: 細網	横ナデ	輪: オリーブ 輪: 黄	輪: オリーブ 輪: 黄	○ ○	○ ○	良好	輪輪、内外とも胎土日痕 4-5所			
931	H31	II	28424	碗	脚	中国 陶器	口徑: 3.0	ろくろ	-	灰黒	灰黒	○ ○	○ ○	良好	建窯産品日痕 内面部近に凹線薄く残 存無縫型變			
932	F31, I29, J28-29, K29	I, II	23552	直	肩	中国 陶器	施成部記: 19.7	格子印き→ 輪・横・斜ナ デ	同心円当具	輪: オリーブ 輪: 淡黄	灰 輪部: にぶい 輪: 黑褐	○ ○	○ ○	良好	内面部近に凹線薄く残 存無縫型變			
933	I29	II	24608	直	脚	中国 陶器	-	格子印き又 は朱板	同心円当具	輪暗赤褐色 輪: 黑褐	黑褐	○ ○	○ ○	良好	光沢あり			
934	G41	II-a	9157	直	脚	中国 陶器	-	格子印き又 は朱板	同心円当具	輪暗赤褐色 輪: 黑褐	黑褐	○ ○	○ ○	良好	内外施輪、光沢あり			
935	E31	II-a	16050	直	脚	中国 陶器	-	格子印き又 は朱板	同心円当具	輪暗赤褐色 輪: 黑褐	黑褐	○ ○	○ ○	良好	内外施輪、光沢あり			
936	D31	III	15990	直	脚	中国 陶器	-	格子印き又 は朱板	同心円当具	輪暗赤褐色 輪: 黑褐	黑褐	○ ○	○ ○	良好	内外施輪、光沢あり			
937	F42	II-a	9636	直	脚	中国 陶器	-	格子印き又 は朱板	同心円当具	輪暗赤褐色 輪: 黑褐	黑褐	○ ○	○ ○	良好	内外施輪、光沢あり			
938	D31	II	-	直	脚	中国 陶器	-	格子印き又 は朱板	同心円当具	輪暗赤褐色 輪: 黑褐	黑褐	○ ○	○ ○	良好	内外施輪、光沢あり			

第18表 土製品観察表

種別番号	高さ 番号	土上 区 域	層 番 号	表面 性質	形状	種別	粒度 (mm)	調整		色調		粉土					備考	
								外面	内面	外・内面	白 基 石 黄 白 基 石 灰 白 基 石 黑 基 石 黑 基 石 黑 基 石	黄 白 基 石 黄 白 基 石 灰 白 基 石 黑 基 石 黑 基 石 黑 基 石	白 基 石 黄 白 基 石 灰 白 基 石 黑 基 石 黑 基 石 黑 基 石					
124	939	I21	II	17964	土輝	完形	土製品	径2.9 厚さ3.3 孔径1.0	ヘラナデ		灰白	○	○	○	○	○	普通 灰さ:29 g	
	940	J20	I	-	円錐形 土製品	完形	土製品	径2.3 厚0.8			灰白						普通 斧利	
	941	E20	II	-	円錐形 土製品	完形	土製品	径1.8 厚0.7	ミガキ	ミガキ	灰白						普通 打転用	
	942	H29	II	26403	円錐形 土製品	完形	土製品	径3.4 厚2.2	打欠整形		灰白	○		○	○	○	普通 打転用	
	943	J28	II	23572	円錐形 土製品	-	土製品	径7.5 厚6.9	丁寧なミガキ 底:ヘラ凹		灰白		○	○	○	○	○	普通 打転用
	944	H30	II	24891	円錐形 土製品	-	土製品	径11.0 厚6.8			灰白	○		○	○	○	普通 斧利	
	945	H36	II	29963	円錐形 土製品	-	土製品	径7.5 厚6.9	打欠ミガキ 底:ヘラ凹		灰白	○		○	○	○	普通 打転用, 斧利	
	946	H30	II	24848	筋縫有	完形	土製品	径6.5~7.3 厚:0.5~0.9 孔径:0.4	打欠一丁掌な ミガキ 底:曲面	外:灰い赤褐色~埋 内:橙	○	○	○	○	○	普通 打転用		
	947	G29	II	24562	筋縫有	完形	土製品	径3.4~9.1 厚:1.0 孔径:0.7	打欠一丁掌な ミガキ		灰色	○	○				普通 内面コグ (打頭蓋に転用?)	
	948	L30	II	23872	縫目口	先端	土製品	-	ヘラナデ	ヘラナデ	外:暗灰 内:灰	○	○	○			普通 小縫含む, 外面軟渾付層	
949	J30	II	25431	縫目口	先端	土製品	孔径:3.0程度	ヘラナデ	ヘラナデ	外:暗灰 内:灰~赤黒	○	○	○	○	○	普通 小縫含む, 外面軟渾付層		
	950	I30	II	26660	縫目口	先端	土製品	孔径:2.8以上	ヘラナデ	ヘラナデ	外:灰白~埋灰 内:埋~赤黒	○	○	○	○	○	普通 小縫含む, 外面軟渾付層	
	951	F31	IIb	37098	縫目口	先端	土製品	-	ヘラナデ	ヘラナデ	外:灰 内:赤	○	○	○			普通 小縫含む, 外面一削軟渾付層	

第19表 石器・石製品観察表

種別 番号	出土地 番号	出土区	層	取上番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
125	962	I	130・31	24721・28218	滑石製石鏡	滑石	—	—	—	179.4	口縁～鋸
	963	I	130	24697	滑石製石鏡	滑石	—	—	—	105.0	鋸
	964	F32	II a	11404・28360	滑石製石鏡	滑石	—	—	—	112.4	鋸
	965	E31	II a	16303	滑石製石鏡	滑石	—	—	—	140.8	口縁～鋸
	966	I31	II	28280	滑石製石鏡	滑石	—	—	—	36.4	口縁
	967	J29	II	25114	滑石製石鏡	滑石	—	—	—	87.8	口縁～鋸
	968	F30	II	37389	滑石製石鏡	滑石	25.0	—	—	61.6	口縁
	959	F31	II	36790・39243	滑石製石鏡	滑石	—	—	—	34.8	口縁・穿孔道有
	960	G31	II	26494	滑石製石鏡	滑石	—	—	—	60.7	口縁
	961	F26	I b	19371	滑石製石鏡	滑石	—	—	—	76.2	鋸面
126	962	J28	II	25223	滑石製石鏡	滑石	—	(16.5)	—	101.6	底部
	963	F31	II	37153	滑石製石鏡	滑石	—	(17.4)	—	69.1	底部
	964	F31	II	27515	滑石製石鏡	滑石	—	—	—	66.5	底部
	965	G31	II	28398	滑石製石頭	滑石	9.7	6.3	3.0	181.7	
	966	H38	II a	13657	滑石製石頭	滑石	4.2	3.9	1.6	21.2	
	967	G32	II b	39356	滑石製石頭	滑石	1.9	1.5	1.3	4.1	バレン状
	968	F31	II b	39444	滑石製石頭	滑石	2.9	2.2	1.0	4.6	バレン状
	969	G30	II	27349	滑石製石頭	滑石	3.0	1.9	1.2	6.7	
	970	I36	I	2014・296	滑石製石頭	滑石	9.9	8.4	2.4	278.8	
	971	G31	II	28075	滑石製石頭	滑石	6.9	2.7	1.7	31.4	穿孔
127	972	J24	I	—	滑石製石頭	滑石	3.4	4.5	1.1	26.7	穿孔
	973	F31	II b	39245	滑石製石頭	滑石	4.4	6.2	1.9	50.4	穿孔
	974	F31	II b	36757	滑石製石頭	滑石	5.0	4.9	2.6	108.5	
	975	H29	II	26422	滑石製石頭	滑石	3.5	4.8	1.8	46.6	
	976	F31	II b	36744	滑石製石頭	滑石	7.4	4.9	1.5	64.8	
	977	J28	II	23546	滑石製石頭	滑石	7.0	4.8	1.9	81.4	
	978	G30	II	24930	滑石製石頭	滑石	6.8	2.1	1.8	34.2	
	979	J29	II	—	滑石製石頭	滑石	5.1	1.9	1.6	18.0	
	980	F30	II	27468	滑石製石頭	滑石	3.5	2.2	1.9	14.3	
	981	H43	II a	—	滑石製石頭	滑石	2.3	2.0	1.0	7.9	
128	982	D32	II	—	滑石製石頭	滑石	3.1	1.4	0.7	3.3	
	983	J29	II	—	滑石製石頭	滑石	3.2	1.8	0.8	6.9	
	984	E32	I	18359	滑石製石頭	滑石	4.8	8.1	1.7	88.0	縫刻面
	985	G26	II	19251	砂岩	砂岩	(14.3)	(11.4)	(9.4)	2,390.5	
	986	B20	II	19789	砂岩	砂岩	(8.6)	8.7	7.9	781.4	
	987	J28	II	23849	砂岩	砂岩	(12.2)	(6.4)	3.9	520.6	
	988	F29, G32, H27	I, II, II b	23501・18506*	砂岩	砂岩	(11.5)	(5.6)	(5.0)	526.7	
	989	H37	II a	13538	砂岩	砂岩	(8.1)	4.3	4.7	277.2	
	990	J28	II	23575	砂岩	砂岩	(3.8)	(6.1)	(5.0)	145.5	
	991	J32	I	—	砂石	流紋岩	(5.80)	3.10	(3.70)	78.7	
129	992	G24	I	—	砂石	流紋岩	7.50	7.50	2.90	251.6	天端
	993	F27	I	—	砂石	流紋岩	(7.5)	(7.20)	(3.90)	247.8	天端
	994	I33	I	31585	砂石	流紋岩	(40.60)	(7.60)	(2.50)	224.8	天端
	995	K29	II	23810	砂石	砂岩	(5.6)	8.20	(2.2)	150.4	
	996	D28	II b	17175	砂石	砂岩	(8.3)	(6.3)	2.2	159.1	
	997	E27	I	18094	砂石	砾灰岩	6.9	7.5	2.0	92.1	
	998	G30	II	24896	砂石	砂岩	(5.1)	4.2	1.1	27.0	
	999	E32	II a	11418	砂石	砾灰岩	(5.2)	3.2	1.2	21.6	
	1000	H30	II	—	砂石	砂岩	(4.1)	(4.2)	(1.1)	28.1	
	1001	D20	II	17987	砂石	頁岩	(4.4)	3.1	(0.9)	17.5	
130	1002	G43	II a	9694	砂石	砂岩	(4.5)	2.9	0.8	20.1	
	1003	H30	II	24947	砂石	砂岩	(5.2)	3.5	0.9	28.3	
	1004	G30	II	26541	砂石	砂岩	(5.9)	(3.9)	(2.0)	64.1	
	1005	G32	II b	36902	砂石	砂岩	(6.40)	3.30	1.20	39.1	
	1006	J28	I	—	砂石	砂岩	(4.50)	(2.80)	(1.20)	24.5	
	1007	K27	II	23835	手水鉢	砾灰岩	15.7	9.4	4.3	660.0	
	1008	H29	II	17142	粗石製品	砾石	17.6	10.5	5.9	229.0	
	1009	H27	I	17893	粗石製品	砾石	12.0	4.8	2.5	51.7	
	1010	G31	II	27555	粗石製品	砾石	7.1	4.6	2.6	31.4	
	1011	G31	II	27637	粗石製品	砾石	6.9	5.1	2.8	36.4	

第20表 鉄製品観察表

種類 番号	属 番号	出土区 層	取上番号	器種	部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	
	1012	H21	II	21023	不明	刀先	(4.8)	2.3	2.5	7.2	彫い作り 背面は錐の背のように外反
	1013	I29	II b	29403	刀子	柄～刀部	9.8 柄0.7	1.1		24.3	形彫欠損
	1014	K37	III a	23234	刀子	刃	(5.3)	1.4	0.2	8.5	
	1015	K28	II	24398	刀子	刃	(4.8)	1.8	0.3	4.5	
	1016	I29	II	24939	小刀	刃先欠損	(13.7) 柄0.5	2.5 柄1.2～1.5	0.4 柄0.35	38.2	
	1017	L28	II	33912	鎌	柄部一部欠損	(5.5) 柄0.3	(2.5) 柄0.8	—	44.5	想定最大幅3.3cm奥行き5.5cm以上
	1018	R29	II	23339	鎌	完形	4.3	1.6	0.5	7.2	
	1019	E31	II b	16181	鎌	完形	(6.55)	1.3	0.5 0.9 茎0.3	8.2	
132	1020	H43	II b	14179	鎌	完形	8.0	0.9	0.4、茎0.6	12.4	
	1021	H30	II	26569	鎌	先端欠損	(8.0)	0.5	0.8	9.6	
	1022	H30	II	26569	鎌	先端欠損	(3.9)	0.7	0.6		
	1023	H30	II	26590	鎌	基部欠損	8.9	0.8	0.8	10.4	基部は径0.3cm
	1024	E21	II	19587	鎌	茎部	(6.7)	0.5	0.5	4.3	基部は径0.3cm
	1025	G22	II a	18616	棒状鉄製品	柄部？(折れ)	4.5	0.5	0.5	3.9	
	1026	G29	II	24581	棒状鉄製品		4.4	0.6	0.3	3.1	
	1027	J28	II	23549	鍔	完形	外径約4.0	内径2.0～2.2	0.8	14.3	内外ともに鍛造行
	1028	I29	II	24678	板状熟製品		3.0～7.0	6	0.9	16.1	
	1029	F41	II g	9978	熟製品	裏わざ部分に欠損	16.6	0.8	0.8	38.6	刀頭幅0.6cm厚さ0.5cm基部幅0.5cm厚さ0.5cm
	1030	I30	II	26668	鉗？		4.0	0.6	0.8	2.9	基部は径0.4cm
	1031	D21	II	19767	不明		2.7	1.8	0.7	6.2	
	1032	E31	II a	16369	熟製品	完形	3.9	1	1.1	7.9	くさび状
	1033	I27	I	18827	複型鋤	完形	直径9.5×10.0		4	478.9	

第21表 渡来銭観察表

種類 番号	属 番号	出土区 (遺構)	層	取上番号	器種	分類	時期	初鑄年	書体	背面	直径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
	1034	J35	III a	—	渡来銭	不明	—	—	—	—				
	1035	J35	III a	—	渡来銭	不明	—	—	—	—				
	1036	J35	III a	—	渡来銭	不明	—	—	—	—				
133	1037	I29	II b	25405	渡来銭	開元通寶	唐	960年	真書	—	24.2	1.1	2.2	
	1038	I29	II b	25406	渡来銭	並道元寶	北宋	995年	行書	—	24.9	1.0	1.8	1/8欠損
	1039	I29	II b	25408	渡来銭	嘉祐通寶	北宋	1056年	真書	—	25.1	1.0	1.5	
	1040	I29	II b	25407	渡来銭	元祐通寶	北宋	1086年	真書	—	24.9	1.1	2.3	
	1041	I29	II b	25409	渡来銭	元豐通寶		1078年	真書	—	24.0	1.2	2.5	朱付着
	1042	(SD33)	—	29791	渡来銭	元祐通寶	北宋	1086年	真書	—	(22.9)	1.1	1.3	裏面木片？付着
	1043	F29	I	18024	渡来銭	大觀通寶		1107年	真書	—				

第22表 近世遺構出土遺物観察表

辨認番号	出土地	層	取上番号	器種	剖位	分類	計量(cm)	剖面	胎土色調	釉の色調	施釉範囲	形状	備考		
137	1044	SD1	① 24479	甕小口直	原~底	近世陶器	径高:(22.6)	ろくろ	明赤褐	オリーブ風	—	良好	陶甕(雷代川系)		
	1045	SD4	① ~	甕	直部	土師器	径高:(17.6)	壺ナブ	淡黄	—	—	良好	甕		
	1046	SD4	② ~	鉢	口縁	素焼き	—	ハラ模ナブ	灰白、 外:緑、褐色	—	—	良適	鉢		
	1047	SD4-P24	1 ~	打削皿	口縁	近世陶器	径高:(11.2)	壺ナブ	灰~灰赤	黄褐	—	良好	陶甕(雷代川系)		
139	1048	P24-G25	1 19333	盆	腰~高台	青磁	高径:(7.2)	—	灰黄、高台付 青、青磁	オリーブ灰	外邊中央輪郭	良好	陶甕、深い盆、内外眞入 腰出輪		
	1049	SD4-P24	1 ~	瓶	直部	青磁	高径:(6.2)	—	灰白	明綠灰 緑、透明	—	良好	青磁瓶		
	1050	SD6	~ ~	盆	口縁	青磁	—	—	灰白	オリーブ灰	—	良好	陶甕		
	1051	SD4-P24	1 ~	鉢	口縁	白磁	—	—	灰白	緑、透明	—	良好	鉢		
144	1073	SK4-J33	① 1 也	22954	土瓶	注ぎ口	陶器	—	—	褐色	オリーブ風	内腹接合付近無 輪	良好	陶甕(雷代川系) 同:一個体付1点	
	1074	SK4-J26	① 2 也	22963	壺鉢	口縫~底	陶器	底径:(12.6)	—	にふい赤陶	オリーブ風	内腹上部無輪	良好	陶甕(雷代川系) 内腹~底部白色	
	146	1089	P1	—	2398	甕	受水槽	近世陶器	径高:(9.2)	ナブ	にふい槽	外:灰 内:黄灰	外腹施釉	良好	陶甕(雷代川系)

第23表 近世遺構出土錢觀察表

辨認番号	通鑑番号	層標番号	層位	取上番号	器種	分類		背面	錢徑(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
141	SK162	—	—	23865	古銭	寛永通寶	吉	—	25.3	1.2	2.5	
		1053	—	23865	古銭	寛永通寶	新	—	24.7	1.3	3.3	
		1094	—	23865	古銭	寛永通寶	新	—	23.3	1.3	2.8	
		1055	—	23865	古銭	寛永通寶	新	文	25.3	1.5	4.0	
		1056	—	23865	古銭	寛永通寶	新	—	23.8	1.1	2.8	
		1057	—	23865	古銭	寛永通寶	新?	—	24.7	1.2	2.5	
142	SK163	—	—	23865	古銭	寛永通寶	新?	—	22.3	1.0	1.5	
		1059	—	23865	古銭	寛永通寶	新	文	25.2	1.5	3.1	
		1060	—	23865	古銭	寛永通寶	新	文	25.2	1.5	3.1	
		1061	—	23865	古銭	寛永通寶	新	文	25.2	1.6	3.6	織地付背
		1062	—	23865	古銭	寛永通寶	新	—	23.4	1.1	2.4	
		1063	—	23865	古銭	寛永通寶	新?	—	23.7	1.3	2.9	
143	SK164	—	—	23865	古銭	寛永通寶	新	—	22.9	1.3	1.6	織地付背
		1064	—	23865	古銭	寛永通寶	新	—	24.3	1.4	2.6	
		1065	—	23864	古銭	寛永通寶	新	—	24.3	1.4	2.6	
		1066	—	—	古銭	寛永通寶	古	—	24.9	1.1	3.1	
		1067	—	—	古銭	寛永通寶	古	—	24.2	1.3	3.7	
		1068	—	—	古銭	寛永通寶	新	—	23.2	1.0	2.6	
144	SK165	1059	—	23866	古銭	寛永通寶	新	—	24.6	1.5	3.2	
		1070	—	23866	古銭	寛永通寶	新	—	24.3	1.1	2.4	
		1071	—	23866	古銭	寛永通寶	新	—	23.3	1.1	2.5	
		1072	—	23866	古銭	寛永通寶	新	—	23.7	1.1	2.6	
		1075	—	—	古銭	寛永通寶	古	—	25.2	1.3	3.1	
		1076	—	—	古銭	寛永通寶	古	—	24.2	1.3	3.7	
145	SK167	1077	—	—	古銭	寛永通寶	新	文	25.0	1.6	4.2	
		1078	—	—	古銭	寛永通寶	新	—	23.6	1.3	2.5	
		1079	—	—	古銭	寛永通寶	新	文	22.1	1.5	2.7	
		1080	—	23862	古銭	寛永通寶	新	—	23.3	1.2	2.9	
		1081	—	23862	古銭	寛永通寶	古?	—	23.5	1.1	2.2	
		1082	—	—	古銭	寛永通寶	古	—	24.4	1.2	3.1	
146	SK167	1083	—	—	古銭	寛永通寶	新?	—	22.3	1.0	1.9	
		1084	—	—	古銭	寛永通寶	新	—	23.2	1.3	2.5	
		1085	—	23863	古銭	寛永通寶	新	—	24.2	1.5	3.6	
		1086	—	23863	古銭	寛永通寶	新?	—	22.5	1.3	2.5	
		1087	—	—	古銭	寛永通寶	新	文	25.1	1.2	3.5	
		1088	—	—	古銭	寛永通寶	古	—	23.9	1.1	2.8	

第24表 近世出土遺物觀察表

地名	年号	出土地名	層	出土番号	器種	部位	分類	形態	(mm)	文様	胎土色	釉薬色調	窯始	属性	構成	備考
1090	G43	I	-	陶	口縁	罐器	-	内・圓錐	不明文	白	青		肥前系	良好	青磁釉	18C中頃
1091	T33	I	-	陶	口縁	罐器	-	内・不明文		灰白	透明		肥前系	良好		18C中頃
1092	J28	I	-	陶	底	罐器	底径:(4.2)	見込み:「長命富貴・金玉滿堂」等行文 蓋台内:「長命富貴」		白	透明		肥前系	良好	18C中頃	
1093	H22	I	29654	陶	口縁	罐器	口径:(10.0)	外:草花文		灰白	透明		肥前系	良好	18C中頃	
1094	G41	I	-	陶	口~底下	罐器	口径:(11.0)	内・圓錐 外:桜開山文		灰白	透明		肥前系	良好	18C後半	
1095	G33	I	-	陶	口縁	罐器	-	内・圓錐		白	透明		肥前系	良好	18C後半	
1096	G25	V	-	陶	口縁	罐器	-			黄白	透明				良好	18C後半
1097	F43	IIa	-	陶	口縁	罐器	-	内:四方聯文					肥前系	良好	18C後半	
1098	I33	I	-	陶	口~底下	罐器	口径:(8.0)	内:四方聯文 外:草花,山水文		白	透明		肥前系	良好	18C後半	
1099	D24	II	-	陶	口~底下	罐器	口径:(8.0)	外:草花文		白	透明		肥前系	良好	18C後半	
1100	E43	IIa	9849	陶	頭中	罐器	-	蓋:圓錐2条		灰黃	灰白	外表面切45°-斜	肥前系	良好	18C後半	
1101	D19	I	-	陶	頭	罐器	底径:(5.2)	内・外:圓錐		灰	透明		肥前系	良好	18C後半	
1102	F24	I	-	陶	頭	罐器	底径:(3.9)	外:圓錐		灰白	透明		肥前系	良好	18C後半	
1103	J32	I	-	陶	反頭	罐	底径:(4.8)		灰	透明	見込み: 蛇の目輪刻		肥前系	良好	18C初~前半	
1104	J37	I	-	陶	反頭	罐	底径:(4.8)	見込み:圓錐,行文	白	透明				良好	18C初~前半	
1105	B27,	I	B2a	-	陶	反頭	罐	底径:(3.8)		白	透明	見込み: 蛇の目輪刻		良好	18C初~前半	
1106	F41	I	-	陶	反頭	罐	底径:4.6		白	透明	見込み: 蛇の目輪刻		良好	18C初~前半		
1107	G25	I	19364	陶	反頭	はば	口径:10.6 底径:3.8 器高:5.4	外:山水文		白	透明	見込み: 蛇の目輪刻		良好	18C初~前半 見込み彩目	
1108	H35	I	-	陶	頭	罐器	口径:(7.0)	-	白	透明				良好	18C初~前半	
1109	C27-28	I	-	陶	頭~蓋台	陶器	底径:4.6	-	黄褐色 暗褐色	黄褐色 暗褐色	薄みを含む 頭下~蓋台無釉		肥前	良好	16C末~17C初	
1110	F28	I	-	陶	底	陶器	-	-	黄灰	外:圓錐 内:透明	這面無釉		肥前系	良好	17C後半~18C前半	
1111	C12	I	-	陶	口縁	陶器	-	-	淡黃	透明			肥前系	良好		
1112	H31	I	-	陶	口縁	陶器	-	-	淡黃	透明			肥前系	良好	此の可能性	
1113	B27	I	-	陶	頭~蓋台	陶器	底径:4.2	-	浅黃	赤褐	豪付無釉,見込み: 蛇の目輪刻		良好	(龍門町)	良好	
1114	J26	I	17937	陶	はば	陶器	口径:11.5 底径:4.5 器高:6.0	-	にふい 赤褐色	赤褐色	豪付無釉,見込み: 蛇の目輪刻		良好	(龍門町)	良好	
1115	J26	I	17936	陶	はば	陶器	口径:10.9 底径:4.4 器高:5.3	-	黄灰	赤褐色	部分的に釉付,見 込み蛇の目輪刻, 萬合無釉		良好	(龍門町)	良好	
1116	G24	IIIa	-	陶	頭~蓋台	陶器	底径:5.4	-	明赤褐色	赤褐	見込み蛇の目輪 刻,萬合無釉		良好	(龍門町)	良好	
1117	F28	II	19356	陶	頭~蓋台	陶器	底径:5.4	-	明褐色	赤褐色	見込み蛇の目輪 刻,萬合無釉		良好	(龍門町)	良好	
1118	J26	II	-	陶	頭~蓋台	陶器	底径:4.6	-	埋	埋オーリーブ 灰	見込み蛇の目輪 刻,萬合無釉		良好	(龍門町)	良好	
1119	I26	IIa	-	陶	底	陶器	底径:5.0	-	明赤褐色	黑褐色	見込み蛇の目輪 刻,萬合無釉		良好	(龍門町)	良好	
1120	H27	I	-	陶	頭~蓋台	陶器	底径:5.2	-	にふい 赤褐色	オーリーブ 灰	見込み蛇の目輪 刻,萬合無釉		良好	(龍門町)	良好	
1121	G33	I	-	陶	頭~蓋台	陶器	底径:(5.0)	-	にふい 赤褐色	灰	見込み蛇の目輪 刻,萬合無釉		良好	(龍門町)	良好	
1122	J26	II	-	陶	完形	陶器	口径:11.6 底径:5.0 器高:5.3	-	埋赤褐色	赤褐色	見込み蛇の目輪 刻,萬合無釉		良好	(龍門町)	良好	外面上部~内面白化 粧土
1123	J26	埋乱	-	陶	口縁	陶器	口径:11.8	-	にふい 赤褐色	白	見込み: 蛇の目輪刻		良好	(龍門町)	良好	外面上部~内面白化 粧土
1124	H27	I	-	陶	頭~蓋台	陶器	底径:5.1	-	埋灰黃	白化粧:灰 白	白化粧數か所,萬合 無釉		良好	(龍門町)	良好	外面上部~内面白化 粧土,萬合粧2.5mm ~6mmと正蛇腹罫
1125	L32	I	-	陶	頭~蓋台	陶器	底径:4.2	-	灰	白化粧:灰 白	白化粧:灰 白		良好	(龍門町)	良好	外面上部~内面白化 粧土,見込み蛇目45° 度
1126	H33	I	-	小陶	口縁	陶器	口径:10.0	-	灰	白化粧:灰 白	白化粧		良好	(龍門町)	良好	外面上部~内面白化 粧土
1127	E27	I	17913	陶	頭~蓋台	陶器	底径:4.7	-	にふい 赤褐色	白化粧:灰 白	見込み蛇の目輪 刻,萬合無釉		良好	(龍門町)	良好	外面上部~内面白化 粧土
1128	L27	I	-	陶	頭~蓋台	陶器	底径:4.6	-	にふい 赤褐色	灰	見込み蛇の目輪 刻,萬合無釉		良好	(龍門町)	良好	外面上部~内面白化 粧土

第24表 近世出土遺物観察表

地名 番号	地名 番号	出上区 番号	層 番号	器種 部位	分類	計量 (cm)	文様	胎土 色調	施釉色調	焼物	属性	構成	備考	
149	1129	J37	I	-	碗	底～高台	陶器	透徑:5.0	-	灰灰	透明 白化粧・灰 オリーブ	見込み物の日輪 刺、高台無釉	窯業 (龍門町)	良好 外面上部～内面白化 粧土、臺付と見込み 物
	1130	I26	I	-	碗	底～ 高台	陶器	底径:4.4	-	にじい 赤褐	透明白化粧・灰 オリーブ	見込み物の日輪 刺、臺付・高台無釉	窯業 (龍門町)	良好 外面上部～内面白化 粧土、質入
	1131	J37	IIIa	23133	碗	底～ 高台	陶器	底径:(4.7)	-	にじい 赤褐	外:褐 内:明黄褐	見込み物の日輪 刺、臺付・高台内 無釉	窯業 (龍門町)	良好 見込み物
	1132	J33	I	-	碗	底～ 高台	陶器	底径:4.8	-	灰白	明オーリーブ 灰	見込み物の日輪 刺、臺付・高台内 無釉	窯業 (龍門町)	良好 高台内複粒付
	1133	D24	II	-	碗	口縁	陶器	口径:(12.0)	-	にじい 赤褐	墨	墨	窯業 (龍門町)	良好 鉢
	1134	E-P24	I, II	-	碗	口縁	陶器	口径:(13.1)	-	理赤褐	墨	墨	窯業 (龍門町)	良好 鉢
	1135	F40	I a	-	碗	口縁	陶器	口径:(12.8)	-	理黄褐	墨	墨	窯業 (龍門町)	良好 鉢
	1136	F33	I	-	碗	口縁	陶器	-	-	理	墨	墨	窯業 (龍門町)	良好 鉢
	1137	J37	II b	-	碗	口縁	陶器	-	-	理	墨	墨	窯業 (龍門町)	良好 鉢
	1138	E21	II	-	碗	口縁	陶器	-	-	灰灰	墨	墨	窯業 (龍門町)	良好 鉢
150	1139	J22	I	-	坪	底～ 高台	陶器	直径:(3.4)	-	灰白	浅黄	脚下部～高台無 釉	不明	良好 質入
	1140	E21	II	-	坪	底～ 高台	陶器	直径:(5.0)	-	灰白	白濁	疊付～高台内無 釉	不明	良好
	1141	H34	I	-	坪	底～ 高台	陶器	直径:(3.8)	-	灰	明オーリーブ 灰	底部無釉	不明	良好 青磁系、内面トラン ジタル2か所
	1142	H35	I	-	小坪	底～ 高台	陶器	直径:3.0	-	质赤	灰白	肥前系	良好	
	1143	H34	I	-	小坪	底～ 高台	陶器	直径:(3.1)	-	灰白	透明	-	不明	良好 貝殻1小所
	1144	I25	I	18207 他	口縁 完形	底～ 高台	陶器	口径:(8.6) 直径:4.6 高さ:6.2	外:楕文	にじい 黄褐	透明白化粧・灰 化粧	疊付～高台内無 釉	窯業 (龍門町)	良好 内面上～外面白化 粧土、鉢状
	1145	L32	I	-	皿	口縁	陶器	-	内:柴唐草文	白	透明	-	肥前系	良好 18C、鉢他見
	1146	D23	II	-	皿	口縁	陶器	口径:(12.0)	内:柴唐草文、葉編 外:唐草文、葉編	白	透明	見込み 物の目輪刺	肥前系	良好 18C、鉢他見
	1147	F39	I	-	皿	底	陶器	直径:(7.0)	内:蔓花梵文	白	透明	-	肥前系	良好 18C
	1148	J28	I	-	皿	底	陶器	直径:(8.0)	外:蔓花梵文 外:葉編	白	透明	-	肥前系	良好 18C
151	1149	H44	II	-	皿	底	陶器	直径:(8.0)	内:草花文	白	透明	見込み 物の目輪刺	肥前系	良好 18C
	1150	H37	I	-	皿	底	陶器	直径:(11.0)	白	透明	-	肥前系	良好 18C	
	1151	L35	I	-	皿	底	陶器	直径:(7.8)	内:十字四方梵文 外:葉編	白	透明	-	肥前系	良好 18C
	1152	I37	IIIa	29339	皿	底	陶器	直径:(4.6)	白	透明	見込み 物の目輪刺	肥前系	良好	
	1153	G42	I	-	皿	底	陶器	直径:(6.0)	内:葉編	白	透明	見込み 物の目輪刺	肥前系	良好
	1154	J28, K29	I	-	皿	底	陶器	直径:8.0	白	透明	底部無釉	肥前系 (唐草文)	良好 16C末～17C初	
	1155	H32	I	29652	皿	底	陶器	直径:4.0	-	灰	灰オーラー グリーン	底部無釉	肥前系 (唐草文)	良好 16C末～17C初
	1156	F28	I	-	碗	底	陶器	底径:4.2	三島手	赤褐	灰～灰白	疊付無釉	肥前系	良好 17C初～中盤、見込み 物トランジタル3か所
	1157	G33	I	-	碗	底	陶器	直径:(5.0)	三島手	赤褐	外:理黄褐 内:理黄褐、灰白	-	肥前系	良好 見込み物20件程度、疊 付に亘り
	1158	F31	I	-	皿	口縁	陶器	-	尋赤褐	内:灰～灰 褐色	-	肥前系	良好	
152	1159	J27	IIIa	-	碗	口縁	陶器	-	-	灰	外:透明 (内:柴山文)	-	肥前系 (内:柴山文)	良好
	1160	I26	I	-	皿	底	陶器	底径:4.5	-	灰灰	外:淡黄 内:透明	見込み物の目輪 刺、脚下～高台無 釉	肥前系 (内:柴山文)	良好 高台に3～4～5件 見込み物トランジ タル4か所
	1161	I26	I	-	皿	底	陶器	直径:4.6	-	灰灰	外:淡黄 内:理黄褐 外:理黄褐 内:明黄灰 内:透明	見込み物の目輪 刺、高台無釉	肥前系	良好 見込み物と高台に 砂目
	1162	G33	I	-	皿	口縁	陶器	-	-	黄褐	外:理黄褐 内:黄褐 内:黄褐・灰 白	-	肥前系	良好
	1163	J41	I a	-	皿	口縁	陶器	-	-	灰白	墨	肥前系	良好 鉢	
	1164	K37	II b	-	皿	底	陶器	-	内:西方梵文	灰白	外:明黄灰 内:透明	肥前系	良好 青磁系	
	1165	I23	I	-	皿	底	陶器	-	外:不明文	白	透明	-	肥前系	良好
	1166	B27	I	-	皿	底	陶器	口径:(10.0) 底径:(12.8) 直径:(12.5)	黄	外:灰白	-	肥前系	良好	
	1167	I41, J42	I a, B a	-	土板 蓋	底	陶器	底径:(6.6)	にじい 赤褐	外:灰白	上面灰褐	窯業 (藍代川系)	良好	
	1168	F23	I	-	土板 蓋	底	陶器	底径:(8.8)	-	灰	外:灰	上面灰褐	窯業 (藍代川系)	良好
153	1169	E28, F27-28	I, II	18551 他	土板 蓋	底～ 底	陶器	口径:(6.0) 底径:3.6	-	褐	上面灰褐	窯業 (藍代川系)	良好 同下一選部はミス村 等で黒褐色を呈する	

第24表 近世出土遺物觀察表

地名	年号	出土地	層	段	器種	部位	分類	計量 (cm)	文様	胎土 色調	釉色調	施釉	属性	状況	備考
1170	H38	I	-	土瓶	口縁	陶器	口径: (7.0)	-	に古い 赤褐色	外: 暗褐色 内: 白	口唇部無釉、内底 上部無釉	施釉 (當代川系)	良好		
1171	K37	I	-	土瓶	口縁	陶器	口径: (6.6)	-	に古い 黄褐色	暗褐色	口唇～内底上部 無釉	施釉 (當代川系)	良好		
1172	J27	I	-	土瓶	肩	陶器	-	-	赤褐色	暗褐色	外面部下部、内底 上部無釉	施釉 (當代川系)	良好	鉛釉	
1173	G31	I	-	土瓶	肩	陶器	-	-	に古い 褐色	暗オーライブ	腹部から舞袖	施釉 (當代川系)	良好	單くス付着	
1174	J41	I a	-	土瓶	肩	陶器	-	-	に古い 褐色	暗褐色	施釉 (當代川系)	良好			
1175	H32 J33	I	-	土瓶	底	陶器	底径: (3.6)	-	灰褐色	暗褐色	外面部羽根から 無釉	施釉 (當代川系)	良好		
1176	E27	IIIa	22526	土瓶	小鉢	陶器	底径: (3.6)	-	褐色	外: 暗褐色 内: 黄褐色	施釉 (當代川系)	良好			
1177	L35	I	-	罐	口	陶器	底径: (3.0)	-	漆赤褐色	ナリープ風	施釉 (當代川系)	良好	鉛釉		
1178	J33	VI	35973	土瓶	口	陶器	-	-	に古い 褐色	暗オーライブ 褐色	施釉 (當代川系)	良好	茶止め穴3つ		
1179	D27	I	-	土瓶	口	陶器	-	-	暗褐色	暗オーライブ 褐色	施釉 (當代川系)	良好	茶止め穴3つ		
1180	G43	I	-	土瓶	口	陶器	-	-	に古い 褐色	暗褐色	合板部付近無釉	施釉 (當代川系)	良好	茶止め穴3つ?	
1181	C50	I	-	土瓶	口縁	陶器	-	-	暗褐色	暗褐色	内底下部無釉	施釉 (當代川系)	良好		
1182	J31	I	-	瓶	口縁	陶器	口径: (6.4)	-	漆赤褐色	オーライブ風	施釉 (當代川系)	良好	鉛釉、17C後半 盤平底の可能性		
1183	H22	IIa	-	瓶	口縁	陶器	口径: (6.6)	-	褐色	オーライブ風	施釉 (當代川系)	良好	鉛釉、17C		
1184	F21	I	-	瓶	肩	陶器	-	-	暗褐色	外: 暗褐色	内底無釉	施釉 (當代川系)	良好	鉛釉、17C後半→18C 前半	
1185	D32	I	-	瓶	肩	陶器	-	-	褐色	オーライブ風 「風の巻点」 鉛分?	施釉 (當代川系)	良好	17C後半→18C前半		
1186	B33-35	I	-	瓶	口縁	陶器	口径: (3.1)	-	褐色	暗褐色	施釉 (當代川系)	良好			
1187	D27	I	-	瓶	口縁	陶器	口径: (8.4)	-	に古い 褐色	外: 透明	白化粗士	施釉 (鐵門町)	良好	墨の可能性	
1188	E32	II	-	口付 鉢	口縁	陶器	口径: (37.7)	-	暗褐色	施釉	口唇部無釉	施釉 (當代川系)	良好	鉛釉、18C後半 口唇部に貝貝	
1189	B27	I	-	口付 鉢	口縁	陶器	口径: (15.7)	-	暗褐色	オーライブ風	口唇部無釉	施釉 (當代川系)	良好	鉛釉、18C後半 口唇部に貝貝	
1190	I-J 26-27	I	-	口付 鉢	口縁	陶器	-	-	暗褐色	外: オーライ ブ風 内: 暗褐色	口唇部無釉 あり	施釉 (當代川系)	良好	鉛釉、18C後半 口唇部に貝貝、内面 白色がかる	
1191	B33	I	-	鉢	口縁	陶器	口径: (25.1)	-	暗褐色	オーライブ風	口唇部無釉	施釉 (當代川系)	良好	鉛釉、18C後半 内面に陳下に貝貝	
1192	G33	I	-	鉢	口縁	陶器	口径: (25.2)	-	に古い 褐色	オーライブ風	口唇部無釉	施釉 (當代川系)	良好	鉛釉、18C後半	
1193	E22	II	17995	鉢	口縁	陶器	口径: (24.0)	-	に古い 褐色	オーライブ風	口唇部無釉	施釉 (當代川系)	良好	鉛釉、内面白色がかる	
1194	H26	I	18526	鉢	底	陶器	底径: (13.3)	-	に古い 赤褐色	外: オーライ ブ風 内: 暗褐色	底下部～底部 無釉	施釉 (當代川系)	良好		
1195	F28	I	-	溜鉢	口縁	陶器	口径: (29.9)	-	赤褐色	外: 暗褐色 内: 暗褐色	口唇部無釉	施釉 (當代川系)	良好		
1196	J27	I	-	溜鉢	口縁	陶器	口径: (25.8)	-	暗褐色	暗褐色	口唇部無釉	施釉 (當代川系)	良好		
1197	I20	II	-	溜鉢	口縁	陶器	口径: (25.4)	-	深褐色	ナリープ風	口唇部に無釉	施釉 (當代川系)	良好		
1198	J27	I	-	溜鉢	口縁	陶器	口径: (24.0)	-	暗褐色	ナリープ風	口唇部無釉	施釉 (當代川系)	良好		
1199	B27	IIb	20579	溜鉢	底	陶器	底径: (18.8)	-	暗褐色	外: 暗褐色 内: 暗褐色	施釉 (當代川系)	良好			
1200	F24	I	18170	溜鉢	底	陶器	底径: (22.2)	-	赤褐色	ナリープ風 内: 暗褐色	施釉 (當代川系)	良好			
1201	F31	I	-	溜鉢	底	陶器	底径: (10.8)	-	暗褐色	ナリープ風	外面部切あり	施釉 (當代川系)	良好		
1202	J27	I	-	溜鉢	底	陶器	底径: (12.6)	-	に古い 褐色	外: 暗褐色 内: 暗褐色	施釉 (當代川系)	良好			
1203	G21	IIa	18580	溜鉢	底	陶器	底径: (14.6)	-	に古い 褐色	ナリープ風	底部無釉	施釉 (當代川系)	良好		
1204	E28	IIIa	-	溜鉢	底	陶器	底径: (13.2)	-	に古い 褐色	暗褐色	施釉 (當代川系)	良好			
1205	L34	IIIa	-	鉢か 瓶	底	陶器		-	褐色	外: 暗褐色 内: 暗褐色	不明	中世の可能性 透黒釉	良好		
1206	I-J 26-27	I	-	蓋	口縁	陶器	底径: (27.4)	-	褐色	暗オーライ ブ風	口唇部無釉	施釉 (當代川系)	良好		
1207	E33	I	-	蓋	口縁	陶器	底径: (16.0)	-	漆赤褐色	オーライブ風	口唇部無釉	施釉 (當代川系)	良好	鉛釉	

第24表 近世出土遺物觀察表

種類 番号	出土地 番号	層 段上番号	分類 番号	器種 部位	分類 番号	形態 (cm)	文様	胎土 色調	釉薬色調	施釉	属性	備考		
	1208	E27	I	便	口縁	陶器	口径:(51.8)	-	灰褐色	オリーブ黒	口唇部一部無釉	陶器 (近代川系)	良好 鉄輪、18C前半～中頃	
	1209	E25	I	便	口縁	陶器	口径:(44.4)	-	黄灰	褐色	口唇部一部無釉	陶器 (近代川系)	良好 鉄輪、18C前半～中頃	
	1210	J27	I	便	口縁	陶器	口径:(32.8)	-	に赤い 斑	黑褐色	口唇部無釉	陶器 (近代川系)	良好 18C	
	1211	F28	II	鉢	口縁	陶器	口径:(34.0)	-	に赤い 斑	茶オーブ	口唇部無釉	陶器 (近代川系)	良好 18C後半～19C	
	1212	G31	I	便	回	陶器	-	外面上に描寫文	赤褐色	オリーブ黒	-	陶器 (近代川系)	良好 鉄輪	
	1213	J26	便孔	便	回	陶器	-	外面上に描寫文	赤褐色	茶オーブ	-	陶器 (近代川系)	良好 鉄輪	
	1214	J27	I	便	回	陶器	-	外面上に描寫文	赤褐色	茶オーブ	-	陶器 (近代川系)	良好 鉄輪	
155	1215	F28	I	18813	盞	口縁	陶器	口径:(18.2)	-	青	茶オーブ 内:灰白	口唇部無釉部あり	陶器 (近代川系) 大型	
	1216	J32	I	便	口縁	陶器	口径:(14.0)	-	に赤い 斑	黑褐色	口唇部無釉	陶器 (近代川系)	良好 口唇部に真目跡	
	1217	B27	I	道	口縁	陶器	口径:(9.1)	-	灰	オリーブ黒	口唇・脚部無釉	陶器 (近代川系)	良好 中小型	
	1218	D31	II	道	口縁	陶器	口径:(12.2)	-	に赤い 斑	外:灰褐色	-	陶器 (近代川系)	良好 鉄輪、中小型	
	1219	J38	I	道	口縁	陶器	口径:(11.0)	-	に赤い 斑	青褐色	内面無釉	陶器 (近代川系)	良好 (1)背卜内口縁細目	
	1220	B-J 26	I	17890	微か 地	回	陶器	直径:(13.7)	-	灰褐	オリーブ黒	-	陶器 (近代川系)	底部に刀削跡 輪郭の可塑性
	1221	E29	I	微か 地	回	陶器	直径:(20.0)	-	に赤い 斑	茶オーブ	底部は物が まだら	陶器 (近代川系)	良好 施状?	
	1222	E53	I	微か 地	回	陶器	直径:(11.0)	-	灰褐色	茶オーブ	-	陶器 (近代川系)	良好	
	1223	F28	I	鉢	底	陶器	直径:(12.2)	-	に赤い 斑	底部無釉	-	陶器 (近代川系)	良好	
	1224	I-J 26-27	I	近明 皿	完形	陶器	口径:10.3 底径:4.4 高さ:2.5	-	褐色	茶オーブ	外面部～底部 内面無釉	陶器 (窓門町)	良好 調節系切 内面砂目が所	
	1225	G32	I	近明 皿	口縁	陶器	口径:(12.2)	-	灰	内・外口縁 オーブ	内口縁～内面無釉、 外面部無釉	陶器 (窓門町)	良好 外面スズ	
	1226	F23	I	近明 皿	口縁～底	陶器	口径:(10.8) 底径:(5.0) 高さ:2.8	-	灰褐色	茶オーブ	-	陶器 (窓門町)	良好 調節系切、砂目跡 脚部3所に擦痕	
	1227	H35	I	近明 皿	口縁	陶器	-	-	灰褐	オリーブ黒	外面部～内面に施、 外面部～底部無 釉	陶器 (窓門町)	良好 調節系切 脚部3所付着	
156	1228	J31	I	網	口縁	陶器	-	-	に赤い 斑	青褐色	-	陶器 (窓門町)	良好 網	
	1229	H28	便	網	口縁	陶器	-	-	に赤い 斑	オリーブ黒	内外面部 化粧土	陶器 (窓門町)	良好 化粧土に施輪	
	1230	F32	I	深井	網～ 脚部	陶器	直径:4.4	-	に赤い 斑	オリーブ黒	脚部下～底無釉	陶器 (窓門町)	良好 弘板具	
	1231	G33	I	深井	網～ 脚部	陶器	直径:3.8	-	赤褐	外:灰白 内:赤褐色	脚部無釉、 辺化粧土	陶器 (窓門町)	良好 弘板具 内面砂目	
	1232	L37	IIIa	29577	網	口縁	陶器	-	-	に赤い 斑	外:灰褐色	内面無釉	陶器 (近代川系)	良好 鉄輪、弘具
	1233	J33	E25	便孔	口縁～ 脚	陶器	口径:(9.0)	-	に赤い 斑	青褐色	見込み船の目 施釉	陶器 (窓門町)	良好 古手の小網?	

第25表 近世出土錢觀察表

銭 番号	掲載 番号	出土地 番号	層 段上番号	器種	分類 番号	實面	鏡面 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	
156	1234	P27	I	18363	鏡	寛永通寶	新?	-	22.5	0.9	1.8
	1235	E27	I	17912	鏡	寛永通寶	新	-	23.0	0.9	1.9
	1236	E27	I	17908	鏡	寛永通寶	新	-	23.4	1.0	1.8
	1237	641	IIIb	12099	鏡	寛永通寶	古?	-	23.8	1.8	4.8

第5章 自然科学分析

第1節 自然科学分析の種類と目的

第2地点における自然科学分析は、平成25年度に「種実同定」と「放射性炭素年代（AMS測定）」、平成26年度に「出土試料の自然科学分析（年代測定、樹種同定）」を行った。

「種実同定」及び「放射性炭素年代（AMS測定）」では、堅穴住居跡・堅穴建物跡4基から採取した5試料の種実同定により、当時の植物利用に関する資料を得るとともに、種実同定作業を経て年代測定に適した試料を選定した上で、試料の年代を測定することによって、遺構の年代を知る手がかりとした。「出土試料の自然科学分析（年代測定、種実同定）」では、堅穴住居跡4基、土坑1基、溝状遺構1条から検出した炭化物10点について、放射性炭素年代測定を行い、遺構の年代を知る手がかりとともに、一部の試料は種実同定を行い、当時の植物利用に関する資料を得たが、種実同定については、本報告書対象年代とは異なる時代の遺構から採取された試料である。

分析結果については、第2節以降に詳細に記載してあるので、譲ることとしたい。なお、今回は第2地点の古代・中世・近世に関する科学分析を対象とした。第1地点については、平成27年度刊行報告書に、第2地点（旧石器時代・縄文時代編）は平成28年度刊行報告書にそれぞれ記載済みで、第2地点（縄文晩期・弥生・古墳時代編）及び第3地点については、今後刊行する報告書において報告する予定である。このため、納品された報告書を基に第2地点（古代・中世・近世編）のみ再編を行い、体裁を整えて掲載している。また、平成25年度自然科学分析委託の「樹種同定」及び「放射性炭素年代（AMS測定）」については、委託業務の際には樹種同定によって分析対象となった炭化物に対して年代測定を行っているが、本報告書掲載に際しては、年代測定対象試料を示した上で樹種同定の分析報告を記載する。

自然科学分析に関する一覧

掲載節	分析の内容	分析委託業者
第2節	放射性炭素年代（AMS測定）	株式会社 加速器分析研究所
第3節	種実同定	株式会社 加速器分析研究所
第4節	放射性炭素年代測定	株式会社 バレオ・ラボ

第2節 永吉天神段遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株） 加速器分析研究所

1 測定対象試料

永吉天神段遺跡は、鹿児島県曾於郡大崎町永吉に所在し、持留川とその支流に挟まれた標高約35mの河岸段丘及び標高約50mのシラス台地に立地する。測定対象試料は、SI10、SI13、SI19、SI21から出土した炭化物や炭化種実の合計5点である（表1：表は、本報告書掲載遺構 SI21=中世堅穴建物跡のみ掲載）。試料は、調査現場にて採取された土の中からフローテーションにより回収され、種実同定（別稿種実同定報告参照）を行った後、年代測定に適した試料を選定した。試料5は、炭化イネ穎・胚乳（完形）3点のうち1点を測定試料とした。

試料が出土した遺構はⅢ層で検出され、弥生時代と推定されている。Ⅱ層は弥生時代、V層は縄文時代早期の遺物包含層と捉えられている。

2 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l (1 M) の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (第 26 表)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として過る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下 1 術を丸めて 10 年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として第 27 表に示した。
- (4) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の历年較正範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が历年較正年代を表す。历年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下 1 術を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線

および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によって結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、历年較正年代の計算に、IntCal09 データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。历年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第 27 表に示した。历年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」という単位で表される)。

5 測定結果

試料の測定結果を第 26, 27 表に示す。 ^{14}C 年代は、5 点のうち、試料 5 は明確に異なる年代値を示している。历年較正年代 (1σ) は、1 が繩文時代後期前葉頃、2 ~ 4 が弥生時代中期頃、5 が中世から近世頃に相当する (小林編 2008、藤尾 2009)。試料の炭素含有率はすべて 60% 以上の十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon 51 (1), 337–360
 藤尾慎一郎 2009 「弥生時代の実年代」西本豊弘編『新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代』雄山閣 9-54
 小林達雄編 2008『総覧繩文土器』総覧繩文土器刊行委員会 アム・プロモーション
 Reimer, P. J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radio-

第 26 表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-130195	5	SI21 P2 Ⅲ層	炭化イネ頃・胚乳	AaA	-26.20 ± 0.42	390 ± 20	95.23 ± 0.29

[#5806]

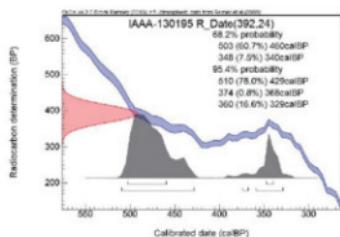
第 27 表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、历年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		历年較正用 (yrBP)	1 σ 历年較正範囲	2 σ 历年較正範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-130195	410 ± 20	94.99 ± 0.28	392 ± 24	503calBP – 460calBP (60.7%) 348calBP – 340calBP (7.5%)	510calBP – 429calBP (78.0%) 374calBP – 368calBP (0.8%) 360calBP – 329calBP (16.6%)

[参考値]

carbon age calibration curves, 0–50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111–1150

Stuiver M. and Polach H. A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, Radiocarbon 19(3), 355–363



第157図 曆年較正年代グラフ（参考）

第3節 永吉天神段遺跡における種実同定

(株) 加速器分析研究所

はじめに

永吉天神段遺跡は鹿児島県曾於郡大崎町永吉に所在し、持留川とその支流に挟まれる河岸段丘および台地上に位置する。本分析調査では、弥生時代と推定される遺構から出土した種実遺体の同定を実施し、当時の植物利用に関する資料を得る。

1 試料

試料は、SI10より1試料、SI13より1試料、SI19より2試料、SI21より1試料の合計5試料である（試料1～5。以下では、本報告書該当試料である試料5：SI21試料1点のみを掲載する）。土壤のフローテーションによって回収され、乾燥した状態でボリ袋やアルミホイルに収納されている。各試料の詳細は結果とともに第28表に示す。なお、これら5試料の中から各1点について放射性炭素年代測定が実施されている（年代測定報告参照）。

2 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定が可能な種実遺体を抽出する。種実遺体の同定は、現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）、吉崎（1992）等を参考に実施し、個数を数えて一覧表で示す。分析後は、種実遺体を分類群毎に容器に入れて保管する。

3 結果

全5試料を通じて、被子植物5分類群（草本のイネ、イネ科、カヤツリグサ属、マメ科（アズキ類？）、エノキグサ）14個の種実が抽出・同定された（第28表）。以下に試料5のみ状況を述べる。

・SI21 P2（試料5）

炭化した栽培種のイネの穎・胚乳が3個、胚乳が6個と、栽培種の可能性があるマメ科（アズキ類？）の種子が1個、計10個が確認された。種実以外では、炭化材（最大33mm）が多く、植物片、砂礫などが確認され、軽石類も多く含まれる。

以上の結果を踏まえ、検出された種実の形態的特徴を以下に述べる。また、炭化種実の写真を図版1に示す。

・イネ (*Oryza sativa L.*) イネ科イネ属

胚乳と胚乳を包む穎（果）は、炭化しており黒色。胚乳は、長さ3.7～5.2mm、幅1.5～2.8mm、厚さ1.5～2.1mmのやや偏平な長楕円体。基部一端には、胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で、2～3本の縦隆脊がある（図版1-1～7）。SI21 P2より出土した胚乳9個中3個の表面には、穎の破片（芻殼）の付着が確認された（図版1-1～3）。

穎は、完形ならば、長さ6～7.5mm、幅3～4mm、厚さ2～3mm程度のやや偏平な長楕円体。基部に大きさ1mm程度の斜切状円柱形の果実序柄と1対の護穎を有し、その上に外穎（護穎と言う場合もある）と内穎がある。外穎は5脈、内穎は3脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稈軸を構成する。果皮は薄く、表面には顆粒状突起が継列する。

・マメ科 (Leguminosae)

第28表 種実同定結果

試料名	出土位置	重量	同定結果				枝番	計測値 (mm)			備考
			分類群	部位	状態	個数		高さ	幅	厚さ	
5	SI21 P2 Ⅲ層	6.671kg	イネ	穎	完形	炭化	3	1 4.3	2.8	2.1	・イネ胚乳：枝番3は別袋より確認
				胚乳			2	5.2	2.8	1.7	・マメ科：半分厚、初生葉欠損
							3	4.4	2.5	1.5	・炭化材多い（最大33mm）、植物片、砂礫（軽石類多い）
				胚乳	完形	炭化	3	1 4.4	2.3	1.6	
							2	4.9	2.5	1.9	
							3	3.7	1.5	1.5	
				穎	破片	炭化	3	—	—	—	
				マメ科（アズキ類？）	種子	破片	炭化	1	—	4.4	+ 3.4

種子は、炭化しており黒色。出土種子は、子葉の合わせ目から割れた半分未満の破片で、残存長4.4mm、幅3.4mm、半分厚さ1.6mmを測り、完形ならばやや偏平な楕円体となる。

子葉合わせ目から半割した面はやや平滑で、胚軸跡の溝が確認される。半剖面は、北大基準（吉崎、1992）の「アズキグループ（幼根が臍の終わり程から急に立ち上がり、胚珠中央に向けて伸びる）」に該当する初生葉を欠損するが、その痕跡（図版1-8b）が確認されることから、アズキ類 (*Vigna* subgen. *Ceratoptropis* (*Piper*) *Verde*; ササゲ属）である可能性が高い。種皮は薄く、表面はやや平滑～粗面で、断面は柵状。

4 考察

種実同定の結果、SI21 P2 から炭化した穀類のイネ、SI21 P2 から栽培種の可能性があるマメ科（アズキ類？）が確認された。これらは、周辺で栽培されていたか、近

辺より持ち込まれたかは不明であるが、当時の本遺跡周辺で利用された植物質食料と考えられ、火を受けて炭化したとみなされる。

また、SI21 P2 から出土したイネには、胚乳表面に顆の付着が確認されたことから、穎（穂）のついた生米の状態で火を受けたと判断される。

文献

石川茂雄 1994『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会 328p.

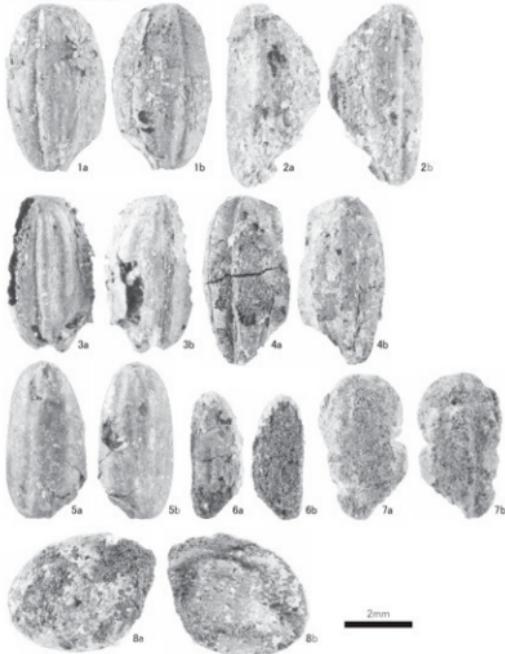
中山至大・井口希秀・南谷忠志 2000『日本植物種子図鑑』東北大学出版会 642p.

吉崎昌一 1992『古代雑穀の検出』『月刊考古学ジャーナル』No.355, 2-14.

※ 本分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得て行った。

※ SI21 は、本報告書掲載の中世竪穴建物 1 号である。

本文中写真2 種実遺体



1. イネ 穎・胚乳(試料5.SI21 P2)

3. イネ 穎・胚乳(試料5.SI21 P2)

5. イネ 胚乳(試料5.SI21 P2)

7. イネ 胚乳(試料2.SI13 西ベルト床着①層)

2. イネ 穎・胚乳(試料5.SI21 P2)

4. イネ 胚乳(試料5.SI21 P2)

6. イネ 胚乳(試料5.SI21 P2)

8. マメ科(アズキ類?) 種子(試料5.SI21 P2)

第4節 放射性炭素年代測定

バレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤 茂・安昭 炫・佐藤正教
廣田正史・山形秀樹・小林絃一
Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani
・小林克也

1 はじめに

鹿児島県大崎町に位置する天神段遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2 試料と方法

試料は、SI45 から炭化材 2 点、SI34 の床直から炭化種実 1 点、SI34 の SK1 から炭化材 1 点、SI35 から炭化材 1 点、SI43 から炭化材 1 点、SI47 の SK4 から炭化材 1 点、SK99 から炭化材 2 点、SD25 から炭化材 1 点（試料 No.10 : PLD-27798）の炭化材の、計 10 点である。以下は、本報告当該試料である試料 No.10 について記載する。

試料は調製後、加速器質量分析計（バレオ・ラボ、コンパクト AMS : NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C 年代、暦年代を算出した。

3 結果

表 5 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C 年代を、図 2 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めでない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

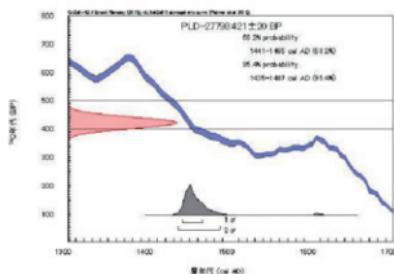
¹⁴C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C 年代 (yrBP) の算出には、¹⁴C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した¹⁴C 年代誤差 ($\pm 1 \sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C 年代がその¹⁴C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。暦年較正とは、大気中の¹⁴C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された¹⁴C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C 濃度の変動、および半減期の違い (¹⁴C の半減期 5730 \pm 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。¹⁴C 年代の暦年較正には OxCal4.2 (較正曲線データ: IntCal13) を使用した。なお、1 σ 暦年年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された¹⁴C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4 考察

測定結果を暦年較正結果に示した（第 158 図）。以下、2 σ 暦年年代範囲（確率 95.4%）に着目して結果を整理する。

SD25 の試料 No.10 (PLD-27798) は 1435-1487 cal AD (95.4%) で、15 世紀代の暦年代を示した。これは、室町時代に相当する。



第 158 図 暦年較正結果

引用・参考文献

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

藤尾慎一郎 2009「弥生時代の実年代」西本豊弘編「新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代」9-54。雄山閣。

中村俊夫 2000「放射性炭素年代測定法の基礎」日本先史時代の¹⁴C 年代編集委員会編「日本先史時代の¹⁴C 年代」3-20。日本第四紀学会。

Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

* SD25 は、発掘調査時に SD18 に統合された。本報告書では中世溝状遺構 15 号として掲載した。

第 29 表 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	資料データ	前処理
PLD-27798 遺構 : SD25 試料 No.10 遺物 No.19456	種類 : 炭化物 (タケ亜科) 状態 : dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 : 1.2 N, 水酸化ナトリウム : 1.0 N, 塩酸 : 1.2 N)	

第 30 表 放射性炭素年代測定及び曆年較正の比較

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	曆年較正年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を曆年代に較正した年代範囲	
				1 σ 曆年代範囲	2 σ 曆年代範囲
PLD-27798 SD25 試料 No.10	-27.51 \pm 0.19	421 \pm 20	420 \pm 20	1441–1465 cal AD (68.2%)	1435–1487 cal AD (96.4%)

第6章 総括

第1節 古代について

日向国から4郡を割いて設置された大隅国は、鹿児島湾奥の曾於郡に国府が置かれ、日向・肥後・薩摩国と結ぶ鉄路は曾於郡のみを通り、豊前・豊後両国から公民200戸を移住させて律令制度の浸透・定着が図られた。奈良時代のうちに曾於郡から菱刈・桑原両郡が分置されたのに対し、半島部の大隅・姶羅・肝属3郡は、郡の帰属、郡城・位置が流動的で、日向国との国境も不明瞭である。

大崎町周辺は近代以前には日向国に属していたが、奈良時代の断片的情報である「大隅國風土記逸文」に見える海村的な「必志里」は、大崎町菱田を称地とする可能性があり、その場合、大崎町域が大隅国に含まれることになる。考古資料においても、鹿児島湾奥並びに都城盆地周辺では、東九州自動車道建設に伴う調査等によって当時の様相が判明しつつあるが、大隅半島中・南部については、いまだに不明な点が多いのが現状である。

水吉天神段遺跡のうち、档ヶ山集落南東端の持留川を臨む第1地点で、掘立柱建物跡6棟と土坑7基などからなる。9世紀から10世紀前半頃の古代集落の存在が明らかとなった。その性格については、「交通の要衝地の一つとして、水滴や焼塙土器・鉄製品など特殊なものももつ認字層が居住したと考えられる」としている（埋査2016）。

第1地点の北西側にある第2地点では、古代の可能性がある柱穴が多数検出されたものの、古代の遺構と特定したのは黒色土器の可能性がある土器片を伴う1基のみであった。包含層出土遺物としては、土師器（耳皿状のものを含む）・黒色土器・内赤土師器・須恵器が29~32区の谷部分から集中して出土したが、第1地点の古代集落との関連については今後の課題である。

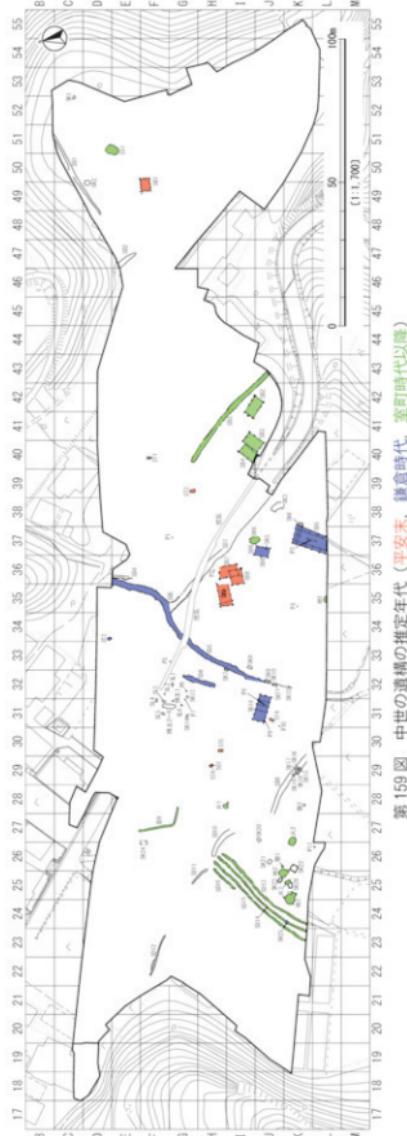
第2節 中世について

1 中世遺構について

掘立柱建物跡が10棟検出されたが、その主軸の向きから3グループに分かれ、さらに主軸と関連すると考えられる溝状遺構等からおおよその時期を推定する。

(1) 平安時代末の遺構

第2地点北東の微高地に独立している掘立柱建物跡1号、中央微高地の東側斜面の掘立柱建物跡7~9号の4棟は、ほぼ南北方向の主軸をもつ。この時期の遺構には、土坑墓2・4~6号の4基がある。土坑墓4~6号は、11世紀後半~12世紀前半のヘラ切底の土師器が副葬された墓である。土坑墓2号は、糸切底の土師器のミニチュア羽釜、白磁の端反碗、湖州六花鏡が出土しており、12世紀中頃の土坑墓と考えられる。



第159図 中世の遺構の推定年代（平安末、鎌倉時代、室町時代以降）

(2) 鎌倉時代の遺構

中央微高地東側斜面の掘立柱建物跡5・6号、西側斜面の掘立柱建物跡10号は、3棟にバラツキがあるが、おむね北東－南西方向を主軸とし、掘立柱建物跡10号と平行する溝状遺構5・6号の2条との関係が考えられる。掘立柱建物跡10号の土師器は13世紀代と考えられる。溝状遺構5号は、遺構内遺物から13世紀後半～15世紀の時期設定ができる。土坑墓1・3号は、13世紀後半～14世紀前葉の系切底の土師器が副葬されている。

(3) 室町時代以降の遺構

中央微高地の東側斜面の掘立柱建物跡2～4号の3棟は、N 46°～50°Eとなる北東－南西方向の軸を持ち、これと平行に走る溝状遺構3号と同時期のものと考えられる。これらの遺構は、本遺跡周辺の現在の区画割りに近い主軸方向をもつ。溝状遺構3号は、東播系須恵器の鉢や白磁碗、鎬蓮弁青磁碗の破片が出土しており、遺跡が所在する档ヶ山集落南麓の档ヶ山古石塔群へ通じていたと考えられる。中世に遡る遺跡である。また、ほぼ同じ軸をとる溝状遺構13～16号（西側微高地の南側斜面）中の溝状遺構15号から検出された炭化材の放射性炭素年代は、15世紀代の曆年年代を示している。室町時代以降の区画と捉えておく。

この時期の遺構に祭祀遺構がある。祭祀遺構2号は、明代（1368～1644）に鑄造を開始した洪武通寶を含む癒着した古銭7枚と完形の備前焼擂鉢が伏せられた状態で出土した14世紀末～15世紀の遺構であり、祭祀遺構1号は、遺構中央で、完形の系切底の土師器小皿が底部を上に向けて出土した15世紀の遺構である。

火葬土坑については、3号は鎌倉時代まで遡る可能性があるが、概ね14～15世紀のものと考えられ、祭祀遺構や地下式坑とともに、中世の人々の精神世界を解明していくための貴重な資料となる。

また、南北方向を主軸とする掘立柱建物跡1号の近くに堅穴建物跡があるが、その主軸は北東－南西方向をとる。遺構内遺物から14世紀後半以降の堅穴建物跡と考えられる。柱穴内埋土中からも、16世紀前半～17世紀後半の炭化したイネ、栽培種の可能性があるマメ科が検出されている。

(4) 祭祀遺構について

祭祀遺構2号から出土した伏せた状態の備前焼擂鉢は、笠下遺跡（宮崎県延岡市）や油須木城跡（鹿児島市郡山町）に類例がある。笠下遺跡では、一頭分の牛の歯と明銭を伴って完形品が伏せた状態で出土しており、密教や修験道との関連が指摘されている。油須木城跡では、15世紀後葉から16世紀前葉に相当する完形品が伏せた状態で出土しており、城普請等に伴う祭祀との関連が検討されている（有川2004）。また、長田遺跡（志布志市有明町）では、土坑墓と推定される梢円形の遺構から、

12世紀の玉縁口縁の白磁碗を覆って伏せた土鍋片が出土している（関東の「鍋被り葬」とは直接関係しないとしている）。15世紀～19世紀にかけて東日本でみられる鍋被り葬については、特定の病気の罹患者や旅行死亡人が村落などに埋葬された可能性が指摘されている（櫻井・小中2016）。鉢・鍋類を伏せて埋納する行為については、九州での類例の増加による検討の深化が期待される。

(5) 地下式坑について

本遺跡では、本県初の事例となる地下式坑が、第2地点で3基、第2地点北西の第3地点で7基検出された。第3地点の地下式坑については、別途作成される報告書にて掲載される。

地下式坑は、関東地方を中心に、九州北部では筑農境の英彦山神宮が所在する英彦山周辺などにみられるが、遺構内遺物の大半が後世の流れ込みによるものと考えられ、遺構構築時に伴う遺物の出土例が少ない遺構である。そのため、その使途も定説が定まっていない。本遺跡では、表土除去後の検出面においては堅坑部分の埋土がシラス混じりで確認されることが多く、近現代のものと想定していたが、調査の進行に伴い本体部分が検出され、再考をせまられた。

この遺構については、第2地点調査時に福岡大学桃崎祐輔教授から地下式坑の可能性を示唆され、第3地点調査時には、鹿児島大学大学院理工学研究科井村隆介准教授に自然作用ではなく人為的なものとの所見を得、さらに大分県立博物館原田昭一企画普及課長から中世後期の地下式坑との指摘を受けた。堅坑平面の検出状況からすると、過去には、近現代のものとして調査されなかった場合もあった可能性がある。また、性格不明の大型土坑として報告された例（宮崎県都城市松原第1遺跡18号土坑）もみられ、他の地下式坑の立地環境との共通性や使途等、今後の検討が必要である。本遺跡が所在する档ヶ山集落の東端の持留川を臨む丘上には、天文四年（1535）再興棟札を収める彦三所大権現があり、信仰関連の立地・使途も検討する必要がある。

2 遺物について

遺物は、29～32区の谷部から集中して出土している。ヒラ切底の土師器や白磁は、谷部にはみられるが、西側微高地にはみられない。一方、系切底の土師器は西側微高地にもみられる。中世前期は中央微高地から谷部までの範囲で人々の活動がみられ、中世後期に進むにつれて、人々の活動範囲が谷部西方の西側微高地に広がっていったと考えられる。

(1) 土師器について

本報告書では、土師器の壺・皿について、口径が10.5cm以上のものを壺、以下のものを小皿とした。日向国では、12世紀中葉以降、系切底の土師器が出現するが、本遺跡

の12世紀相当の土坑墓4～6号から出土した土師器坏・小皿はいずれもヘラ切底で、13～14世紀相当の土坑墓1・3号出土の土師器坏・小皿は糸切底である。12世紀相当の土坑墓2号からは糸切底の土師器のミニチュア羽釜がみられるが、その他の遺構内遺物や包含層出土遺物を含めても、本遺跡の土師器の底部切離し技法がヘラ切から糸切へ移行する経過は不明である。本報告書掲載分の土師器坏・小皿の法量は第31表のとおりである。出土遺物の範囲では、ヘラ切底と糸切底の法量を比較すると、ヘラ切底の坏・小皿の法量差は明確であるに対し、糸切底の坏・小皿の法量差は不明瞭である。ヘラ切底に対し糸切底の坏・小皿は、口径・底径は小型化し、器高は深くなる。

第31表 中世土坑墓出土土師器法量

	底面	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)
坏	ヘラ切	12.8～15.1	9.0～11.5	2.1～3.25
	糸切	10.8～12.5	6.3～8.6	3.2～3.5
小	ヘラ切	8.25～10.0	6.6～8.0	1.1～2.0
	糸切	6.0～10.0	5.3～8.0	1.3～3.4

(2) 煮炊具について

本県出土の中世前半期の煮炊具に関する以前の検討では、中世前半期の資料は種類・数量ともに限られたものであった（上床2004）。その後、調査件数の増加に伴い種類・数量とも増加してきた。県内出土資料を集め、検討した結果、以下のとおりの特徴がうかがえる。

ア 釜に関しては、ほとんどの資料が白色を基調とする色調を呈する。これは、「畿内系土製煮炊具」の特徴であり、本県資料群もその可能性が高いと考える。ただし、さつま町宮ノ前遺跡出土例は茶褐色を呈しており、東海系の可能性がある。

イ 鍋に関しては、桑幡氏館出土のものが「京都産」だ

が、ほかの3点は产地不明である。いずれも、土坑墓もしくは土坑から出土していることが特徴といえる。

以上のことから、本県内においては「釜」「鍋」とともに畿内産のものが多い傾向にある。このような中で、本遺跡出土393（第91図）は、内面の口縁端付近が膨らみ、胎土に灰色石・茶色石・輝石などの小石が含まれ、これまでの本県出土例とは異なる形態・手法・胎土であった。そこで、西日本各地で実地調査を行い学識経験者の所見を得た結果、上述した特徴は、紀伊産の土師質釜、いわゆる「紀伊型釜」であることが判明した。

また、これまでの紀伊産土師質釜の出土地の南限は上ノ村遺跡（高知県土佐市新居）であり、本遺跡出土資料は国内の南限を新たに塗り替えるものであることも判明した。これまでの研究で、「畿内系土製煮炊具」や紀伊産土師質釜は、「広域流通品ではない」（徳永2009、池澤2010・2013）という指摘がされていたが、本遺跡の事例は、再検討を促す遺物の一つとして注目すべきである。

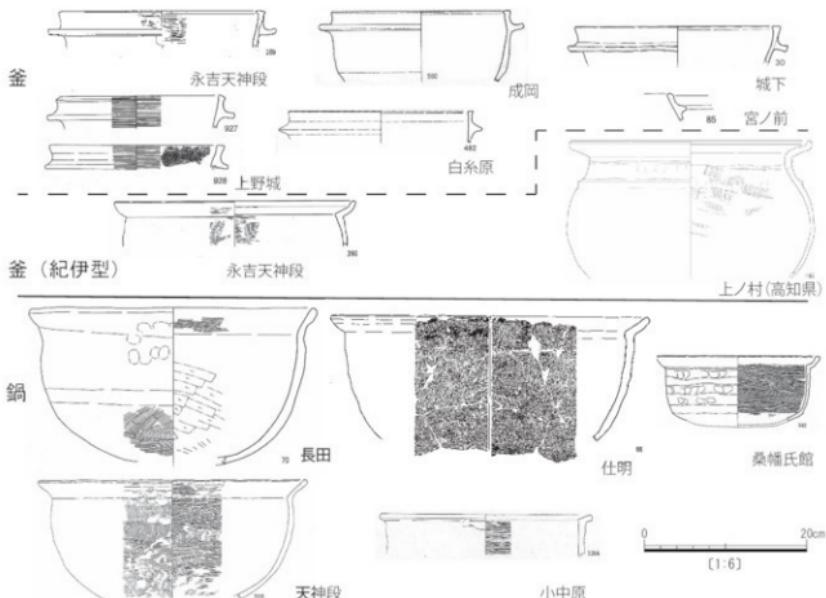


第160図 中世前半期土製煮炊具分布図

第32表 鹿児島県内の土製煮炊具

釜	番号	遺跡名	所在地	時期	備考	色調
1	1	永吉天神段	曾於市大崎町永吉字天神	13世紀後葉頃	紀伊産土師質釜	
2	2	成岡	鹿児島市中央町直良町字成岡	12世紀後半～13世紀（近世？）	羽釜・滑石製石鍋も出土	白色
3	3	城下	鹿児島市中央町字城下	中世後半	羽釜	白色
4	4	上野城	鹿児島市百済町字上野城	中世前半	羽釜・2点出土	黒色・淡黄色
5	5	白石原	さつま市金峰町大字宮崎字白石原	13世紀後半の瀬戸瓶子も同一追廻内出土	羽釜・古道（溝状機）内から出土	灰白色
6	6	宮ノ前	鹿児島市さつま町求名字宮ノ前	土師質・瀬戸前期Ⅲ～Ⅴ期（中世前半）か	羽釜・瀬戸おろし瓶出土・東海系か	茶褐色

鍋	番号	遺跡名	所在地	時期	備考	色調
I	1	長田	志布志市有明町原田字長田	12世紀後半～13世紀前半	2号土鍋・玉縁白鍋と供伴	褐色
II	2	仕明	志布志市有明町蓬原字仕明	12世紀後半	16・17号土壙において青白磁合子と供伴	褐色
III	3	天神段	曾於市大崎町野方字天神段	13世紀	土坑墓1号出土・同安窯青釉鍋等と供伴	褐色
IV	4	桑幡氏館	鹿児島市隼人町神宮二丁目	13世紀（同一遺構内出土の土師器の年代観から）	8号土坑内出土	
V	5	小中原	さつま市金峰町大字岳山字小中原	中世後半か		



第161図 鹿児島県出土の中世前半期土製煮炊具

第3節 近世について

1 遺構

近世の遺構は、第2地点の中央微高地周辺と、西側微高地の南側斜面及び西側斜面上に点在する。

(1) 溝狀遺構

近世の溝状造構1～3・6号の4条は概ね北東～南北方向に軸をもち、溝状造構4・5号の2条は、これに直交する方向の軸をもつ。第2地点を北西から南東に通じる現道と集落各戸の区画は、これを基軸としているようにも見える。溝状造構4号は、中世末～近代まで利用されていたと考えられ、中世後期の溝状造構も概ね似た軸をもっていることから、本遺跡一帯では、中世のある時期以降、この基軸が意識されていたと考えられる。

(2) 土坑墓

J-26区では、土坑1基と、いずれも人骨と六道銭と考えられる古銭を伴う平面円形の土坑墓5基が、密集して検出された。六道銭は全て寛永通寶で、土坑墓1号は6枚、土坑墓2～5号は7枚が出土した。いずれも「文」字をもたない新寛永（铸造期間は1697～1712年）を主体とし、土坑墓1・3～5号は寛永13年（1683）铸造開始の古寛永を、土坑墓1・2・4・5号は寛文8年（1668）

铸造開始の背文銭を、土坑墓1・3号は背文銭と同時期の文無背銭を、土坑墓4号は寛保年間(1741~44)铸造の背元銭を含み、元文4年(1736)铸造開始の铁钱は出土しないことから、概ね18世紀前半の銭貨流通状況を反映した土坑墓群と考えられる。このうち、土坑墓2・4号との切合い関係から土坑墓5号が最も古く、背元銭が出土した土坑墓4号が最も新しい可能性があるが、他の新旧関係は不明である。いずれも18世紀前半~中頃の土坑墓と考えられる。

いずれの土坑墓も木棺の痕跡を確認できなかったが、人骨の残存状況から、木棺内の空間が保たれている段階で頭骨が朽ちて棺底に落下したと考えられる。早桶タイプの木棺に座葬された成人の可能性が高いと推測され、土坑墓1・5号は西向き、土坑墓2号は北向きの座葬であったことがわかる（鹿児島女子短期大学下野真理子手稿教示）。本県近世墓の発掘調査成果によれば、平面円形の墓壠の場合は、遺体収納容器の平面形も円形の桶型木棺が想定でき、大隅半島ではこの組み合わせが多いとされる（藤井2013）。本遺跡第2地点で検出した近世土坑墓も、同じ傾向にある。

2 遺物

(1) 陶磁器

肥前系の陶磁器には、16世紀末～17世紀前半の陶器皿、17世紀後半～18世紀前半の陶器碗、18世紀代の磁器皿、18世紀中頃～19世紀前半の磁器碗・筒型碗がみられ、近世の全時期を通じて、肥前系陶磁器が流入している。

龍門司系の薩摩焼では、外底面まで施釉された古手の碗や、徳利、灯明皿が出土した。

苗代川系の薩摩焼には、18世紀前半以前の壺・甕類の底部、18世紀前半～19世紀にかけての壺、18世紀後半の鉢類などの他、从具もみられる。17世紀後半～18世紀前半頃の徳利のなかで堂平窯産の可能性をもつものや、18世紀後半～19世紀の土瓶に、注口内側が1つ穴のものがみられ、用途による使い分けがみられる。

(2) 寛永通寶

土坑墓5基から、六道銭34枚と包含層から出土した4枚の計38枚の寛永通寶が出土した。寛永通寶の法量による分類（高橋2001、川根・石川・植木2005）を参考に、本報告掲載寛永通寶を分類した。

掲載古銭のうち、鑄字体からA：古寛永（1053、1066～67、1075、1082、1088）、B：背文銭（1056、1060～61、1077、1087）と判断される古銭11枚は、いずれも、この法量と合致している。E：背元銭1枚（1079）を除く、残る26枚の古銭を錢径・錢厚・重量で分類すると、Bと同時期のC：文無背銭は3枚（1054、1058、1069）。D：元禄～正徳期の新寛永は19枚（1055、1057、1059、1062～64、1068、1071～72、1076、1078、1080～81、1083～84、1086、1234～36）の22枚が合致する。鑄字では新寛永にみえる3枚（1065、1070、1085）は、錢径がAのみに合致する。また、1237は、錢径・重量がAに合致するが、各分類の法量を超える1.8mmの錢厚を測る。この4枚を除く出土古銭34枚は、17世紀半ば～後半の50年間に铸造されたA・B・Cの型が14枚、18世紀前半頃の50年間に铸造されたD・Eの型が20枚となる。

鉄製・真鍮製の寛永通寶が铸造されるようになる近世後期の銭貨が見えず、土坑墓は18世紀前半～半ば頃の時期にとどまっている。近世陶磁器は、17世紀代は少数で、大半が18世紀代のものと考えられる。調査対象範囲では住居跡等の遺構が検出されていないが、今回発掘調査された遺構・遺物からは、18世紀代が調査対象範囲における集落の中心的な時代と考えられる。

第4節 永吉天神段遺跡周辺の歴史的環境

1 永吉天神段遺跡所在地について

(1) 档ヶ山（まとがやま）

本遺跡は、曾於郡大崎町永吉の小字天神の台地に所在するが、一帯は档ヶ山と呼ばれる。地名の由来は不詳だが、参考までに大修館書店版「大漢和辞典」で「档」の字義を調べると、一こしかけ、木の名のほかに、二ふち、文書の意味があり、参照語の「档案」には、官署の案文書、官署の記録である。地名に用いられるのは珍しく、同書には当地「档ヶ山」が特記される。字義との関連は確かめられないが、第1地点の古代集落には識字層の存在が指摘されている（埋査調査セ2016）。また、第2地点F-44区土層断面における植物珪酸体分析では、IVa層時期にはシイ属などが生育する照葉樹林が広がっていたことが推定されるが、IIIa層時期にはイネ科植物の生育に適した定期的な刈り取りや火入れなどの人為的な植生干渉がなされていた可能性がある（埋査調査セ2017）。档ヶ山の地名の由来として、前記の字義や、マテバシイ等の植生分布の可能性をあげておく。

(2) 天神

所在地の字「天神」については、周辺に天満宮に関するものは見当たらず、祇迦・觀世音・阿弥陀を神体とする前述の彦三所大権現が所在する（『大崎名勝誌』）。筑豊境の英彦山神宮は天孫が下った地とされ、アメノオシホミミノミコト・イザナギノミコト・イザナミノミコトを祭神とするが、その本地仏は祇迦・千手觀音・阿弥陀如来である。天神には、いわゆる天満宮の天神の意のほか、天神地祇の天津神の意味の天神がある。档ヶ山の小字天神は、彦三所大権現の神体が垂迹した天津神に関連するものととらえておく。

(3) 永吉

大崎町永吉は、大崎町南部の持留川右岸を指すが、南北朝期の正平十四年（1359）島津氏久寄進状には「日向国救二郷永吉東方比志田内頭屋敷二ヶ所」と見え、永吉に隣接または包含される比志田に地頭屋敷が所在している。比志田は現在の大崎町菱田と思われ、近隣には領家、春日島などの近衛家領島津荘所縁の地名があった（『大崎町史』）。薩摩国では「永吉名」＝「地頭名の各郡散在名」と考えられる（水上1955）。鎌倉時代末に救仁院・救仁郷地方の地頭代官として志布志宝満寺に所領を寄進する源太資清は、北条残党等による建武元年（1334）「島津庄日向方南郷瀧助狼藉謀叛人等交名」の、鎌倉幕府最後の執權である赤橋守時家人の救仁郷源太（「薩藩旧記録」）と考えられる（五味1967）。大崎町永吉は、南北朝以前に、島津荘日向方惣地頭である赤橋系北条氏の地頭名であった可能性がある。

(4) 救仁郷（くにごう）

大崎町は、近代以前には大隅国ではなく、日向国諸県

郡救仁郷（教二郷）に属した。この状況は「建久岡田帳」に日向国諸郡の鳥津莊一円莊として救仁郷160町が見え、中世前期までさかのばる。中世史料には、救仁郷内に蓬原・比志田・飯隈・益丸・永吉が見え、鹿児島県志布志市と大崎町の境を南流する菱田川を境に、右岸は救仁郷、左岸は救仁院（教二院）に分かれていた。

東九州自動車道（志布志IC～鹿屋串良JCT間）建設に伴う発掘調査対象遺跡としては、見島遺跡・安良遺跡・小牧古墳群・次五遺跡・木森遺跡が教仁院・春日堀遺跡・平良上C遺跡・宮脇遺跡・荒園遺跡・永吉天神段遺跡・京の塚遺跡が教仁郷に該当する。

教仁院・教仁郷は、日向国の律令郡郷名に見えず（「倭名類從抄」）、日向国の古代駅名に「救仁」がある（「延喜式」）が、古代駅路の西海道の推定経路から志布志湾岸は離れており、駅名「救仁」と、大崎町の「教仁郷」を関連づけることは難しい。教仁郷は平安時代後期の郡郷制の改編を経て定着した郷名の可能性がある。全国的には、■●四■●郡■●郷と、国郡郷名が一致する例が散見するが、その変化例として、「クニ」郷が考えられる。教仁郷が、日向国日向郡日向郷と称されていたとは考え難く、中世以降に地名が失われた大隅国大隅郡大隅郷が比定される（平田1993）。

本来、大隅国にあった教仁郷は、平安時代後期の郡郷制改編を経て、日向国諸郡に移管された可能性がある。平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて、教仁郷・教仁院の弁済使等に薩摩平氏の教仁院・安楽氏が知られ、近隣の櫛間院（宮崎県串町城）や大隅国肝属郡等の鳥津莊内の弁済使等と互いに姻戚關係を築いていた（「藤瀬旧記雜録」「備忘錄抄」「肝付系図」「櫛間院本主次第手綱系図」）。教仁郷・教仁院が大隅国から日向国へ移管されたものであれば、その契機は、万寿三年（1026）に平季基によって立葬された鳥津莊の成立・拡大と関連するものと考えられる。

2 遺跡と文献資料から見る中世前期の志布志湾岸

中世前期には、薩摩平氏系の教仁院氏・安楽氏に代わり、教仁院に伴姓安楽氏、教仁郷には志布志市有明町蓬原を拠点に伴姓教仁郷氏など、肝付氏族が見える。中世遺構・遺物が豊富な川久保遺跡（鹿屋市串良町細山田）は肝付氏族北原氏の本貫地に隣接するが、北原氏は教仁郷氏から分出し、後に安楽氏から養子を迎えたと考えられ（「東串良町郷土史」）。菱田川から串良川の間で、教仁郷氏が活動していたと考えられる。日向・大隅両国の守護職と鳥津莊懸地頭職は、島津氏から北条氏一門に移り、教仁院宝満寺（志布志市）や柏原別府（肝属郡東串良町）を通じて種子島に至る航路・港湾権益を北条氏が握る（松尾2012）とともに、北条氏地頭代らの在地権益への浸食がみられる。志布志湾岸一帯で活動した北条氏の地頭代

や被官らは、南九州外から進出した者（大隅懸地頭名越系北条氏の地頭代肥後氏・布施氏・門貫氏、鹿屋院地頭代津野氏、櫛間院地頭代と考えられる河野氏または阿野氏や野辺氏等）や、もともと鳥津莊弁済使などの在地勢力の庶流から被官化したと考えられる者（教仁郷源太、教仁郷弁済使宗頼、教仁院國師馬入道道西）がみられ、在来の弁済使らとの争論が繰り返されている。

中世後期以降、近世に至る教仁郷氏は、源姓を名乗っている。肝付氏族の系図によれば、伴姓教仁郷初代兼綱が養子を得て、その子孫は代々「宗」を字とする（「伊地知季安著作集・肝付系図」）としており、源姓と考えられる教仁郷源太や弁済使宗頼は、この系統にあたるかもしれない。教仁郷氏の系譜の交替あるいは仮冒がみられ、肝付氏から離れていく。南北朝期には、本遺跡南方の胡麻ヶ崎城（曾於郡大崎町狩宿下）に後醍醐天皇近臣の千種忠顕の館堂が入城したり、信濃国に由来すると考えられる楢井頼仲が志布志湾岸で活動したり、熊野水軍の南九州渡來などの争乱を経るが、その後は、南九州以外からの外來勢力の進入・定着はみられなくなる。広域流通品ではない紀伊産の土師質釜の出土南限を、高知県から南下させた本遺跡における出土例は、このような鎌倉・南北朝期の人の往来を念頭に検討する必要がある。後の日明貿易で埠を拠点に細川氏が活用する、紀伊半島から南九州に至る太平洋岸航路は、1340年代には既に存在していた（総貫2010）。

本県や宮崎県では、湖州鏡の出土遺跡や奉納伝世された神社は、河川流域や周辺に水田をひかえた共通点があり、平安時代から鎌倉・室町時代にかけて、ある程度の政治力や経済力をもつ勢力の存在が想定でき、彼らが12世紀には宋法思想を受容して湖州鏡を副葬したとされる（上村1994）。

また、紀伊産の土師質釜が出土した高知県上ノ村遺跡は、中世都市高岡町を支える13世紀の仁淀川下流域の川津機能を果たしていた（出原2010）。本遺跡では、第1地点の識字層と関わる古代集落、第2地点では、12世紀と考えられる中世土坑墓2号副葬の湖州六花鏡、鎌倉時代の太平洋岸の交易を推定できる紀伊産の土師質釜のほか、青磁・白磁・中国製壺や東海・播磨・備前産陶器の出土など、遠隔地との交流を行う政治・経済力を有する人々の存在が想定される。

近年の発掘調査の成果によって、従来不明瞭であった、大隅半島北部の中世の様相が、垣間見えてきている。郡元西原遺跡（宮崎県都城市）では、島津莊成立・拡大期の莊政所に関連すると想定される大溝が検出されている（現地説明会）。島津莊政所の莊務を預かる藤原姓富山氏の一族富山勾当安兼が百引村弁済使に補任（承安五年八月十四日付及び安元元年十二月日付「富山氏文書」「藤瀬旧記雜録」前編卷一）された地の新田遺跡（鹿屋市輝北

町百引)、その南東約6kmの天神段遺跡(大崎町野方)では、古代・中世の遺構・遺物が豊富に発見され、大隅半島の南北方向や志布志湾との交通上の要衝の遺跡として注目されている。

本遺跡は、新田遺跡から天神段遺跡を経て、県道64号線で志布志湾へ向かう途上の持留川の対岸に所在する。大隅半島で古代駅路の存在を想定することは難しいが、今後の志布志湾岸など大隅半島各地の発掘調査成果の増加とともに、文献史との整理検討を進める中で、伝路などの古代交通路や鳥津莊内の交通路・港津施設の復元が深化されることで、本遺跡の志布志湾での古代・中世史的位置づけの理解が深まると考えられる。

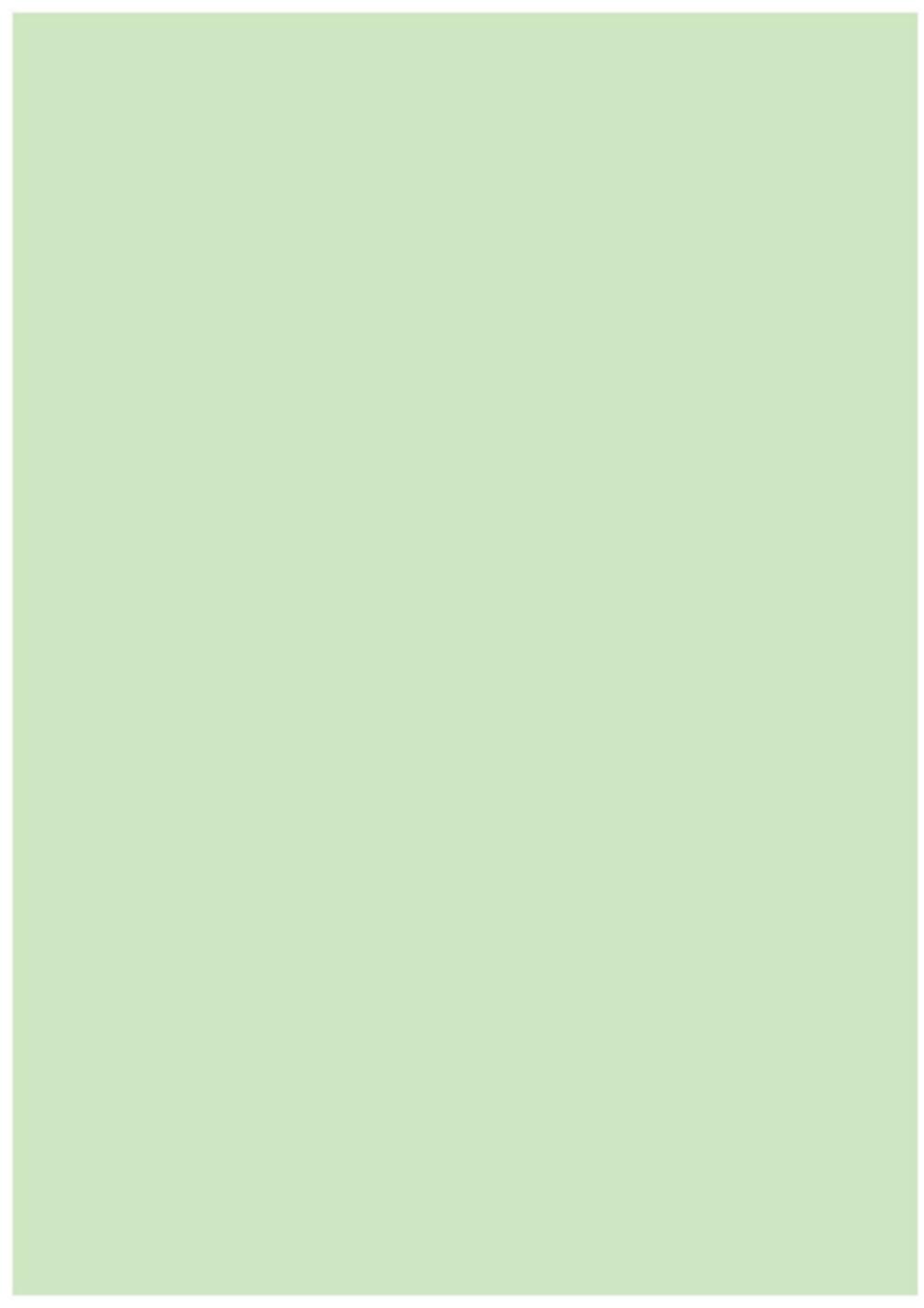
主な整理・報告書作成作業協力者(敬称略 50音順)

池澤 俊幸、北野 隆亮、斎木 崑、佐藤 亜聖、柴田 圭子、原田 昭一

引用・参考文献

- 有川孝行 2004「油須木城跡」郡山市埋蔵文化財発掘調査報告書 第4集
- 池澤俊幸 2010「南四国に搬入された中世土器・陶磁器と海運」「中世土佐の世界と一条氏」市村高男編
- 池澤俊幸 2013「南四国・仁淀川流域の遺跡と水運」「中近世土器の基礎研究」25 日本中近世土器研究会
- 石野弥栄 2015「鎌倉～南北朝期河野氏の遠隔地所領支配」「中世河野氏権力の形成と展開」
- 出原恵三他 2010「上ノ村遺跡I」(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター発掘調査報告書第107集
- 上田真 2004「鹿児島県における中世煮炊具の様相」「研究紀要・年報 糸文の森から」第2号 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 小野信彦 1990「傘下道路」北方町文化財報告書第1集
- 鹿児島県教育委員会 1983「成岡・西ノ平・上ノ原道路」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書第28集
- 鹿児島県文化振興財團埋蔵文化財調査センター 2017「永吉天神段遺跡2 第2地点-1 旧石器・縄文時代編」(公財)埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(13)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2002「鍛冶屋馬場遺跡」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第39集
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003「袖元・城下道路」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第57集
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2009「市ノ原道路(第3地点)」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書第140集
- 上村俊雄 1994「南九州出土の湖州鏡について」鹿児島大学法文学部紀要「人文学科論集」第39号
- 川根正教・石川功・植木真吾 2005「寛永通寶銅錢の形態的特徴と金属成分分析」「日本考古学」第20号 日本考古学協会編
- 北野隆亮 2006「和歌山平野における瓦器の分類と変遷—紀伊型瓦器の認識とその評価—」「紀伊考古学研究」第8号
- 北野隆亮 2006「紀伊型瓦器の編年と分布」「中近世土器の基礎研究」第XX号 日本中世土器研究会
- 霧島市教育委員会 2006「桑幡氏航跡」II
- 鹿児島県文化振興財團埋蔵文化財調査センター 2016「永吉天神段遺跡 第1地点」(公財)埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(8)
- 五味克夫 1967「鳥津庄日向方救二院と救二郷」「日本社会経済史研究」古代中世編 寶月圭吾先生還暦記念会編
- 五味克夫 1994「志々目家文書の再考察」「鹿児島女子大学研究紀要」Vol.15-No.2
- 阪本敏行 2011「無野水軍 中世前期を中心として」「海の熊野」森話社 谷川健一・三石学編
- 櫻井卓也・小中美幸 2016「鍋被り葬研究の成果と新発見例」「日本考古学協会第82回総会 研究発表要旨」一般社団法人日本考古学協会
- 薩摩町教育委員会 2001「寺屋敷遺跡・通山遺跡・宮ノ前遺跡・大木屋遺跡」薩摩町埋蔵文化財調査報告書第3集
- 高橋理彦 2001「近世貿易の生産と品質規格－寛永通寶と長崎貿易銭の法量計測的研究－」「奈良国立博物館研究紀要 鹿園雑集」第2・3合併号
- 出口順一郎・堂込秀人 2003「長田遺跡」有明町埋蔵文化財調査報告書(2)
- 徳永直紹 2009「肥前に於ける中世前期の畿内系土器煮炊具」「新東見一代代表記念論文集 南の純文・地域文化論考」中巻 南九州純文研究会新東見一代代表記念論文集刊行会
- 横口亘 2006「鹿児島県出土の備前焼」「備前歴史フォーラム 備前焼・海の道・夢フォーラム 2006—備前焼の歴史と未来像をもとめて—」備前市教育委員会・備前市歴史民俗資料館
- 平田信芳 1993「古代の大隅地域－大隅郡の境域と日向への道－」「歴史の道調査報告書 第5集 大隅地域の道路」鹿児島県教育委員会
- 藤井大祐 2013「発掘調査事例からみた鹿児島県域の近世墓」「鹿児島考古」第43号 鹿児島県考古学会
- 松尾剛次 2012「中世觀音教団の薩摩国・日向国・大隅国への展開－薩摩國泰平寺・日向國宝満寺・大隅國正国寺に注目して－」「山形大学人文学部研究年報」第9号
- 水上一久 1955「南北朝内乱に関する歴史的考察－特に薩摩・大隅地方について－」「金沢大学法文学部論集哲学史学篇」
- 緒貴友子 2010「中世の太平洋海運」「海事博物館研究年報」38

写 真 図 版





溝状遺構3号とその周辺（北西から）



G~I-42・43区 遺物出土状況（北西から）



鉄製品(1029) 出土状況 (F-41区)



J・K-28~30区 遺物出土状況と溝状遺構8号 (西から)



石鍋転用品(984) 出土状況 (E-32区)



掘立柱建物跡5号とその周辺（西から）



I・J-27~30区境 南面土層とその周辺（南から）



黒色土師器（381）出土状況（F-31区）



J・K-25・26区 中世遺構と近世墓群（東から）



青磁碗（581）出土状況（E-28区）



アカホヤブロック・礫出土状況（南東から）



土層（南西から）



南側の横穴（北から）



軽石出土状況（北東から）



完掘（北東から）



1号（西から）



2号（北西から）



3号（北東から）



4号（北東から）



5号（北東から）



6号



7号（南から）



8号（東から）



掘立柱建物跡 9号（西から）



掘立柱建物跡 10号（南東から）



土坑 1号の検出状況（南西から）



土坑 1号（南西から）



土坑 2号（南東から）



土坑 4号（北西から）



土坑 3号の遺物出土状況（南東から）



土坑 3号（西から）



5号（南東から）



6号（南西から）



7号（南東から）



8号（西から）



9号の土層（西から）



9号（西から）



10・11号（西から）



12号（南から）